

富山大学  
国際交流  
センター

# 紀要

第3号  
2016年12月

## 目 次

### I 論文

《特別寄稿》

判官びいきの義経、殉教者のアルフサイン

— その“最期”の間に揺れる日本人とシーア派の捉え方の違い —

……………アハマド・M・F・M・ラハミー 1

ライティング・ワークショップの実践と評価

— 留学生別科生を対象として —

……………田中 信之・浅津 嘉之 9

〈実践・調査報告〉

ワークシート、カード、タブレット端末を用いた漢字学習教材の開発

— 日本語学習者間のグループ練習活性化のために —

……………濱田 美和・高畠 智美 25

### II 年報（2015年4月～2016年3月）

- 1 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 …………… 35
- 2 日本語プログラム …………… 44
  - 日本語研修コース …………… 45
  - 日本語課外補講 …………… 56
  - 総合日本語コース …………… 76
  - 日韓共同理工系学部留学生プログラム …………… 83
  - 日本語学習サイト RAICHO …………… 85
- 3 国際交流センター関連行事 …………… 86
- 4 国際交流センター教員等担当業務 …………… 90

### III

資料 …………… 93



富山大学国際交流センター

# 紀要

第3号

2016年12月









# 判官びいきの義経、殉教者のアルフサイン — その“最期”の間に揺れる日本人と イスラム教シーア派との捉え方の違い —

アハマド M. F. M. ラハミー

## “Pitted and Cheered Yoshitsune” and “the Martyr Alhussain”: Differences of View Points between Japanese and Shiites Regarding their Tragic Ends

AHMED M. F. M. RAHMY

### 要 旨

1189年に本州北部の奥州衣河で、源義経は庇護者に裏切られ自害を余儀なくさせられた。それより数百年さかのぼった西暦680年の秋に数千キロメートル離れたイラク南部の砂漠地帯の“カルバラー”というオアシスで、預言者モハマドの孫アルフサインが庇護者のイラク人シーア派に見捨てられ敵の兵に惨殺されてしまった。義経とアルフサインとは全く縁もゆかりもない二人の有名な歴史上の人物であるが、両者とも味方に裏切られ見捨てられ怨念を抱いてこの世を去ったという点においては共通している。日本ではこの悲劇の対象になった義経は“可哀想”と思われ“判官びいき”というイメージに留まる。そして、その悲劇は文学あるいは芸能という“柔らかな”イメージに過ぎなかった。一方イラクでは、イラク人はアルフサインを裏切ったことを重大な罪だと認識し今日に至ってなお“自虐祭”という血なまぐさい催しで毎年償いつづけている。国民性の違いで、両人物の悲劇に向き合う表現の仕方が違って来たのであろうが、果たしてこれで義経の亡霊が浮かばれると言えるのであろうか。

【キーワード】 判官びいき, アルフサイン, 衣河, カルバラー, つぐない

### 1 緒言

西暦680年10月のある日、イラク南部砂漠地帯の“カルバラー”というところでイスラム教徒にとって忘れることのできない悲劇が起きた。預言者モハマドの孫アルフサインがカリフとして即位したばかりのヤズイードの軍勢の手によって残酷なやりかたで殺されてしまった。そのとき、味方だったはずのイラク南部の人たちは遥々アラビア半島のイスラム教の発祥地たるマッカ<sup>1)</sup>から彼らの庇護や応援を信じてやってきたアルフサインを見捨ててしまったのである。そして、シーア派の中心を成すイラク南部のイラク人や西アジアの他のシーア派の人々は今日にいたってもアルフサインを宿敵に売ってしまったその罪を深く認識し償い続けてきているのである。

そして、およそ8400キロメートル離れた地球の反対側とも言うべき、日本の奥州衣川（今の岩手県）で1189年に、かの源義経も悲劇的な死をとげた。実兄の源頼朝が送った数千人に及ぶ軍勢に包囲されてまったく不利な戦の末、家来15、6人とともに義経は最期を迎えたのである。

アルフサインと義経とは全く縁もゆかりもない二人の有名な歴史人物ではあったが、二人とも味方に裏切られ見捨てられ怨念を抱いてこの世を去ったという点においてはまさに共通しているのではないかと思われる。この論文では、アルフサインの悲劇に照らして源義経の最期と“判官びいき”の意味について再検討をしたいと思う。

### 2 アルフサイン・ビンアリと源義経

#### 2.1 アルフサイン・ビンアリという人物について

626年生まれ、680年10月10日に死没。預言者モハマドの孫としてメディナで生まれた。父は預言者

モハマドの従兄弟アリ（四代目のカリフ）と預言者モハマドの娘ファーテマとの間に生まれた次男であった。兄アルハッサン（五代目のカリフ）が死んでから679年にマッカに向かい、そこで六代目のカリフとして名を挙げられたが、同時にダマスカスではライバルのヤズイードも六代目のカリフとして名が挙げられたのである。間もなくしてアルフサインは、イラク内部のカルバラーに集まったモハマド家支持派のシーア派に誘われ庇護を約束された。それを受けて680年の夏、アルフサインはわずか80人の家来や身内を連れて、真夏の太陽が照りつけるアラビア半島の砂漠イラク南部のカルバラーに向かって旅立った。しかし、その情報を知ったライバルのヤズイードは3000人の兵力をカルバラーへ送り込みアルフサイン一行を待ち伏せ襲撃させた。負傷したアルフサインは敵兵の手に落ち、三日間の拷問の末その首を切り落とされたのである。アルフサインを擁立するはずだったイラク南部のシーア派は、結局彼を見捨ててしまうという結末となってしまった。アルフサインの生首やアルフサインの妻や子どもたちはダマスカスに送られた。

## 2.2 預言者死後のカリフ権の争いとアルフサインの苦難

預言者モハマドが西暦632年に亡くなってから、カリフ制度が生まれたが、そのときマッカではモハマドの跡継ぎを巡って信者たちの意見は真々二つに割れてしまった。これは、預言者の親友たるアブバクルの名を挙げる声と預言者の従兄弟アリを祭り上げようとするいわゆる“血縁主義者”たちの声であった。結局、前者の意見が通り、アブバクルは最初の後継者すなわちカリフとして誕生した。その後はこのように亡き預言者の周辺にいて仲の良かったオスマンとオマルが順番にカリフの座を受け継いでいった。そして四番目のカリフとしてやっと預言者の血を引いた従兄弟のアリが656年にカリフの座に就いたのであるが、アリは間もなくイラクのカルバラーで殺害された（661年）。そのときイスラム帝国は大きく広がっていた。預言者モハマドには息子がいなかったため、預言者の孫（娘ファーテマの息子）で従兄弟のアリの長男であるアルハッサンが預言者血縁主義者の応援に押されてカリフの座に就いたものの、シリア総督のムアーウイヤが同じタイミングで自らが新しいカリフであると名乗り出てハッサンとの戦いに挑んだ。イスラム帝国の分離の危機を察知したハッサンは、イスラム教徒同士の殺し合いを避けるためにカリフの座をムアーウイヤに譲り、ムアーウイヤと約定を結んで、メディナへと身を引いた。

しかしモハマド家の支持者、つまりモハマドやアリの血縁主義者たちはその約定に対して難色を示し納得しなかった。不満を抱いた彼らはムアーウイヤの没後、モハマド家の主導権を主張し、すでに亡くなったハッサンの弟アルフサインのことを次代カリフとして強く求めた。しかし、死んだムアーウイヤの長男ヤズイードは自ら新しいカリフとして名乗り出、メディナやマッカにいるアルフサイン支持派と衝突したのである。

## 2.3 源義経について

1159年生まれ、1189年6月に死没。父源義朝と母と常磐御前との間に生まれた。義朝の九男として生まれ、幼少の頃は“牛若丸”と呼ばれた。父義朝が平家の兵士の手によって殺されてから、母に連れられて平家頭領の平清盛のもとで育てられた。7才のとき、京都郊外の鞍馬寺に預けられたが、父の仇討ちを煽られ鞍馬山を脱走し金売り吉次に案内されて平泉に向かった。兄頼朝に再会してから平家打倒のため源氏兵力の将軍となった。一の谷、屋島、壇ノ浦の一連の合戦を経て平氏を滅ぼした。しかし、頼朝の許可も得ずに後白河法皇に検非違使に任じられ、家来の梶原景時の讒言のために頼朝の怒りを買って、朝敵とされてしまった。全国指名手配の身になったが、16人の家来を従えてうまく奥州に辿りついた。そこで奥州藤原の頭首藤原秀衡の庇護を受けた。しかし秀衡が死ぬと跡継ぎの泰衡に裏切られ衣川で無残な最期を迎えてしまった。

### 3 イスラムの歴史における“旅”と日本の神話、歴史における“旅”

イスラムの歴史においては“旅”というのは重要で基本的な要素を成している。何より、イスラムの基本的な修行の一つである巡礼は、イスラム世界各地から聖地マッカへの長い旅で始まるのである。強いて言えば、聖地マッカへの旅が長ければ長いほど苦しければ苦しいほど、そして道が険しければ険しいほどその分の徳が大きいということである。

イスラム暦の起りも実は預言者モハマドのマッカからメディナへの逃避行がきっかけであった。預言者モハマドはマッカの人々のいじめや拷問を逃れ親友のアブバクル（モハマド死後の最初のカリフ）を連れて照り付く日差しのもとで灼熱のアラビア半島の砂漠を横断して、長い旅の末メディナにたどり着いた。旅の途中で身の毛の逆立つような試練をいくつか潜りぬいた。預言者の孫アルフサインもあれから数十年経ってからマッカから西の方向にあるイラク南部のカルバラーを目指して70人の家来や身らの女房たちや子供たちを連れて長い旅をした。

日本の神話や歴史を振り返ってみた場合、色々な形や目的の旅があったことがうかがわれよう。オオクニヌシノミコトの因幡の国への旅、ヤマトタケルノミコトの相模の国への旅、光源氏の須磨への旅、玉鬘（たまかづら）の長谷寺への旅、在原業平の東の国への旅、山伏の修行の旅そして源義経の奥州への旅などである。

### 4 アルフサインのカルバラーへの旅と義経の奥州への旅

アルフサインのカルバラーへの旅と義経の奥州への旅の共通したところは、両方とも死への運命の旅だったところにあり、信用し切った庇護者に裏切られ見捨てられたしまうための悲しい運命への旅というところに他ならない。

#### 4.1 アルフサインのカルバラーへの旅

前述したように、カリフの座を巡る取り合いでアルフサイン・ビンアリ支持派とダマスカスにいたヤズィード・ビン・ムアウイヤの支持派との小競り合いや衝突が繰り返された。そのような中、アルフサインはイラク南部の支持派に誘われマッカを離れてカルバラーに向かったのである。その道中においては様々な出来事があった。

アルフサインはカルバラーの人々から数百通の手紙を受けて支持や応援を約束された。そこでアルフサインはカルバラーの状況を探るために従兄弟のムスリム・ビン・ウカイルを先に送り込んだ。ムスリムがカルバラーに着くとカルバラーの住民に手厚くもてなしを受けた上、18,000人ぐらいのアルフサイン支持派の集会に出席した。その集会ではヤズィードへの謀反とアルフサインの擁立が声高く叫ばれた。これを受けてムスリムは早速アルフサインにゴーサインを打診した。それでも、アルフサインの周囲にいた友人たちの多カルバラーアルフサインのカルバラー行きに対して警戒心を抱いていた。しかしイラク人の忠誠心を信じ込んでいたアルフサインはその周囲の反対を押し切って旅立ちを決心した。

そのころはすでにカリフの座に就いたヤズィードの耳元にはマッカの情報が入っていた。ヤズィードは先ず、カルバラーの謀反を黙認したカルバラーの代理ノーマン・ビン・バシールを引き摺り下ろし、そして次にカルバラーの部族長たちに警告を送った。そこでカルバラーの人たちは手のひらを返すようにアルフサインへの支持をあっさりと諦め、アルフサインの従兄弟ムスリムに背を向けてしまったのである。結果として、間もなくムスリムはヤズィードの追っ手に捕えられ無残に殺されてしまった。この情報を知らずにアルフサイン一行はすでにマッカを離れてカルバラーに向かっていた。旅の途中は、アルフサインとその一行は何人かの支持派に道中のオアシスに泊めてもらい手厚くもてなされ、そしてついにイラクの地に入ったころ、従兄弟ムスリムが殺害されたことを知らされた。しかし、この情報を信じようとしないアルフサインはそのまま旅を続けてしまったのである。アルフサインは内心ヤズィード支持派や軍勢との衝突をできるだけ避けようと思っていたと言われ、実はカルバラーを目の前にしたア

ルフサインは薄々と身の危険を察知していたのである。

## 4.2 義経の奥州への旅

### 4.2.1 義経の旅の始まり

一方義経は、壇ノ浦の大勝利による平家絶滅の結果、数千人の兵士たちの間で圧倒的な人気を博した。壇ノ浦の海戦の際、義経は兄頼朝の家来の梶原影時と作戦をめぐって意見衝突をした。これが世に言う“逆櫓事件”のことである。意見を無視された梶原は義経に対して反感を抱き、主人の頼朝の耳元に義経の傲慢ぶりを囁き頼朝を煽ったのである。

院内の見参に入ってから、去ぬる元暦元年に検非違使五位尉になり給ふ。太夫判官、宗盛親子具足して、腰超に着き給ひし時、梶原申しけるは、「判官殿こそ大臣殿父子具足して、腰超に著かせ給ひて候なれ。君は如何御計らひ候。判官殿は身に野心を挟みたる御事にて候。(中略)。天に二つの日なし。地に二人の王なしといへ共、此後は二人の将軍やあらんずらん」と仰せ候ひしぞかし。

これは“梶原影時の讒言”で知られている事件である。義経はまた京都に凱旋して、後鳥羽天皇と後白河法皇に褒められた上、検非違使の別当に任命された。そのときからこの職名に因んで“判官義経”と呼ばれるようになったが、このことを知った頼朝は一層弟義経に対して危機感を抱いた。その一方で義経は、兄が自分を恨んでしまっているという内容の情報が耳に入り、心中泣くに泣けない気持ちであったことは容易に想像がつく。せっかく長い苦労の末、兄弟が力を合わせて宿敵の平家を滅ぼし事実上源氏が天下を治めたというのに、である。

義経は兄頼朝に自分の忠誠心を証明しようと、いわゆる“起請文(きしょうもん)”を送ったが、頼朝の心中は変わらなかった。結局これで兄弟の仲は絶縁し、敵味方に分かれてしまうことになる。義経追討軍は鎌倉を出発して京都に向かった。この噂が京都中に広まると後白河法皇は公卿会議を開き本件について話し合った。結果として、法皇は時の実力者たる源頼朝につくことを選んだ。これで事実上、法皇は義経を見捨てることにし、一夜にして義経は“朝敵”に変わってしまったのである。法皇がこの事態を黙認する中、頼朝の義経追捕命令は日本全国の関所や寺々に回っていた。関所の番兵や寺々の衆徒を総動員して、義経とわずか16人の義経の側近の家来たちを捕えようというものであった。この時点から義経たちの逃避行の“旅”が始まった。

### 4.2.2 義経の旅の道程

義経に忠実な佐藤忠信は六人の家来とともに頼朝の追っ手を杉山の中で待ち受けながら、義経と同僚を先に逃がした。一方、義経は平泉の藤原秀衡を頼りに北陸の険しい山道を目指した。時はちょうど真冬の雪が降る厳しい寒さであった。義経一行は山伏の姿に変装しゆっくりと北陸道を進んでいった。これは、主導的な立場が変わった弁慶も義経自身も山伏について詳しかったからである。先ず、近江の海津を出て愛発山(あらちやま)の峠を越えた義経一行の前に立ちはだかったのは“三の口関所”であった。

判官は海津の浦を立ち給ひて、近江国と越前の境なる愛発の山へぞかかり給ふ。一昨日都を出で給ひて、大津の浦に着き、昨日は御船に召され、船心に損じ給ひて、歩み給ふべき様ぞなき。

そこには頼朝の命令を受けて300人の番兵が義経一行を待ち構えていた。一行が関所にさしかかると番兵に取り囲まれてしまったが、しかし山伏姿に変装した義経一行はうまく通りぬけた。その後、一行は敦賀や越前の国府を無事に抜け、越中国に入ったとき、一行は船に乗って渡ろうとしたが、舟子に怪



しました。しかし弁慶のはからいによって一行はうまく舟子を騙してこの難を逃れた。そして数日後、念珠（ねず）の関にさしかかった。ここで見破られてしまっただけで済んだのは今までの苦労も水の泡と思った弁慶は番兵の前で主人の義経を殴って一芝居をうった。これにより弁慶は番兵を欺き、一行はまた無事に関所を通ることができた。

義経一行より先に伊勢三郎と亀井六郎という二人の使者が秀衡の元にたどり着き、義経一行がまもなく到着することを伝えると秀衡は大いに喜んだ。一行を迎えるために秀衡は150人の家来を送った。

秀衡判官の御使と聞き、いそぎ対面す。「此程北陸道にかかりて、御下りとは略承り候ひつれども、一定を承はらず候ひつるに依って、御迎ひ参らせず。越後、越中こそ恨みあらめ、出羽国は秀衡が知行のところにて候へば、各々何故御披露候ひて、国の者どもに送られさせおはしまし候はざりけるぞ。いそぎ御迎ひに人を参らせよ」とて、嫡子泰衡冠者を呼びて、「判官殿の御迎ひに参れ」と申しければ、泰衡百五十騎にて参りける。

そして秀衡は義経たちを“月見殿”という屋敷に住ませた。義経とその家来にとっては、これはまるで地獄から極楽に來たような、願ってもない幸せのひとつときであったが、それから三年足らずで、状況は一変してしまうのである。

## 5 アルフサインの最期と義経の最期

### 5.1 アルフサインの最期

カルバラーに着いたとき、アルフサインはカルバラーの人たちが自分のことを見捨ててしまった事実を悟り、身内や子供を集め、泣きながら神の加護を祈った。二日ほど経つとからアルフサインやその一行はヤズィードが送り込んだ数千人の兵力に完全に包囲されていた。アルフサイン一行はそれから四日間に渡って水や食料を絶たれた状態に置かれた。五日目には、アルフサインはヤズィードから一通のメッセージを受けた。その内容は、ヤズィードに従って諦めてマッカに戻るか絶滅されるかのどちらかを選ぶ、というのであった。

しかし、アルフサインそれを拒否すると、アルフサインをはじめ70人の家来は首を切り落とされてしまった。一方、アルフサインの妻や男女の子どもたちは全員奴隷の身になり遥々ダマスカスにいるカリフ・ヤズィードの元へ送られた。その一行の先頭にアルフサインたちの生首が槍の先に刺さったまま持ち上げられていたのである。

### 5.2 義経の最期

平泉に入って約三年の月日が経ったが、義経とその身内や家来は秀衡の元で平和な毎日を過ごしていた。しかし1188年の終わり頃、秀衡は重病にかかってしまった。命はもう長くないことを悟った秀衡は自分の息子たちや娘たちを集め、義経たちのことを今までのように守り続けるよう言い残してこの世を去った。しかし秀衡の遺言は空しく、跡継ぎをした泰衡は義経の存在を厄介なものと思い始めたのである。一方、義経の隠れ場所を知った頼朝は新たに義経追討の院宣をもらい、泰衡に追捕を命じた。その代わり頼朝は泰衡に常陸の国を与えることを約束をした。義経は泰衡の軍勢が押し寄せてくることを待つしか成す術はなかった。そして四月末ごろ、2万人以上の兵は衣河の館へ押し寄せてきた。立ち往生をした弁慶をはじめ、義経の家来たちは次々殺されたり自害したりしていき、ついには義経も自刃して果てた。

兼房目も昏れこころも消えて覚えしかども、「かくては叶はじ」と、腰の刀を抜き出し、御肩を押さえ奉り、右の御脇より左へつと刺透しければ、御息の下に念佛して、やがてはかなくなり給ひぬ。

(中略)判官殿未だ御息通ひけるにや、御目を御覧じ開けさせ給ひて、「北の方は如何に」との給へば、「早御自害有りて御側に御入り候」と申せば、御側を探らせ給ひて、「是は誰、若君にてわたらせ給ふか」と御手差渡させ給ひて、北の方に取りつき給ひぬ。兼房いとど哀れぞまさりける。「早々宿所に火をかけよ」とばかり最期の御言葉にて、こと切れ果てさせ給ひけり。

残った一人の家来兼房は主人義経の妻と若君、生まれたばかりの姫君を刺し殺す。その後、泰衡は義経の首を鎌倉に送り、それから三ヶ月も経たないうちに泰衡をはじめその身内300人以上は、頼朝が派兵した兵に殺され奥州の藤原氏は滅びてしまうのである。

## 6 “殉教者”のアルフサインと“判官びいき”の義経

### 6.1 歴史的存在としてのアルフサインと伝説の義経

アルフサインと義経という二人を比較するに当たって、“英雄”という範疇で比べることはまずできない。というのは、アルフサイン自身は特に武術に優れてはいなかったし、英雄という点においては確かな記録は残っていないからである。アルフサインはその圧倒的な人気を得て、イスラム教徒シーア派の中心的なシンボルとなったのは、彼が預言者モハマドの孫であるにもかかわらず、シーア派に見捨てられ、前述のような無残な死に方をしてしまったからである。

また、アルフサインは歴史的な人物として、その自伝が語り継がれ、史料に書き留められた。しかし義経のようにはっきりとした“伝説”の主人公に作り上げられることはなかった。

反対に、義経は歴史的に実在した源氏の中心的人物であることの他に、れっきとした伝説の主人公・英雄としてその名前が残っている。“義経伝説”や“義経記”という語りや写本の他に、後からあらわれた能楽、歌舞伎、浄瑠璃などの様々な芸能の材料には、史実や虚構の入り交ざった“伝説の義経”がさらに語り続けられている。

### 6.2 アルフサインの最後とシーア派の自虐祭

しかしその代わり、アルフサインの最期を悲しむシーア派の間では“自虐祭”(アシュラ)という大きな祭りが作りあげられた。この祭りは毎年10月10日にイラク南部のカルバラーで大々的に行われる。そこで集まるシーア派の数十万人の大衆はカルバラーやカルバラーの街角を練り歩き、アルフサインの死を悲しむ黒一色の喪服を着て右手で永遠に自らの胸部を叩きながら泣き叫ぶものである。過激的な者たちは鎖やナイフなどで自らの背中や胸や頭を叩いたり切ったりして血まみれになってしまうのである。とてもグロテスクで激しい表現の仕方と言える。しかしその分、彼らのアルフサインに対する深い謝罪の念が含まれているのである。彼らは、自分たちの祖先が1300年以上前にアルフサインを見捨てて裏切った罪の意識に駆られ、代々その償いを受け継いできており、さらに生まれてくる次の世代へと将来にわたって永遠に引き継がれていくことになるのであろう。

### 6.3 “判官びいき”の義経

一方、日本特に義経が殺された東北地方では、このような形の祭りめいた催しなどは行われていないし、義経の最期を悲しみ追悼する儀式などもない。

先述したように、義経はすくなくとも二回にわたって見捨てられ裏切られたのである。一回目は後白河法皇が頼朝の怒りを買わないように義経を捨石同然にしたときである。二回目は奥州の泰衡たちが義経のことを厄介払いにして見捨てて死に追いやったときである。

アウトサイダー的な視点から見れば、これは英雄義経に対する重大な“罪”であろう。日本ではこの悲劇の対象になった義経は“気の毒”で“可哀そう”と思われ、“判官びいき”というイメージに留まっていた。そしてこの悲劇は文学や芸能という“柔らかい”イメージを過ぎなかった。“判官びいき”とい



うイメージができあがったはっきりとした経緯は認められないが、この点において、島津基久(1935)の意見を次のようにまとめることができよう。つまり、源義経は国民の希望と努力によって益々偉大となり、国民はまた自ら作り上げた偉大なる英雄を尊仰して、その感化恩沢を受けようと願うのである。“判官びいき”という話は何時ごろから起こったかは明らかではないが、すくなくともこの言葉に象徴されている精神は、すでにおそらく義経在世中から台頭していたであろうことは想像に難しくないし、室町期にいたっては最早頂点に達し、徳川期にはほとんど常識化してしまっていることも事実である、というのである。

## 7 結語

国民性の違いにより、イラク人のアルフサインの悲劇やその裏切りに対する姿勢や反応は、日本人の義経の悲劇や裏切りに対する姿勢や反応とは決定的に異なっており“激しさ”や“柔らかさ”という対照的な形で表現されたのかもしれない。

しかし、ここで残される疑問は、果たして義経の悲劇はただ単に“判官びいき”の形に片付けられてしまってよいのであろうか、果たしてこの重大な歴史的な事件に終止符を打ち、すました顔でいられるのであろうか、というものである。今後さらに研究を進めていきたい。

## 付記

本論考は、富山大学国際交流センター主催の第2回講演会「帰国後活躍する気鋭の“日本研究”外国人研究者によるシンポジウム」(2016年2月10日(水) 富山大学五福キャンパス)において、筆者が講演した内容をもとに論究し書き下ろしたものである。

## 注

- 1) マッカはアラビア語では、(مكة Makkah ['mækkæ])。日本語でメッカと表記されることが多いが、1980年代サウジアラビア政府は、公式な英語表記を Mecca ['mekə] からアラビア語の発音通りの Makkah ['mækkæ] に改めたこともあり、本稿における表記は「マッカ」に統一した。

## 参考文献

- (1) 『義経記』, 日本古典文学大系, 岩波書店, 1982年.
- (2) 市川孝一, 「Social Type としての「英雄」像・価値意識研究に向けて」(論文)・『一橋研究』第30号・218-234, 1975年.
- (3) 上横手雅敬, 『源義経 源平内乱と英雄の実像』, 平凡社, 2004年.
- (4) 奥富敬之, 『源義経の悲劇』, 角川書店, 2004年.
- (5) 数江教一, 『源義経』, アテネ新書, 1954年.
- (6) 桜井啓子, 『シーア派・台頭するイスラーム少数派』, 中公新書, 2006年.
- (7) 佐々木八郎, 『語り物の系譜』, 笠間書院, 1977年.
- (8) 佐藤謙三・小林弘邦, 『義経記・2』, 平凡社, 1968年.
- (9) 島津久基, 『義経伝説と文学』, 大学堂書店, 1935年.
- (10) 鈴木則郎, 「『平家物語』における源義経像についての一考察」(論文), 『東海大学日本文化研究所研究報告』, 第22集, 1986年3月.
- (11) 関幸彦, 『義経記・伝説に生きる英雄』, 清水書院, 1990年.
- (12) 土橋治重, 『源義経・物語と史跡をたずねて』, 成美堂出版, 1972年.
- (13) 和歌森太郎, 『判官びいきと日本人』, 木耳社(オリエントブックス), 1971年.

## アラビア語の参考文献

- (14) IBN AATHAM, 『ALFUTUH』, DAR ALADWAA PUBLISHING (BEIRUT), 1991.

- (15)IBN ALATHEIR,『ALKAMEL FI ALTAARIKH』, DAR BEIRUT (BEIRUT), 1945.
- (16)IBN ALTAQTAQY,『ALFAKHRY FI ALADAAB ALSULTANEIYA WAL DUWAL ALISLAMEIYA』,  
DAR ALQUALAM ALARABY (BEIRUT), 1997.
- (17)JAWAD MAHDATHY,『ENCYCLOPEDIA OF ASHURA』, DAR ALRASUL ALAKRAM PUBLISHING,  
1997.

#### 引用資料

- 1・『義経記』, 日本古典文学大系, 岩波書店, 1982年, 142～143.
- 2・同上, 317.
- 3・同上, 359.
- 4・同上, 385～386.

# ライティング・ワークショップの実践と評価 —留学生別科生を対象として—

田中 信之・浅津 嘉之

## Writing Workshop in Japanese Language Course for International Students

TANAKA Nobuyuki, ASAZU Yoshiyuki

### 要 旨

本実践では自律的な書き手になること等を目的とし、ライティング・ワークショップ（以下、WWS）を実施した。WWSは書き手の主体性や選択権が重視された教え方で、教師が作文技術等を教える「ミニレッスン」、学習者がテーマ等を決めて「書く時間」、ピアとの「共有の時間」で構成される。本実践のWWSを評価するため、作品の量と質、教師カンファランス、学習者意識から分析した。その結果、①最後の作品は最初の作品に比べ、文字数が多く、最初と最後の作品の評点には差がなかった。②教師カンファランスは学期前半と後半で内容に偏りがなかったが、回数は前半のほうが多かった。③学習者は自己決定できることに満足する一方で、自己管理（時間管理・集中力維持）に難しさを感じていた。これに対し学習者から教師に締め切りを設定してほしい等の改善案が出た。本実践のWWSは文章量増加に貢献したが、学習者の自己管理と教師の役割に課題が残された。

【キーワード】 ライティング・ワークショップ、自律性、自己決定、自己管理、教師の役割

### 1 実践の背景

本実践<sup>1)</sup>は日本国内の大学の留学生別科に在籍する学習者を対象とした作文指導である。本留学生別科は主として予備教育を目的とした1年間の日本語コースで、大学・大学院への進学を目指す者を対象としている。本実践の日本語学習者は9名で、母語は中国語7名、ベトナム語1名、ポルトガル語1名であった。

作文指導を行うにあたり、次の困難な点があった。まず、クラス内の学習者の作文力の差が大きいことである。高校時代に1年間の日本留学を経験し、日本語能力試験N1を取得した程度から、日本語能力試験N3程度の差があった。次に、前期に作文の基礎から意見文まで学習したクラスに、後期から新たに学習者3名が加わることである。これらの学習者は来日前に日本語の作文指導を十分に受けたわけではなかった。最後に、学習者が多様な学習目的を持つことである。本留学生別科は従来予備教育が目的であったが、近年日本留学の状況が変化するにつれ、留学生別科生の学習目的も多様となってきた。学習目的は進学が3名、語学留学が5名、就職が1名であり、それにより学習者が書く目的も異なることになる。

さらに、教師は前期授業の反省から、学習者が主体的に書ける環境を作りたいと考えていた。上述したように、前期の授業では作文の基礎から意見文の執筆までを行ったが、その際に、授業内に対面で行うピア・レスポンス（以下、FFPR）と授業外にコンピュータを活用して自由な時間に意見交換を行う非対面・非同期のピア・レスポンス（以下、CMPR）を取り入れた。両者を比較した結果から、非同期型のCMPRでは書く動機付けを高め、自律性を促す必要があり、学習者自らが作文テーマを設定すること等を提案した（詳細は田中（2015）を参照のこと）。このことは非同期の活動に限らず、同期の活動においても重要であり、教師は学習者自身が書きたいと思える環境をデザインする必要がある。

これらのことから、本実践で一斉授業を行うのは学習者と教師の双方にとって困難を伴うと考え、後述するライティング・ワークショップ（以下、WWS）の実施を検討することにした。

## 2 実践概要

### 2.1 WWS（ライティング・ワークショップ）とは

WWSは小中学生を対象とした第一言語の作文指導法で主に欧米で普及しており、近年、日本の小中学校でも取り入れられている（プロジェクト・ワークショップ編，2008：15）。WWSとは、「周到に計画された学びの環境で、それぞれの子どもに焦点を当てながらも、子どもたちに主体的な学びの責任を委ねるという教え方（フレッチャー&ポータルピ2007：14）」である。書き手のオーナーシップ，すなわち，子どもたちの主体性や選択権を持つことを重視した教え方・学び方と言ってよい<sup>2)</sup>。子どもが自ら選択することが大切な理由として，フレッチャー&ポータルピ（2007：22）は「仮に教師が何を教えるか決めても，それを学習するかどうか決めるのは子どもたちだからです。学習者の年齢にかかわらず，学びたいという気持ちがあれば学びは促進されます。」と述べている。一方，教師の役割については，「教師は学びの枠組みを作り，子どもたちに多くの選択の余地を与えます。そして，その学びの環境のなかで実際に書くのは子どもたちです。教師は，子どもたちの創造力を原動力にしてワークショップを動かしていきます（フレッチャー&ポータルピ（2007：16）。）」としている。つまり，教師の役割は学びの環境をデザインし，子どもたちの学びを支えることと言えるだろう。

WWSにおける学習活動は，教師がクラス全体に作文技術等を教える「ミニレッスン」，学習者自身が文章の種類（ジャンル）・テーマ・文章量を決定し，実際に作品を執筆していく「書く時間」，ピア（仲間）と作品を読み合って意見交換等を行う「共有の時間」の三つの活動で構成される。

このようなWWSを実施するうえで好ましい条件として，フレッチャー&ポータルピ（2007）は次の3点を挙げている。（1）毎回1時間前後のワークショップを週に3日は確保され，かつ，子どもたちがその日程をわかっていること。（2）確保された「子どもたち自身の」時間を，子どもたちが計画性をもって使うこと。（3）ワークショップ中の学習活動の構成が一定であることである。これらは単にWWSを円滑に進めるためではなく，子どもたちが自ら決めながら学ぶことを重視し，「書き手」となることを目的とした条件である。

以上のように，WWSは「書くこと」を基盤とした学習者の「自律」を重視した学びの場とすることができる。

### 2.2 日本語教育におけるWWSの実践

一方，日本語教育においてWWSを取り入れた実践報告は少なく，大学の授業で実施した影山（2010）と片桐（2012）がある。

影山（2010）は日本国内の大学学部留学生6名を対象にWWSを実施した。リサーチクエスションは，（1）WWSは大学の授業として実践可能か，（2）大学の授業としての留意点は何か，であった。授業の特徴は「書きたいものを，書きたい場所で，書きたい様を書く」ことで，授業中に図書館やPC教室に行くことも可能とした。作品等の成果物やアンケート調査の結果より，（1）WWSは大学授業として実践可能であり，（2）共有の時間を確保するために，WWSの時間配分（特にスケジュールリング）に留意すべきであると結論付けている。ただし，WWSの授業時間や実際の時間配分は記載されていない。また，気になるのは，学習者が書きたいものとしながら，実際に学習者が書いたものは授業関連のものが多いことである。確かに学習者が書かなければならないものではあるが，授業の課題レポート等は教師に与えられたものであり，学習者が必ずしも主体的に書きたいテーマとは限らない。アカデミック・ライティングは自ら研究課題を見つける卒業論文を除くと，レポートなど課題を与えられる場合が多く，WWSとは必ずしも相性が良いと言えないだろう。

一方，片桐（2012）はタイの大学の日本語専攻2年生17名を対象とした作文授業においてWWSを実施した。授業時間は週に1日だが，150分の時間（全15回）を確保しており，状況に応じて学習活動の時間を配分している。WWS実施後，学習者へのインタビュー内容をM-GTAで分析し，学習者主

体を目指した作文授業導入による学習者ビリーフ形成・変容過程の仮説モデルを提示した。このモデルから、学習者主体を目指した授業を体験することで「自己認識」を深めたり「変化した自分」に気付いたりする「自己の振り返り」の起きる過程がわかるとしている。しかし、ビリーフの形成や変容に注目しているため、それ以外にWWSがどのような効果をもたらしたか、学習者にどのように評価されたか等は不明である。

大学の日本語教育におけるWWSの課題をまとめると、(1) WWSに必要な授業時間を確保し、学習活動の時間配分に留意すること。(2) アカデミック・ライティングでは教師から課題を与えられることが多く、学習者が自由にテーマ等を決定し書いていくWWSの手法は必ずしも適しているとは言えないこと。(3) WWSの実践報告が極めて少ない現状から、その実践を詳細に記述する必要がある、かつ、多角的に分析・評価していくこと、そして、教師がそれらを共有することとなる。

### 2.3 実践内容

ここまでをまとめると、WWSは本実践の背景にある困難な点を解決できる可能性があり、学習者が主体的に書ける環境を作りたいという教師の考えにも合致している。さらには、本実践は1週間に3日1時間の授業があることから、実施の好ましい条件の一つにも適っている。以上のことから、本実践においてWWSを導入することにした。

本実践のWWSの目的は、自律的な書き手になること、書くことが好きになること、目的にあった文章が書けることであった。授業は1週間に3日(1日に1コマ60分を週3回)、全44コマで、授業期間は2012年9月～12月であった。1コマ60分は、「ミニレッスン」10分程度、「書く時間」40分程度、「共有の時間」10分程度の時間配分で行った(図1)。

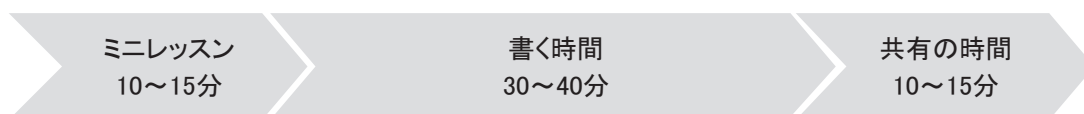


図1 60分間のWWSのおおよその時間配分

以下、三つの活動内容を述べるが、フレッチャー&ポータルピ(2007)のWWSのやり方に基づくものである。「ミニレッスン」では、教師がクラス全体に作文技術や文章の書くうえでの注意点等を説明した。その他に、WWSを進めていくうえで出てきた問題点をクラス全体で考えたり、教師自身が書くうえで経験したことを説明したりした。「ミニレッスン」で指導した内容は、次に行う「書く時間」に練習するものではなく、また、すぐに作品に取り入れて書かなければならないわけではない。三つの活動はそれぞれ独立したものとなっている。今回の実践が教師にとって初めてのWWSであったため、実施前にあらかじめ「ミニレッスン」を計画したのではなく、授業を進めながら、その内容を考えた。稿末資料1は、WWSがすべて終了したあと、「ミニレッスン」の内容を作品の構想から作品完成までのプロセス順に整理し直したものである。

「書く時間」では、学習者が主体的に構想から作品完成までの作業を進めた。構想の段階では、図書館で借りた書籍や学習者自身のスマートホンで検索した資料等を読み、構想を練った。影山(2010)のように教室外での作業は許可しなかったが、学習者が所有するパソコンを持ってきて使用することは認めた。教室はWi-Fi環境がなかったため、パソコンでのインターネット使用はできなかった。教師はメモや下書きとして使う作文ノート(作家ノート<sup>3)</sup>)やレポート用紙・原稿用紙を準備し、学習者はそれらを用いた。下書きの段階からパソコンを使う学習者はいなかったが、作品は最終的にWordで完成・提出させることにした。書き進める段階では、適時教師や仲間とカンファランス(以下、教師カンファランス、ピア・カンファランス<sup>4)</sup>)が行えるようにした。作品が完成したら、自己評価表(稿末資料2を参照のこと)を記入するとともに、振り返りシート(フレッチャー&ポータルピ2007, P.178



を利用）を用いて振り返りを行った。完成した作品は作品ファイルに入れ、教室のコーナーにまとめて置き、だれでも閲覧できるようにした（写真1）。

「共有の時間」では、教師が編成した3名のグループで意見交換を行った。作品の構想を話したり、下書きの原稿を交換して読みあたりした。活動のマンネリ化を防ぐため、学期途中でグループを再編成した。また、1週間に1回程度、クラス全体で作品の途中経過を発表する機会を設けた。教室の配置は机と椅子を「コの字」形式にし、教卓の前に椅子（作家の椅子<sup>5)</sup>）を置き、そこに座って、朗読した（写真2<sup>6)</sup>）。日本語能力のレベル差や、学習者の発音による聴き取りにくさを考慮して、下書きの原稿をコピーし、全員に配布して行った。



写真1 作品ファイル・レポート用紙等



写真2 共有の時間

学期の半ば頃には中間発表会、学期末のテスト期間中に最終発表会を行った。学習者は自分が書いた作品の中から、最も好きな作品を選んで発表した。その際には、簡単な質疑応答を行うとともに、自己評価と相互評価を行った（稿末資料3および4を参照のこと）。

また、片桐（2012）の実践を参考に、本実践の授業期間を考慮し、学期内に少なくとも三作品を仕上げることを条件とし、一つ一つの作品の締め切りは設けなかった。ただし、学習者の執筆を促すため、教室には各学習者の作品の進捗状況を示す表を掲示した（写真3、プロジェクト・ワークショップ編2008、P.93を参考に作成した）。進捗は「資料集め」「下書き」「執筆」「修正」「校正」「完成」の6段階で、完成した作品数も表の右側に正の字で表示した。



写真3 作品進捗表

成績のための評価は、次の4点であった。①教師評価（作品、発表、取り組み方）、②自己評価、③相互評価（中間・最終発表会のときに実施）④作品ファイル、作文ノートの提出である。それぞれの割合は40%、20%、20%、20%で、合計点を留学生別科の作文クラスの成績とした。表1にWWSの全体のスケジュールを示す。

表1 WWSの全体スケジュール

日 付	内 容
2012年9月4日	WWS オリエンテーション
2012年9月5日	WWS 前半開始
2012年10月31日、11月5日	中間発表会
2012年11月6日	WWS 後半開始
2012年12月19日	WWS 終了、アンケート調査
2013年1月16日	最終発表会

### 3 研究目的

本研究の目的は、中・上級日本語学習者を対象に WWS を実践し、その評価を行うことである。そのため、作品の質と量、教師カンファランス、学習者意識の三つの観点から WWS を分析する。

研究課題は以下のとおりである。

- (1) WWS は作品の量および質に影響するのか。WWS は学習者の主体的な学びに焦点が当てられているが、作文指導である以上、作品への影響を明らかにする必要がある。
- (2) WWS において教師はどのような役割を担うのか。WWS では主体的な学び手とされる学習者に対し、教師はどのような役割を担うのかを教師カンファランスから検討する。
- (3) 学習者は WWS をどのように捉えたか。WWS の目的の一つ、「自律性」を中心に、学習者意識を分析し、上記の (1) と (2) と合わせて、本実践の WWS を評価するとともに改善を図る。

### 4 分析

#### 4.1 分析データ

分析データは以下の 4 点である。

- (1) 作品 28 編（作品のタイトルは稿末資料 5 を参照のこと）
- (2) 教師カンファランス記録シート（フレッチャー & ポータルピ 2007, P.168 を利用した）
- (3) アンケート調査（授業終了時 2012 年 12 月に実施、稿末資料 6 を参照のこと）
- (4) インタビュー録音資料（2013 年 1 月に実施）

#### 4.2 分析方法

作品の量では最初の作品と比べ、最後の作品は文字数が増えたかを調べた。作品の質では日本語教師 3 名による評価が向上したかを調べた。作品評価表は田中・長阪（2006）と田中他（1998）を参考に作成し、評価基準は①構成、②内容、③豊かさの三つで、5 段階で評価した（稿末資料 7 を参照のこと）。言語形式の正確さ等の言語能力に関する基準は設けなかった。これは、評価対象が完成された作品であり、それらは教師に添削を受け、修正されたものだからである。

WWS における教師の役割を検討するため、教師カンファランスを分析する。教師カンファランスでは、授業中に教師が学習者と話し合った内容を記録シートに残しておいた。その記録をもとに話し合いの内容をカテゴリー化した。学期の前半（中間発表会まで）と学期の後半（中間発表後）を比較し、カンファランスのカテゴリーやその回数が異なるのかを調べた。つまり、カンファランスのカテゴリーと回数、および、それらの変化から教師の役割を見る。

また、WWS 終了後、インタビューにより WWS に対する学習者意識を調べた。インタビューの質問項目は「WWS の良い点は何か」、「WWS の問題点は何か」、「問題点の改善案として何が挙げられるか」、「教師はどのような存在（役割）であったか」、「仲間はどのような存在（役割）であったか」であった。インタビューの際に、事前に行ったアンケート調査（稿末資料 7：プロジェクト・ワークショップ編著 2008, P.208 をもとに、一部書き直したもの）の自由記述を踏まえながら、質問をする場合もあった。学習者一人あたりのインタビュー時間は 15 分から 30 分程度であった。インタビュー内容は文字化し、SCAT で質的に分析した。SCAT は大谷（2015）に基づき、富士・名郷（2011：67）の「切片化したデータをグループ化した上で言い換え、概念化していく」手順を参考にした。具体的な作業手順は、まず筆者二人が共同で学習者 1 名分のインタビュー資料について 4 ステップ・コーディングを行い、コーディング方法を確認した。次に、残りの 8 名分を分担し、個別にコーディングを行ったあと、共同で 8 名分のコーディングを見直した。最後に、コーディングで浮かび上がった構成概念について KJ 法を用いて分類を行った。

## 5 結果

### 5.1 作品の量および質

表2は最初の作品と最後の作品の文字数と標準偏差である。両者の文字数について、1要因参加者内分散分析を行った結果、1%水準で有意な差が見られた ( $F(1,8)=13.17, p<.01$ )。したがって、最後の作品は、最初の作品に比べ、文字数が有意に増加したと言える。

一方、最初と最後の作品の評点において1要因参加者内分散分析を行った結果、すべての評価基準において有意な差が見られなかった。したがって、最初の作品と最後の作品の評点は変わらないと言える。

表2 最初の作品および最後の作品の文字数（標準偏差）

最初の作品 (N=9)	最後の作品 (N=9)	F 値
964.8 (330.2)	1658.9 (556.6)	13.17**

\*\* $p<.01$

### 5.2 教師カンファランス

教師カンファランスにおける話し合いの内容をカテゴリー化した結果、作品内容、構成、言語形式、文体、表記、執筆の進め方に分けられた。表3は教師カンファランスカテゴリーで、それぞれのカテゴリーが行われた回数を示している。カンファランスでは「言語形式」「作品内容」「構成」の順に話し合いが多く行われ、「表記」「執筆の進め方」「文体」に関する話し合いは少なかった。

表3 教師カンファランスカテゴリーと実施回数

	作品内容	構成	言語形式	文体	表記	執筆の進め方
学期前半	19	11	29	2	2	5
学期後半	15	10	21	1	6	1
合 計	34	21	50	3	8	6

学期前半と学期後半の各カテゴリーの回数を比較した。両者について、 $\chi^2$ 検定を行った結果、それらに有意な偏りは見られなかった。つまり、学期前半と学期後半で各カテゴリーにおける実施回数の差がなかったと言える。

一方、学期前半と学期後半における学習者一人あたりのカンファランス平均回数を比較した(表4)。両者について1要因参加者内分散分析を行った結果、1%水準で有意な差が見られた ( $F(1,8)=10.19, p<.01$ )。したがって、学期前半は、学期後半に比べ、学習者一人あたりの教師カンファランスの平均回数が有意に多いと言える。

表4 学期前半および後半の教師カンファランス平均回数（標準偏差）

学期前半 (N=9)	学期後半 (N=9)	F 値
7.11 (2.18)	4.67 (0.82)	10.19**

\*\* $p<.01$

### 5.3 学習者意識

表5はSCATにより、WWSに対する学習者意識をまとめたものである。

学習者は主体的な学習の大切さを認識しており、自己決定できることに満足し、それにより書く動機付けが高まると考えていた。稿末資料5に示したとおり、教師がテーマを設定するなら取り上げないであろう「死」に関する作品や、自ら問題提起し、調査の実施から分析および考察を行った作品が見られるように、学習者自身が書きたいことを作品に仕上げた。その一方で、自由であることに困惑し、時間を管理したり集中力を維持したりする自己管理に難しさを感じていた。また、自由としながらも授業時間の制約により執筆が中断されてしまうことに不満を持っていた。このように、WWSの特徴である、



表5 WWSに対する学習者意識のまとめ

利点	問題点	改善案
<div>主体的な学習の大切さの認識</div> <div>自己決定の満足感</div> <div>テーマの自己決定による書く動機付けの向上</div>	<div>自由による困惑</div> <div>自己管理（時間管理・集中力維持）の難しさ</div> <div>授業時間の制約による執筆の難しさ</div>	<div>教師主導の必要性</div> <div>締め切り設定による時間の有効活用</div> <div>WWSの段階的な導入</div>
<div>ミニレッスンの有用性</div> <div>カンファランスの効果</div> <div>文章の改善と文章力向上</div> <div>テーマ関連知識の習得</div>	<div>作文基礎知識の不足</div> <div>単調な活動によるおもしろみの減少</div> <div>共有の時間の非効率性</div>	<div>教師による授業の必要性</div> <div>教師による文章の種類・ジャンルの指定</div> <div>テーマの統一等により仲間の文章との比較を容易にすること</div> <div>仲間の作品のコピーを手にして、詳しく読むこと</div>

教師の役割	仲間の役割
<div>指導者</div> <div>助言者</div> <div>読者</div> <div>添削者</div> <div>相談者</div> <div>聞き手</div> <div>アイデア生成や学びを促す者</div>	<div>読者</div> <div>相互に影響を与える者</div> <div>意見交換相手</div> <div>お互いに評価しあう者</div> <div>日本語レベル差のため、自分にとって利益がない</div>

学習者の主体性を重視し選択権を持つことがプラス面にもマイナス面にも表れていることがわかる。

これらの問題点に対して学習者から、教師主導の必要性、作品ごとの締め切り設定による時間の有効活用、WWSを段階的に導入する方法が提案された。教師主導の必要性とは、教師が活動をコントロールしたほうがよいというものであった。例えば、学習者が作品のアイデアや書きたいことがあるときには、それを促し、それらがないうときには、教師が作文技術等を教えるという案があった。WWSを段階的に導入する方法とは、前期授業のFFPR および CMPR の活動から、後期授業のWWSへの移行は飛躍があるため、その間にWWSへの橋渡しの活動が必要だというものであった。これらのことから、学習者は教師の役割への期待、WWSのデザインの一部修正を望んでいることがわかった。

その他の利点として、学習者はミニレッスンやカンファランスの効果、文章力の向上・文章の改善を実感していた。特に、ミニレッスンは学習者が慣れた教師主導の活動であるためか、時間を増やしてほしい等の意見が見られた。また、書くことによりテーマに関する知識が得られたと考えていた。学習者自身が書きたいテーマであるからこそ、知識欲が高まったと推測できる。

その他の問題点としては、作文の基礎知識の不足から、今後卒業論文を書くためにも教師に教えてほしいという希望があった。また、WWSでは毎回書くばかりで、最後はおもしろくなくなったとの感想

もあった。この学習者は調査を行い、報告書をまとめ、大きな達成感が得られたが、そのあと作品を書く目標をなくしてしまったようであった。これに対して、教師が文章の種類（ジャンル）の指定をし、そのなかで自由なテーマで書くという改善案が出された。また、共有の時間が非効率的だとの指摘もあった。これは前期授業で行った FFPR との比較から出てきたコメントで、テーマが異なるため、話し合いが活発にならない、FFPR ではお互いの作文のコピーを手にして詳しく読んだが、WWSではコピーがないため、何を言っているかわからない等であった。これについては、作品のテーマや文章のジャンルを統一することにより、仲間の作品との比較しやすくすることと、前期と同様に仲間の作品のコピーを配布して詳しく読むことが改善案として挙げられた。

教師の役割としては、「指導者」「添削者」といった垂直的な関係と捉える一方で、「読者」「聞き手」といった水平的な関係で捉えられていた。また、仲間の役割は「読者」「相互に影響を与える者」といった対等な関係と捉えていたが、なかには仲間の日本語能力が自分より低いために、「共有の時間」は自分にとって役立たなかったと述べた学習者もいた。

## 6 考察

### 6.1 WWSの作品への影響

最初の作品より最後の作品の量（文字数）が増加したことから、本実践のWWSは学習者の文章産出力を高めたと考えられる。インタビューの結果から、自分でテーマを決められることにより書く動機付けが高まったという意識が見られたが、このことが学習者の文章産出力に影響を及ぼした可能性がある。その一方で、作品の質の評価に変化はなかった。インタビューの結果からは、学習者自身が文章力の向上を認識していることが確認できたが、本実践のWWSは作品の質の向上にも低下にも寄与しなかったと言える。しかしながら、学習者は様々なジャンルの作品を書いており、それらを同一基準で評価するのが難しかった可能性がある。このことを踏まえて、作品の質の評価については評価方法を改善する余地がある。

### 6.2 WWSにおける教師の役割

教師カンファランスでは「言語形式」について話し合うことが最も多かった。このことから、本実践のWWSでは、従来の作文教育のように、教師は学習者と垂直な関係となる指導者や添削者としての役割が大きかったと言える。一方で、インタビューの結果より、学習者は教師を「読者」「聞き手」といった水平の立場で捉えていることも明らかになっている。フレッチャー&ポータルピ（2007：67）では、「読者になる」「聞く」はカンファランスにおいて教師に必要なスキルとして挙げられており、WWSにおける教師の重要な役割と言えるだろう。このように「書く時間」において、教師は教える、相談を受ける、読者となるといった様々な役割を担っていた。

しかしながら、執筆スケジュール等の「執筆の進め方」については、学習者と教師が話し合う機会は極めて少なかった。後半の授業において教師カンファランスの回数が少なくなったが、これはインタビューの結果からみても、時間を有効に利用できなかったことが反映されたものと推察できる。学習者は執筆が滞る等の困難に直面していても、教師に相談することなく、一人で時間を持て余すことが多くなったのではないだろうか。教師はWWSが進むにつれ、学習者の自律性が高まり、教師の役割が減っていくのを期待していたが、全く異なる理由でカンファランスが少なくなってしまった。フレッチャー&ポータルピ（2007）は、WWSの実施のうえで好ましい条件として「確保された『子どもたち自身の』時間を、子どもたちが計画性をもって使うこと」を挙げている。インタビューからは教師が学習者の学びを促すとの認識も見られたが、学習者の計画的な時間利用に対する教師のサポートは不十分であったと言わざるを得ない。

### 6.3 WWSにおける学習者の自律性

今回のWWSの目的の一つとして、学習者が自律的な書き手になることを挙げたが、教師は学習者の自律性をどう定義付けていたか。WWS開始時のオリエンテーションやミニレッスンでは「自律的な書き手」を「作文の完成まで自分の作文に対し責任を持つ者」と説明した。これは前期の授業で行ったFPRやCMPRを導入する際の定義付けと同様であり、前期の授業から後期はWWSの実践へと大きな転換を経たにもかかわらず、自律的な書き手とは何かを再考する機会を持たなかった。このことはWWSにおける教師の役割を考えるのに不可欠な問いであり、大いに反省しなければならない。

学習者の自律性について、青木（2005：773）では「学習者オートノミーとは、学習者が自分で自分の学習理由あるいは目的と、内容に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実施し、結果を評価できる能力」と述べており、田中（2015：27）では「自律性には『学習管理能力』と『自らの学習に対する責任』の側面が見られる」と指摘されている。インタビューの結果より、学習者はWWSを通して自己決定や主体的学習といった自らの責任に関する部分には満足しているが、自己管理については難しさを感じていた。つまり、WWSでは、学習者の自律性を青木（2005）のように大きな視点で捉えるのではなく、「責任」と「管理」という自律性の両側面を捉え、特に学習者の自己管理について注目する必要があるだろう。

また、学習者の自己管理の問題は、インタビューで学習者が指摘したとおりに、締め切りが大きく影響していると考えられる。教師はWWSの協働的な学習環境のもとで作品が書き進められると考えたため、作品の締め切りを細かに設定しなかった。むしろ厳しく制限することで、書く楽しみが損なわれるのではないかと考えた。しかし、インタビューの結果からは、締め切りが書く動機付けの維持に強く関わっていることは否定できない。作品の提出数を三つ以上としたことも、最低限の三作品を書けばよいという心の緩みにつながった可能性もある。

この問題を考えるにあたって、行動経済学<sup>7)</sup>の知見が示唆に富む。行動経済学では、本調査における学習者のような行動を「先延ばし（procrastination）の問題」として取り上げている。アリエリー（2008）は、大学のレポート課題において3種類の締め切り条件を設定し、成績を比較した。一つ目の条件は学生自身が締め切りを設定する（ただし、締め切りは変更不可。提出遅延の場合、成績が下がる）というある程度柔軟性のあるクラス、二つ目の条件は学期中の締め切りはなく、学期の最後の講義までにレポートを提出すればよいという完全な柔軟性があるクラス、三つ目の条件は教師が三つのレポートに三つの締め切りを設け、学生には選択の余地も柔軟性もないクラスであった<sup>8)</sup>。調査の結果、学生は確かに先延ばしをすること、そして、先延ばし問題には自由を厳しく制限するのが最も効果的だということが明らかとなった。一方で、本実践のように、締め切りに完全な柔軟性がある条件が最も効果が低く、学生があらかじめ締め切りを決意表明できるようにする条件は教師が締め切りを設定する条件に次いで効果があった。つまり、学生が先延ばしの問題を認識し、自身で締め切りを設定すれば、ある程度の成績向上を果たすということである<sup>9)</sup>。

これらのことから、WWSでは、学習者が改善案として挙げたように、教師が作品ごとに締め切りを設定することが最も効果があることになる。しかし、学習者の自律性の育成を考えるなら、学習者自身が先延ばしの問題を認識したうえで締め切りを設定することが最良となる。行動経済学では、人間の行動は必ずしも合理的ではないと捉えられているが<sup>10)</sup>、日本語教育においても、学習者は必ずしも合理的ではないと認識し、学びの環境をデザインする必要があると言えるだろう。

## 7 まとめと今後の課題

本実践では、留学生別科生9名を対象としたライティング・ワークショップ（WWS）を実施した。授業を行ううえでの困難点、前期授業の反省をもとにした教師の考えから、WWSを実施するに至った。WWSは書き手の主体性や選択権が重要視された教え方・学び方で、本実践のWWSは学習者の文章量

の増加に貢献した。インタビュー調査において、学習者は書く動機付けの向上や、主体的な学びの大切さなどを認識していたことから、このような結果が得られた可能性がある。しかし、学習者が自己管理の難しさを感じていたことから、学習の継続・動機付けの維持には何らかの仕掛けが必要であること、学習者もそれを求めていることがわかった。本実践において教師は学習者が理想的、合理的に学習が進められると捉えていたために、学習者の計画的な執筆を十分に支援できなかったと言える。これらのことから、あらためて学習者の「自律」とは何か、それに向けて教師は何ができるのかを問い直し、実践を改善させていく必要がある。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費（基盤研究（C）JP15K02638）の助成を受けたものです。また、本研究は2016年度日本語教育学会春季大会においてポスター発表した内容を大幅に加筆修正したものです。会場で貴重なご意見をくださった皆様にお礼申し上げます。

## 注

- 1) 本実践は筆頭著者である田中信之が実施し、共著者である浅津嘉之は分析・考察に加わった。
- 2) 影山（2011：108）では、ウィリアム・グラッサーの「選択理論」をもとに、「WWSにおいては、学習者が、仲間と教師を「上質世界」という自分の理想の世界の中に存在させ、自分の書きたいものを書き上げた状態（「上質世界」）を目指して、それぞれが最適な選択をし続けることが可能である」と述べている。
- 3) フレッチャー&ポータルピ（2007：21）では、「作家ノート」と呼ばれ、「子どもたちが自らの大切な思い、感情、これから発展させたいアイディア、夢などを書き留めるもの」とされている。
- 4) カンファランスとは、教え合う・学び合うという要素が含まれている話し合いのことである（フレッチャー&ポータルピ2007：65）。
- 5) フレッチャー&ポータルピ（2007：27）では、「作家の椅子」と呼ばれている。
- 6) 被写体である学習者から、研究で使用するものの承諾を口頭で得た。
- 7) 友野（2006：23）は、行動経済学は心理学、特に認知心理学から強く影響を受けており、「人は実際にどのように行動するのか、なぜそうするのか、その行動の結果として何が生じるのかといったテーマに取り組む経済学である」と定義している。
- 8) 調査方法（対象者や手続き等）の詳細は、下記の参考文献（14）Ariely & Wertenbroch（2002）を参照のこと。
- 9) 教師による締め切り設定ほど、学生自身が締め切り設定する条件が効果的でなかった理由について、アリエリー（2008：211）は「私の感触では、すべての人が自分の先延ばしの傾向を理解しているわけではなく、また、先延ばしの傾向を自覚している人でも、問題を完全に理解しているわけではないからだ。そう、人間は自分に締め切りを課すことがあるが、それが最高の成果を得られる締め切りとはかぎらない」と述べている。
- 10) 友野（2006）は、「標準的経済学が前提としている人間像である経済人とは、認知や判断に関して完全に合理的であって意志は固く、しかももっぱら自分の物質的利益のみを追求する人のことである（p.14）」のに対し、「行動経済学は、人間の合理性、自制心、利己心を否定するが、人間がまったく非合理的、非自制的、非利己的であるということを意味しない（p.24）」と述べている。

## 参考文献

- （1）青木直子（2005）「自律学習」『新版日本語教育事典』大修館書店
- （2）アリエリー、ダン（2008）「先延ばしの問題と自制心 なぜ自分のしたいことを自分にさせることができないのか」『予想どおりに不合理 行動経済学が明かす「あなたがそれを選ぶわけ」』熊谷淳子（訳）、第6章、早川書房
- （3）大谷尚（2015）「SCAT: Steps for Coding and Theorization 一明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法一」『感性工学』10（3）、155-160.



- (4) 影山陽子 (2010) 「大学学部留学生授業におけるライティング・ワークショップの試み」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』2, 41-55.
- (5) 影山陽子 (2011) 「ライティング・ワークショップの秘密—選択理論を通してライティング・ワークショップを眺めてみる—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』3, 108-117.
- (6) 片桐準二 (2012) 「学習者主体を目指した作文授業導入が学習ビリーフへ与える影響—M-GTAを用いたビリーフ形成・変容過程の質的研究—」『小出記念日本語教育研究会論文集』20, 33-47.
- (7) 田中信之 (2015) 「コンピュータを媒介したピア・レスポンスの実践と評価—対面による活動との比較を通して—」『小出記念日本語教育研究会論文集』23, 19-31.
- (8) 田中真理・長阪朱美 (2006) 「第2言語としての日本語ライティング評価基準とその作成過程」国立国語研究所編『世界の言語テスト』第13章, くろしお出版
- (9) 田中真理・坪根由香里・初鹿野阿れ (1998) 「第二言語としての日本語における作文評価基準—日本語教師と一般日本人の比較—」『日本語教育』96, 1-12.
- (10) 友野典男 (2006) 『行動経済学 経済は「感情」で動いている』光文社
- (11) 福士元春・名郷直樹 (2011) 「指導医は医師臨床研修制度と帰属意識のない研修医を受け入れてはならない—指導医講習会における指導医のニーズ調査から—」『医学教育』42 (2), 65-73.
- (12) フレッチャー, ラルフ. ポータルピ, ジョアン (2007) 『ライティング・ワークショップ—「書く」ことが好きになる教え方・学び方—』小坂敦子・吉田新一郎 (訳), 新評論
- (13) プロジェクト・ワークショップ (編) (2008) 『作家の時間—「書く」ことが好きになる教え方・学び方 (実践編)—』新評論
- (14) Ariely, D. & Wertenbroch, K. (2002) Procrastination, deadlines, and performance: Self-control by precommitment. *Psychological Science*, 13(3), 219-224.

## 資料1 ミニレッスンのまとめ

### 【書く前に】

- ☐ 資料集めなど, 書くために必要な準備をしたか?
- ☐ 誰がそれを読むのか? 読者は誰かはっきりとさせて書くこと。
- ☐ 何を伝えたいのか? 読者のイメージが決まったら, 何を伝えたいのか決める⇒テーマ
- ☐ 書きたいことは何か? 自分の書きたいことを図にしてみよう。⇒マインドマップ
- ☐ アイデアはいつ生まれるか。対話から? ふとした時に?

### 【書くときに】

- ☐ 文章, 段落, 文それぞれの単位を理解して書いているか?
- ☐ 段落は中心文と指示文で構成されているか?
- ☐ 段落に一つの内容, 一つの中心文となっているか?
- ☐ 中心文が簡潔に書かれているか?
- ☐ 中心文がどこに書かれているか? できるだけ段落の最初がよい (意見文)。
- ☐ 支持文は中心文について説明しているか? 具体的な例があるか。
- ☐ 文は一つの内容となっているか?
- ☐ 首尾一貫した文となっているか? 主部と述部の対応が良いか。
- ☐ 話し言葉と書き言葉の区別ができていますか?  
特に指示詞。「そんな」「こんな」「あんな」など
- ☐ コロケーション (連語) は大丈夫か? 辞書の用例を参照しよう。
- ☐ 接続詞の使い方はどうか? 文と文, 段落と段落の関係はよいか。  
⇒接続詞の多用はかっこ悪い。
- ☐ 書き出しはどうか? 注目を集められるか?
- ☐ 書き終わりはどうか? まとめがあるか? 余韻があるか?
- ☐ 場面から場面への展開はうまく表せているか?
- ☐ 文章の流れはどうか? 段落と段落の関係はどうか?  
中心文をうまく使えているか。

### 【一度書き上げたら】

- ☐ 何度も読み直してみたか？作文は一度書き上げたら、終わりではない。
- ☐ 内容・構成等の文章の大きな部分はできているか？⇒修正
- ☐ 言葉や文法、語彙等は正しく書けているか？⇒校正
- ☐ 修正、校正を重ねて作品を磨いたか？
- ☐ 文章の流れが良いか？悪いときは、もう一度アウトラインを書いてみよう。
- ☐ 個性を出せているか？ その人らしさ、私だからこそ書けることがある。
- ☐ 要旨は全体をまとめたものか？わかりやすいか。
- ☐ 句読点の打ち方が正しいか？  
句点「。」は文の終わりをあらわす。形式的な終わり。意味の終わりではない。

### 【仕上げ】

- ☐ 題名は適切か？  
題名は作品の顔。いつつけるか？どうつけるか？  
一言で作品を表す題名。内容を過不足なく表す題名。「お、なんだ」と注目を集める題名。
- ☐ レイアウトはいいか？見やすいか。読みたくなるような様子か。
- ☐ 字体は適切か？
- ☐ 字の大きさは適切か？
- ☐ 写真は適切な場所にあるか？
- ☐ 普通の文章とPPTの箇条書きの区別ができているか？

### 【その他】

- ☐ 文章に個性を出すには？私だからこそ書ける文章。
- ☐ 自己評価表はゴールであり、それを目指して書こう。
- ☐ すべて教師に直してもらうのではなく、自ら考えて直そう。  
⇒自律した書き手：完成まで作品に対する責任を持つ。
- ☐ 剽窃は絶対やめよう！
- ☐ 引用は適切に行おう！
- ☐ 相互評価によって自分の作品を正しく評価できるようにしよう。
- ☐ アドバイスをもらうより、アドバイスをするほうが利益がある？
- ☐ 書く機会を増やすため、ライフログや日記等、継続できる工夫をしよう。
- ☐ 俳句や年賀状、新しいことをどんどんやってみよう。

資料2 完成作品自己評価表

	日付	題名	目的内容	構 成	読み手	日本語
1	/					
2	/					
3	/					
4	/					
5	/					

自己評価点数                      5とてもよい   4よい   3ふつう   2十分ではない   1まだまだ

資料3 自己評価表

基 準			レベル（点）
1. 目的・内容	目的	課題の達成	1 2 3 4 5
	内容	トピック	1 2 3 4 5
2. 構成		文章全体 段落 文	1 2 3 4 5
3. 読み手		読み手への配慮 おもしろさ	1 2 3 4 5
4. 日本語（言語能力）		正確さ 適切さ	1 2 3 4 5

資料4 相互評価表

発表者（作家名）

評価者

基 準			レベル（点）
1. 目的・内容	目的 内容	課題達成 トピック	1 2 3 4 5
2. 構成		文章全体 段落 文	1 2 3 4 5
3. 読み手		読み手への配慮 おもしろさ	1 2 3 4 5
作者へのメッセージ			

資料5 作品タイトルおよび作品のジャンル一覧

学習者	作品1	作品2	作品3	作品4
A	ウイグル族（紹介文）	私と日本（エッセイ）	君のためなら千回でも （映画の感想文）	
B	平和を希望するなら （意見文）	探し続ける（エッセイ）	死（エッセイ）	心の中に生きる （エッセイ）
C	日本の春（エッセイ）	雪の形（説明文）	私の旅（エッセイ）	
D	母への手紙（手紙）	信用とは何か（意見文）	留学生の生活費に関する アンケート調査（調査報告）	
E	この世の楽園：チベット省（紹介文）	過去と現在（エッセイ）	あか（映画の紹介文）	
F	新しい暮らし、新しい 体験（エッセイ）	過剰包装（意見文）	友だち、私の陽光 （感想文）	
G	就職問題（意見文）	一躍有名になった彼 （意見文）	生きている（エッセイ）	
H	原発ゼロ（意見文）	わが社の紹介（紹介文）	バトミントンの握り方 （説明文）	
I	新しい始まり新しい発見（エッセイ）	アヒル口の魅力 （エッセイ）	孤独な存在：洋留守の子供 たち（意見文）	

## 資料6 アンケート調査票

### 「ライティング・ワークショップ」アンケート

作家名 \_\_\_\_\_

1. 「ライティング・ワークショップ」をどう思いますか。  
1. とても良い 2. 良い 3. ふつう 4. 悪い 5. とても悪い
2. あなたにとって「ライティング・ワークショップ」は？  
1. 楽しみ 2. どちらかといえば楽しみ 3. どちらかといえば楽しみではない 4. 楽しみではない
3. ライティング・ワークショップによって、書くことが上手になりましたか。  
1. とても上手になった 2. 上手になった 3. 少し上手になった 4. 変わらない 5. わからない
4. ライティング・ワークショップを通して、できるようになったことや今までの作文と変わったと思うことは何ですか。
5. あなたの1番のおすすめの作品は？どんなところが気に入っていますか。
6. ライティング・ワークショップのよかったところ、悪かったところを書いてください。
7. ライティング・ワークショップにおいて教師はどんな存在でしたか。
8. ライティング・ワークショップにおいて仲間（グループメンバー）はどんな存在でしたか。
9. ライティング・ワークショップにおいて、仲間にとって、あなたはどんな存在だったと思いますか。
10. 前期（4月から7月）の授業と比べてください。前期は、基礎から文、段落、意見文まで勉強しました。ピア・レスポンスやMoodleの方法を取り入れました。
11. ライティング・ワークショップがより良い活動になるために、あなたのご意見を書いてください。

ご協力ありがとうございました！



資料7 作品評価表

クライテリア			レベル	基準説明
構成	構成 一貫性 段落	作文の構成（起承転結など）が適切か 文章に一貫性があるか（話題がとんでいないか） 適切なところで段落分けがなされているか	5 とてもよい	左記3項目がほぼできている。
			4 よい	左記3項目ができているが、一部に不自然さがある。
			3 ふつう	左記3項目がある程度できているが、不十分なところもある。
			2 十分ではない	段落は作られているが、不自然なところが多い。
			1 まだまだ	文章全体の構成が認められない。
内容	主旨 内容の興味深さ 理解しやすさ	主旨（一番言いたいこと）が明確か 興味深い内容か すらすら読めるか（理解しやすいか）	5 とてもよい	左記3項目がほぼ満たされている。
			4 よい	左記3項目が満たされているが、一部に足りないところがある。
			3 ふつう	左記3項目がある程度できているが、不十分なところもある。
			2 十分ではない	言いたいことはわかるが、理解しにくいところが多い。
			1 まだまだ	主旨が明確でなく、読みにくい。
豊かさ	表現力 文構造の複雑さ 日本語らしさ	表現力があるか（言葉や表現の豊かさ） 単文の羅列でなく、複雑な構造の文も書けているか 翻訳調でなく、日本語らしい文章か	5 とてもよい	左記3項目がほぼ満たされている。
			4 よい	左記3項目が満たされているが、一部に足りないところがある。
			3 ふつう	左記3項目がある程度できているが、不十分なところもある。
			2 十分ではない	左記項目において不十分なところが多い。
			1 まだまだ	単文の羅列で、表現力に乏しい。



# ワークシート、カード、タブレット端末を用いた漢字学習教材の開発 —日本語学習者間のグループ練習活性化のために—

濱田 美和・高島 智美

## The Development of Kanji Learning Materials Using Worksheets, Flashcards and Tablet Computers: Aiming for the encouragement of active group work activities among learners of Japanese

HAMADA Miwa, TAKABATAKE Tomomi

### 要 旨

中・上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字クラスにおいて、教師主導による導入・練習後に学習者同士で行うグループ練習の活動を取り入れ、そのための教材開発に取り組んでいる。教師の援助なしで学習者だけで円滑にグループ練習を進めていけるような教材の作成を目指し、ワークシートとカードとタブレット端末、3つのツールを組み合わせたことが本教材の大きな特徴である。これまでの教材開発の過程の中で、各ツールにはそれぞれ利点と欠点があり、3ツールを適切に組み合わせることで各ツールの欠点を補え、学習者にとってより使いやすい教材作成ができることがわかった。一方で、ツールの多さが学習者の負担になる場合もあることが学習者同士のやりとりの観察により問題点として浮かび上がった。そこで、3ツール全てを用いる練習においては、同時に使用するのは2ツール以内としたところ、円滑に練習が進むようになった。本稿では3ツールの効果的な活用法に関して報告するとともに、開発した教材の内容を紹介する。

【キーワード】 漢字、日本語学習者、グループ練習、教材開発、ツール

### 1 はじめに

中級～上級レベルの日本語学習者（以下、「学習者」）を対象とした漢字クラス<sup>1)</sup>において、2009年度より学習者同士によるグループ練習を導入している。導入当初は中級、上級の合同授業として開講していたことから、複式授業への対応がグループ練習導入の主な目的であった。しかし、学習者だけで練習を行うことによって、学習者同士で間違いを指摘し合ったりわからないところを教え合ったり、学習者自身で調べたりする機会が増え、学習漢字・漢字語の発話機会も多くなるという利点が見られたことから、複式授業を行わない学期においてもグループ練習を取り入れている。このように学習者同士での活動には様々な利点があるが、一方で、学習者だけでグループ練習を行うには、教師の援助なしでも円滑に進めていけるよう、様々な工夫が必要である。中でも教材への配慮が重要となる。学習者同士の活動においても、教師が傍らで必要に応じて説明を加えるなどして練習の進行をサポートすることも多いが、筆者らは教師の援助なしで学習者だけでの練習を開始、進行、終了できることを目指している。複式授業に対応できるようにすることがその一番の理由であるが、これに加えて、グループ練習中は教師が傍らにいないほうが、学習者同士でやりとりしたり、学習者自身で調べようとする機会が増えることが授業中の様子から見られたことにもよる。

グループ練習を導入した当初はワークシートとカードの2ツールを用いて教材を作成していたが、学習者の活動の様子を観察したところ、練習が円滑に進行していない場面がたびたび見られた。そこで、より簡潔にわかりやすい教材とするために、タブレット端末も加えて3ツールを用いて教材を作成したところ、改善が見られた（濱田・高島、2014）。漢字・漢字語の学習教材の開発において、ワークシート、カード、タブレット端末を用いることは一般的に行われているが、この3ツールを組み合わせた教材開発は管見の限り新たな試みだと思われる。本稿ではこれまでの教材開発の過程でわかった3ツ

ルの効果的な活用法を報告しながら、開発した教材の内容を紹介する。そして、学習者のグループ練習中のやりとりを分析することで学習者にとっての使用上の困難点を明らかにし、ツール使用の観点から教材開発における留意点を述べたい。

## 2 漢字クラスとグループ練習

### 2.1 漢字クラスの概要

グループ練習を取り入れているのは、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000plus』（凡人社）を教科書として用いている、日本の大学で学ぶ留学生を対象とした中級および上級レベルの漢字クラスである。中級レベルのクラスでは同教科書の vol.1（以下、『IKB1』）、上級レベルのクラスでは vol.2（以下、『IKB2』）を用い、いずれのクラスも各期15週間、週1回90分の授業で教科書を1課進むペースで行っている。毎回の授業は、基本的に（複式授業を行う期は一部順番の変更あり）前回の復習用確認テストを実施した後、その回の学習項目の予習用宿題を学習者同士で確認し合い、教師主導で漢字・漢字語を導入練習し、最後に学習者同士でグループ練習を行うという流れになっている。

### 2.2 グループ練習の概要

グループ練習の主な目的は、導入した漢字の定着、学習者同士の学び合いを通じて自律学習の促進を図ることである。学習者2～3人で1グループを作り<sup>2)</sup>、その課の学習漢字・漢字語にかかわる設問に解答する形で行う。練習の進め方は、その課の練習内容に合わせて2つのタイプを用意した。1つはグループ内で出題者と解答者を決めて出題、解答しながら進めていく出題解答型で、もう1つはグループ内で相談・協力しながら答えを考える協力解答型である。各課10～20分程度の練習で、ワークシート、カード、タブレット端末（プレゼンテーションアプリを利用）を用いて教材を作成した。

グループ練習の内容は表1の通りである<sup>3)</sup>。課によっては、段階を追って2つの練習を行う課もある。その場合は、L2-1、L2-2のように示した。なお、『IKB2』は全16課あるため、学習者と相談の上、授業で扱う課を決めている。L9とL12とL13は授業で扱う機会が少ないため、グループ練習は行っていない。

### 2.3 学習者同士のやりとりのデータ

冒頭で述べたように、漢字クラスは複式授業を行う期もあり、授業中に学習者同士のやりとりを教師が十分に把握できないことも多い。そこで、教材の改善を目的に、2012年度よりグループ練習中の学習者の発話を録音・録画している。2016年度前期までに『IKB1』で123、『IKB2』で112、計235（総録音時間65時間33分）の学習者同士のやりとりを収集した。グループ練習に参加した学習者55人（『IKB1』22人、『IKB2』28人、『IKB1』と『IKB2』の両方5人）で、出身国・地域別の内訳は、ロシア15人、韓国10人、中国7人、ブラジル4人、ベトナム3人、インドネシア、スリランカ、タイ、台湾、フランス、モンゴル各2人、アメリカ、イタリア、インド、キルギス各1人である。録音・録画の記録以外に、学期末に学習者にグループ練習に関するアンケート調査の実施、および、授業中に教師が気づいた点の記録も行っている。これらの分析を通して、学習者だけでグループ練習を行う際に練習方法がわからずに戸惑っていたり、進め方を間違ったり、練習の準備や進行に時間がかかったりしている要因を探り、教材の改訂を行っている。

表1 グループ練習の内容

	課	型	グループ練習の内容
『IKB1』	L1	出題	①自身の自己紹介に関わる語をできるだけ多くワークシートに漢字で書き、それらの語を用いて、自己紹介する。 ②他の学習者がそれを聞いてワークシートに書き取る。
	L2-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みをもとに、その漢字が書かれたカードを探す。
	L2-2	協力	タブレット端末に表示された熟語と対の意味の熟語のカードを探す。
	L3	協力	①タブレット端末に表示された漢字1字とカードを組み合わせる熟語を作る。 ②タブレット端末に表示された例文中の空所に入る漢字カードを探す。
	L4	出題	①出題者はカードに書かれた5つのヒントをもとに出題する。 ②他の学習者は出題者の出すヒントを聞いて、ワークシート（グループ内で共有）の熟語から適当な語を選択し、正解の場合はヒントの数に応じてワークシートに点数を記入する。
	L5-1	協力	タブレット端末に表示された熟語と同じ読みの熟語のカードを探す。
	L5-2	出題	①出題者は同音異義語を含む例文カードを読む。 ②他の学習者はその語を漢字でワークシートに書く。
	復習1	協力	形声文字について、タブレット端末に表示された部首と音記号のカードを組み合わせる漢字を作り、その漢字を使った熟語の読みを答える。
	L6-1	協力	複数の接辞の漢字が書かれたワークシート（グループ内で共有）上に、各接辞と結びつく熟語のカードを配置して複合語を作る。
	L6-2	協力	タブレット端末に表示された意味をもとに、その意味に該当する複合語のカードを探す。
	L7	協力	①タブレット端末に表示された意味をもとに、画面に表示された漢字とカードの漢字を組み合わせる熟語を作る。 ②タブレット端末に表示された例文に入る漢字カードを探す。
	L8-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みをもとに、その漢字が書かれたカードを探す。
	L8-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る漢字カードを探す。
	L9	出題	①出題者は同訓異義語を含む例文カードを読む。 ②他の学習者はワークシートから適当な漢字を選択して印をつける。
	L10	協力	①タブレット端末に表示された意味をもとに、類義語のカード（赤・青）を各1枚選ぶ。 ②タブレット端末に表示された例文中にいずれの語が入るかを答える。
	復習2	協力	復習1と同じ
『IKB2』	L1	出題	①出題者はカードに書かれた語句の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語句をタブレット端末に表示された選択肢から探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L2-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答え、意味を確認する。
	L2-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る語を、例文の下に提示された選択肢から選ぶ。（正解確認後にワークシート記入）
	L3-1	協力	タブレット端末に表示された熟語が「する動詞」として使えるかどうかを答える。
	L3-2	協力	①タブレット端末に表示された例文に入る語（名詞）のカードを、例文中の動詞との共起関係をもとに選ぶ。 ②名詞の後に適当な助詞を入れ、例文を完成させる。（正解確認後にワークシート記入）
	L4-1	出題	①出題者はカードに書かれた語の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語をタブレット端末に表示された選択肢から探す。
	L4-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L5-1	協力	タブレット端末に表示された語の意味をもとに、画面に表示された熟語と結びつく接辞を、熟語の横に提示された選択肢から選び、複合語を作る。
	L5-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L6-1	協力	タブレット端末に表示された語の意味とその例文をもとに、画面に表示された漢字とカードの漢字を組み合わせる熟語を作る。
	L6-2	協力	タブレット端末に表示された例文中の和語動詞と置き換え可能な漢語動詞をカードから探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L7-1	協力	6枚のカードに書かれた仮名文を、漢字仮名交じり文にしてワークシートに書く。
	L7-2	協力	1文ずつ書かれた6枚のカードを並べ替えて文章を完成させる。（正解確認後にワークシート記入）
	L8-1	協力	タブレット端末に表示された熟語を読む。



L8-2	協力	①タブレット端末に表示された動詞 3 語すべてと共に起する名詞をカードから探す。 ②名詞の後に適当な助詞を入れ、動詞文を 3 つ完成させる。(正解確認後にワークシート記入)
L10-1	協力	タブレット端末に表示された漢字を組み合わせると同音異義語を作り、ワークシートに書く。
L10-2	出題	①出題者は同音異義語が含まれた例文カードを読む。 ②他の学習者はタブレット端末から適当な漢字を探す。(正解確認後にワークシート記入)
L11-1	出題	①出題者はカードに書かれた熟語の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語をタブレット端末に表示された選択肢から探す。
L11-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。(正解確認後にワークシート記入)
L14-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答える。
L14-2	協力	各自異なる内容のワークシートを持ち、それぞれの例文中に入る語をタブレット端末に表示された熟語から選んで記入する。(正解確認後にグループ全員の解答(正解)をワークシートに記入)
L15-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答える。
L15-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。(正解確認後にワークシート記入)
L16-1	協力	①各自異なる内容のカードを持ち、タブレット端末に表示された漢字が含まれる熟語をカードから複数探す。 ②グループ全員のカードに共通して現れる熟語を選んで、ワークシートに書く。
L16-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語を、L16-1でワークシートに記入した語の中から探す。(正解確認後にワークシート記入)

### 3 グループ練習用教材におけるワークシートとカードとタブレット端末の使用

#### 3.1 各ツールの使用状況と教材例

グループ練習用教材は、基本的に、指示文、設問、解答の選択肢、解答記入欄、解答(正解)の5つで構成される。このうち、指示文と設問と解答(正解)の3つは必須要素で、全ての課のグループ練習に含まれるが、解答の選択肢と解答記入欄については含まれない課もある。これら5つの構成要素におけるワークシート、カード、タブレット端末の使用状況を表2に示す。

表2 グループ練習用教材における3ツールの使用状況

	課	指示文	設問	解答の選択肢	解答記入欄	解答(正解)
出題 解答型	(1) 『IKB1』 L1	ワークシート	ワークシート*		ワークシート	ワークシート*
	(2) 『IKB1』 L5-2	ワークシート	カード		ワークシート	カード
	(3) 『IKB1』 L4, L9	ワークシート	カード	ワークシート	ワークシート	カード
	(4) 『IKB2』 L11-1	タブレット端末	カード	タブレット端末		カード
	『IKB2』 L1	タブレット端末	カード	タブレット端末	ワークシート	カード
	(5) 『IKB2』 L4-1	タブレット端末	カード	タブレット端末		カード、タブレット端末
協力 解答型	『IKB2』 L10-2	タブレット端末	カード	タブレット端末	ワークシート	カード、タブレット端末
	(6) 『IKB2』 L2-1, L3-1, L8-1, L14-1, L15-1	タブレット端末	タブレット端末			タブレット端末
	(7) 『IKB2』 L5-1	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末		タブレット端末
	『IKB2』 L2-2, L10-1	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末
	(8) 『IKB2』 L16-2	タブレット端末	タブレット端末	ワークシート	ワークシート	タブレット端末
	(9) 『IKB1』 L2-1, L2-2, L3-1, L3-2, 復習 1, L6-2, L7-1, L7-2, L8-1, L8-2, L10, 復習 2, 『IKB2』 L6-1	タブレット端末	タブレット端末	カード		タブレット端末
	『IKB2』 L3-2, L4-2, L5-2, L6-2, L8-2, L11-2, L15-2, L16-1	タブレット端末	タブレット端末	カード	ワークシート	タブレット端末
	(10) 『IKB1』 L5-1	タブレット端末	タブレット端末	カード(表)		カード(裏)
	(11) 『IKB2』 L7-1	タブレット端末	カード(表)		ワークシート	カード(裏)
	(12) 『IKB2』 L7-2	タブレット端末	カード		ワークシート	タブレット端末
	(13) 『IKB1』 L6-1	タブレット端末	ワークシート	カード		タブレット端末
	(14) 『IKB2』 L14-2	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末

\*学習者の自己紹介にかかわる内容で、設問、解答(正解)は学習者自身で考えて記入

出題解答型、協力解答型における3ツールの典型的な使用パターンとして、表2(3)(5)(6)(9)に該当する課の中から、教材例を挙げて説明する。

出題解答型(3)の『IKB1』L9(図1)は同訓異義語が学習の要点となる課であるが、練習ではまず「ワークシート」に書かれた指示文を読んで練習の手順を確認する。この後で練習に移り、出題者が「カード」に書かれた例文を読み、解答者が出題者の読んだ例文中に含まれる同訓異義語の漢字を「ワークシート」に書かれた選択肢から選び、印をつける。そして、出題者が「カード」に書かれた正解を解答者に伝える。

出題解答型(5)の『IKB2』L4-1(図2)は通信関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、出題者が「カード」に書かれた語の意味を読み、解答者がその意味に該当する語を「タブレット端末」に表示された解答の選択肢から選んで言う。そして、出題者がカードに書かれた正解を解答者に伝える。この練習ではタブレット端末上の語をタップすることでも正解が確認できるようになっている。

指示文：  
ワークシート  
↓

設問：  
カード  
↓

解答の選択肢：  
ワークシート  
↓

解答記入欄：  
ワークシート  
↓

解答（正解）：  
カード

<どの漢字？> 1人がカードを読みます。他の人は適当な漢字を選んで○をつけてください。

例 あう	<b>会う</b>	合う
------	-----------	----

1) 兄と祖父はよく似ています。  
2) 富山駅に10時に着きます。  
3) 子どもが手を振っています。

<どの漢字？>

例 あう	<b>会う</b>	合う
1) いる	似る	煮る

<どの漢字？>

例 あう	<b>会う</b>	合う
1) いる	<b>似る</b>	煮る

1) 兄と祖父はよく似ています。  
2) 富山駅に10時に着きます。  
3) 子どもが手を振っています。

図1 出題解答型の教材例『IKB1』L9

指示文：  
タブレット端末  
↓

設問：  
カード  
↓

解答の選択肢：  
タブレット端末  
↓

解答（正解）：  
カードと  
タブレット端末

クイズ1のやり方  
③順番にクイズを出します。  
1番の人は、カードの「意味」を読んでください。

意味：お互いに、実力が  
同じぐらいであること  
読み：ごかく 答え：互角

「意味」に合うことばを選んでタップしてください。

検索	駆使	互角
対称	観光	極端
仮定	双方	統合
普及	衛星	需要

全問終了したら、ここをタップしてください。 クイズ2へ

意味：お互いに、実力が同じぐらいであること

**互 角**

意味：お互いに、実力が同じぐらいであること

図2 出題解答型の教材例『IKB2』L4-1

協力解答型(6)の『IKB2』L2-1(図3)は教育関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、同じく「タブレット端末」に表示された熟語を見て、その読みを答え、最後に「タブレット端末」をタップして正解を確認する。

協力解答型(9)の『IKB2』L15-2(図4)は政治関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、同じく「タブレット端末」に表示された例文を読み、例文中の空所に入る熟語を「カード」の選択肢から選ぶ。そして、「タブレット端末」をタップして正解を確認した上で「ワークシート」に解答を記入する。

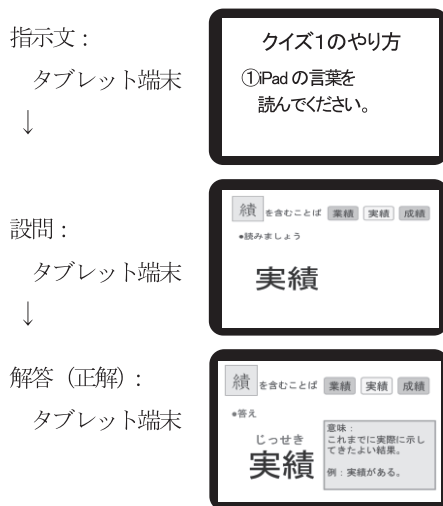


図3 協力解答型の教材例『IKB2』L2-1

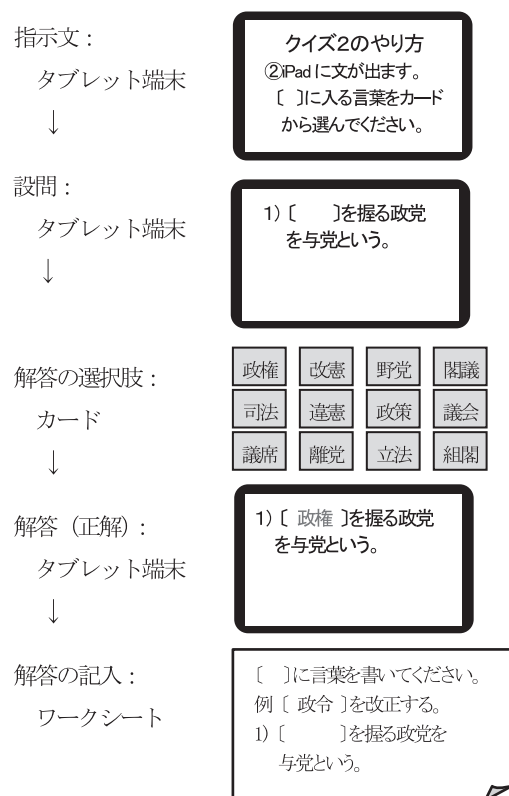


図4 協力解答型の教材例『IKB2』L15-2

このように、各課の練習内容に合わせて3ツールを組み合わせる教材化している。以下、指示文、設問、解答の選択肢、解答記入欄、解答（正解）において、それぞれワークシート、カード、タブレットをどのように活用しているかを述べる。

### 3.1.1 指示文

指示文はグループ練習の手順を説明する文章で、学習者は練習開始時にまず指示文を読み、練習方法を把握する必要がある。指示文の提示には主にタブレット端末を用いた。タブレット端末を用いると、フラッシュカードのように少しずつ指示文を提示していけるため、練習の進行に合わせて提示しやすく、また、一度に提示される情報が少ないことから、学習者にとって心理的負担の軽減にもつながるなどの利点がある。ただし、指示文以外でタブレット端末を使わない課（『IKB1』L1、L4、L5-2、L9）については、活動自体がシンプルで簡単な説明で済むこともあり、タブレット端末は用いずにワークシートで行った。

### 3.1.2 設問

設問は基本的に教師が用意した。本教材を作り始めた当初は学習者自身で設問を考えるタイプの練習を複数取り入れていたが、濱田・高島（2013）で報告したように、教師の援助なしで練習を行う場合は困難点も多かったため、改訂版では『IKB1』L1の自己紹介にかかわる練習のみ、学習自身で設問を考える練習としている。設問は練習タイプ別に次のように3ツールを使い分けた。

まず、解答者には見えないようにして出題者だけがみられるように設問を提示する必要がある出題解答型の練習では、グループの学習者それぞれが異なる情報を持つのに適したカードまたはワークシートを用いた。カードは情報の一括提示に適したワークシートと異なり、情報の小分け提示に適したツールである。カードを用いることにより、練習の進行に合わせて必要な情報だけを見やすく提示できるため、出題者が各設問内容を把握しやすくなる、さらに、適宜出題の順番を変えたり、解答者がなかなか正解



にたどり着けない場合にヒントとして情報の一部を見せたりしやすいといった利点もあることから、出題解答型では基本的にカードで設問を提示した。『IKB1』L1はワークシートで設問を提示しているが、上述の通りこの課だけ学習者自身で設問を考える練習であるため、各自で考えた設問の記入がしやすいワークシートを用いた。

次に、グループの学習者全員で見られるように設問を提示する必要がある協力解答型の練習では、タブレット端末を主に用いた。タブレット端末はワークシートと比べると、次のような利点がある。1つは情報の小分け提示に適していることから学習者がある時点で取り組むべき設問がどれであるかを把握しやすいこと、もう1つは複数の学習者で同一画面を閲覧することで、学習者間の協力関係が築きやすいことである。教材開発を始めた当初はグループの学習者全員が同じ内容のワークシートを持ち、各自のワークシートの設問を見ながら練習進めていくという方法を取っていたが、タブレット端末を導入後、1台のタブレット端末に表示された設問をグループの学習者全員で見るという方法に変えたところ、以前よりも学習者同士でのやりとりも増え、協力しながら練習を進めている場面が多く見られるようになった。タブレット端末は協力解答型の練習で利用価値の高いツールと言える。次にカードと比べた場合のタブレット端末の特徴として、いずれも情報の小分け提示に適したツールであるが、タブレット端末はカードと比べて1枚のサイズが大きく見やすい、タップするだけで瞬時に次の設問が表示されるのでカードをめくりながら進めるよりも時間を短縮できるという点が長所として挙げられる。さらに、タブレット端末では細かな提示順に配慮したり、難易度の高い設問にはヒント表示の機能を加えたりして学習者の習熟度に応じた教材を作成しやすいという利点もある。協力解答型の練習の中で設問の提示にタブレット端末を使用しなかったのは『IKB1』L6-1、『IKB2』L7-1、L7-2、L14-2であるが、このうち『IKB1』L6-1は複数の接辞（設問）が書かれたワークシート上にカード（解答の選択肢）を配置して複合語を完成させる練習のため、タブレット端末ではなく、カードを置きやすいワークシートを用いた。『IKB2』L7-1、L7-2は仮名表記の文（設問）をグループ内で分担して漢字仮名交じり文にした後、それらの文を順番に並べて1つの文章にするという練習のため、分担作業や順番の並べ替えがしやすいカードを用いた。『IKB2』L14-2は学習者それぞれが異なる例文（設問）をもとに、同一漢字を含む3つの熟語から自身の例文に入る語をグループで互いに情報交換しながら選ぶ練習で、グループの学習者それぞれが異なる情報を持つ必要があるため、ワークシートを用いた。

### 3.1.3 解答の選択肢

解答は、選択肢から選ぶものと、選択肢なしで学習者自身で考えるものとがある。このうち、選択肢から選ぶ練習においては、選択肢を一度にまとめて提示する練習と、設問ごとに分けて提示していく練習とで、3ツールを次のように使い分けた。

表3 解答の選択肢における3ツールの使用状況

解答の選択肢の提示に使用したツール	全設問分の選択肢をまとめて提示する練習	設問ごとに分けて選択肢を提示する練習
カード	『IKB1』L2-1, L2-2, L3-1, L3-2, L5-1, 復習1, L6-1, L6-2, L7-1, L7-2, L8-1, L8-2, L10, 復習2, 『IKB2』L3-2, L4-2, L5-2, L6-1, L6-2, L8-2, L11-2, L15-2, L16-1	
タブレット端末	『IKB2』L1, L4-1, L11-1	『IKB2』L2-2, L5-1, L10-1, L10-2, L14-2
ワークシート	『IKB1』L4, 『IKB2』L16-2	『IKB1』L9

まず、グループ練習で行う全設問分の選択肢をまとめて提示する際に多く用いたのはカードである。カードは、解答者が枚数から全体の設問数や練習の進行状況を把握できる、練習が進むにつれて枚数が減ることで答えやすさが増す、練習途中でも取ったカードでそれまでに出てきた漢字や語の確認がしやすい、取得枚数を競う形でゲーム的要素を盛り込みやすいといった利点がある。ただし、設問をカード

で提示する練習では、解答の選択肢でもカードを用いると枚数が増え、カードを置くため広い場所を要する上、学習者がそれぞれのカードをどう使うかがわからずに混乱する様子も見られたので、タブレット端末で選択肢を提示したところ、練習が円滑に進行するようになった（『IKB2』L1, L4-1, L11-1）。カードは机の上に並べる時間もある必要だが、タブレット端末ではタップするだけで瞬時に提示できるので準備時間を短縮できるという利点もある。また、ワークシートで選択肢を提示した課もある。『IKB1』L4はグループの学習者全員で1枚のワークシートを共有し、正解を確認した後、選択肢として挙げてある語の下に正解者名と獲得した点数を記入していくため、学習者で情報を書き入れるのに適したワークシートを用いた。『IKB2』L16-2は、その前に行うグループ練習（L16-1）で学習者がワークシートした語をそのまま選択肢として用いることができるため、ワークシートを用いた。

次に、設問ごとに分けて選択肢を提示していく際は主にタブレット端末を用いた。タブレット端末は練習の進行に合わせて必要な情報を順番に提示していくことに適したツールである。文字サイズも拡大表示できるため、学習者から複雑な字形の漢字が教科書や電子辞書よりも確認しやすくいいといった意見もあった。『IKB1』L9は出題解答型の練習で、『IKB2』と比べると練習内容の複雑さも少ないため、タブレット端末を使わずにワークシートで選択肢を提示しているが、今後タブレット端末の使用も検討したいと考えている。

### 3.1.4 解答記入欄

解答は、答えのカードを取ったり口頭で答えるだけのものと、書いて答えるものがある。後者については、解答を記入するためのワークシートを用意した。解答記入欄は『IKB1』では出題解答型でのみ用意した。これは出題者が解答者の選んだ答えが正解かどうか確認をしやすくするためと、出題解答型では出題者が口頭で出題するが、その情報の一部をワークシートに記載することによって、設問を聞き取りやすくするための2つの理由がある。『IKB2』ではすべての課においてワークシートを用意した。これは、学習者からの復習用に持ち帰りたいという要望を受けて対応したもので、口頭で一通り練習をして正解を確認した後、確認用にワークシートに記入するという方法を取っている。

### 3.1.5 解答（正解）

学習者が確認するための解答（正解）については練習タイプ別に次のように3ツールを使い分けた。

まず、出題解答型の練習では、出題者の持つ設問のカードに解答もあわせて提示し、出題者が解答を教える形とした。学習者自身で設問を考えてワークシートに記入する『IKB1』L1では、出題者のワークシートに解答が示されている。出題者から解答を教えることで、学習者間のやりとりを活性化することを目的としている。ただ、『IKB2』L4-1と『IKB2』L10-2では出題者の持つ設問のカードに加えてタブレット端末でも解答を示した。これらは意味や例文を聞いて語を選ぶ練習で、意味や例文中にも難易度の高い語が多く含まれていることから、タブレット端末で設問もあわせて提示することで、細かい点も確認しやすいよう配慮したものである。

次に、協力解答型の練習では、主にタブレット端末で解答を提示した。教材にタブレット端末を取り入れる前は、選択肢のカードの裏面に解答を提示することが多かったが、学習者がカードを並べる際にどちらの面を上にするか迷っている様子や、カードを取った学習者だけが解答を確認して他の学習者が確認できていない場面も見られたことから、タブレット端末を用いたところ、これらの問題は解消することができた。『IKB1』L5-1と『IKB2』L7-1ではいずれも次の練習（『IKB1』L5-2、『IKB2』L7-2）でカードの裏面の解答をヒントや設問として利用することから、タブレット端末ではなく、カードの裏面に解答を提示した。ワークシートでは一度に全設問の解答が提示されるが、タブレット端末やカードでは一問ずつ解答を提示できるため、学習者は確認がしやすくなる。

### 3.2 ツールの組み合わせ

前述の通り、グループ練習の導入当初はワークシートとカードの2ツールを組み合わせで教材を作成していたが、ワークシートに書かれた指示文を理解するのに時間がかかったり、カードの枚数が多くて練習が滞っていたり、解答（正解）の確認が十分にできていない様子が録音データ等から観察された。そこで、2013年度からタブレット端末も取り入れたところ、これらの問題点の解消にかなりの効果が見られた（濱田・高島，2014）ため、その後はワークシートとカードとタブレット端末の3ツールを組み合わせで教材を作成するようになった。ただ、学習者同士のやりとりを観察したところ、ワークシートとカード、タブレット端末とカードといった2ツールを組み合わせた教材では概ね順調に練習を進められていたが、同時に3ツールを組み合わせた教材では練習方法の理解に時間がかかったりやり方を間違えたりする様子も見られた。例えば『IKB2』L2-2では、以前の教材は設問でカード、解答の選択肢でワークシート、解答（正解）でタブレット端末を用いていたが、特にワークシートからタブレット端末に戻って練習を進める際に戸惑っている学習者が多かった。ワークシートは情報が一括提示されるため、学習者だけで多くの情報の中からその時点で必要な情報を読み取るのは難しかったものと思われる。そこで、設問と解答の選択肢についてもタブレット端末で提示し、ワークシートは正解確認後に解答を記入する際に用いるという方法に改めたところ、練習が円滑に進むようになった。設問と選択肢と解答（正解）に使用するツールは2つ以内としたほうがよいと考えている。『IKB1』L6-1については2ツールで作成するのが難しく、2016年度前期の時点でも3ツールを使用しているが、練習の進行中に混乱が見られる場合があり、どのように改善していくかが今後の課題である。

また、前述したように、『IKB2』では学習者からの要望を受け、一通り練習して正解を確認した後で持ち帰って復習に使えるようにワークシートに解答記入欄を設けていることから、L1、L7、L14以外の課ではタブレット端末やカードで提示される設問と同じものがワークシートにも記載されている。しかし、学習者が誤解してタブレット端末ではなく、ワークシート上で練習を進めてしまうことがあり、本来なら設問ごとに正解が確認できたはずが、それがないまま練習を進行する様子がたびたび見られた。2つのツールに同じ情報を載せたことで学習者が混乱してしまったものである。解答記入用のワークシートは練習終了後に配布するなどの配慮が必要だと考えている。

## 4 まとめ

まとめとして、表4にワークシート、カード、タブレット端末、各ツールの特徴を整理した。それぞれの特徴をもとに3ツールを適切に組み合わせることでより使いやすい教材作成が可能となること、ただしツールが多すぎると学習者の負担になるため、同時使用は2ツール以内としたほうがよいことを述べてきた。IT環境の整備が進む中、すべてを電子教材化するという方法もあるが、この場合、コンピュータ等に関してかなり高度な知識がないと作成が困難であり、開発にコストがかかる。これに対して本稿で紹介した教材は、ワークシートとカードはワープロ文書で作成したものを印刷し、タブレット端末はPowerPointやKeynoteなどの一般によく使われているプレゼンソフトで文字を入力したり画像を貼り付けたり簡単なアニメーション機能を加えたりしたスライドを用いたもので、基本的なPC操作ができれば誰でも簡単に作成できる。場所も机と椅子がある部屋であれば、どこでも練習できる。これらが最大の利点である。今後は、引き続き教材の改訂を行いながら、開発教材をインターネット上でダウンロードできるようにするなど公開方法を検討していく予定である。

表4 各ツールの特徴

		ワークシート	カード	タブレット端末
教材全体	情報を一度にまとめて提示する	◎	○	△
	情報を分けて提示する	△	◎	◎
	練習の進行に合わせその段階で必要な情報のみを提示する	/	△	◎
	練習途中で既に行った練習内容を確認する	◎	○	/
	学習者自身で情報を書き加える	◎	△	/
	練習を行うために広いスペースを確保しなくて済む	△	/	◎
	練習開始前の準備時間が短くて済む	◎	/	◎
	文字を大きく見やすく提示する	/	○	◎
	学習者が自宅に持ち帰って復習に用いる	◎	/	/
設問、 解答の選択肢	学習者全員で同じ情報を共有する	○	○	◎
	学習者それぞれが異なる情報を持つ	◎	◎	/
	他の学習者に自身の持つ情報が見えないようにする	○	◎	/
	他の学習者に自身の持つ情報の一部を見せる	△	◎	/
	漢字や語の難易度に合わせた提示順にする	○	/	◎
	ヒント表示機能を盛り込む	/	/	◎
設問	学習者で設問の提示順を変更する	○	◎	/
	学習者自身で設問内容を考える	◎	/	/
解答の選択肢	全体の設問数や練習の進行状況を把握する	◎	◎	/
	練習が進むにつれて選択肢数が減り、答えやすさが増す	○	◎	/
	解答数や速さを競うといったゲーム的要素を盛り込む	△	◎	/
解答記入欄	漢字の書き練習を行う	◎	/	/
	練習終了後に教師がフィードバックを行う	◎	/	/
解答(正解)	出題者から伝えることで学習者同士のやりとりが増す	○	◎	/
	協力解答型で一問ずつ解答(正解)を確認しながら進める	/	◎	◎

\*◎は「大変適している」、○は「適している」、△は「可能である」を示す。  
(/の中にも可能なものがあるが、実現には多くの労力や工夫が必要となる。)

## 付記

本稿は2016年日本語教育国際研究大会(2016年9月10日)「漢字クラスにおけるグループ練習用教材—ワークシート、カード、タブレット端末の効果的な活用法—」(濱田美和・高島智美)での発表内容を大幅に加筆修正したものである。また、本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)「グループ練習活動を取り入れた漢字授業のデザインと教材開発」平成27-30年度(課題番号JP15K02636)による成果の一部である。

## 注

- 1) 日本の大学で学ぶ外国人留学生を対象とした授業で、交流協定校からの短期留学生、日本語・日本文化研修留学生、大学院生、研究生等が受講している。
- 2) 1クラス2~3グループで行うことが多い。習熟度別に複式授業とする期もあるため、クラス全員がグループ練習を行うわけではない。複式授業の際は、グループ練習の間、教師は他のレベルの学習者への指導を行っている。
- 3) グループ練習の内容は教材の改訂にあわせて学期ごとに少しずつ修正を加えている。表1で示した内容は2016年度前期のものである。

## 参考文献

- (1) 濱田美和・高島智美(2013)「漢字学習のためのグループ練習用教材の開発—日本語学習者同士で円滑に学習活動を行うための方法を探る—」『富山大学留学生センター紀要』第12号, pp.1-8
- (2) 濱田美和・高島智美(2014)「グループ練習におけるタブレット端末の活用—日本語学習者向け漢字教材の改良とその効果—」『CIEC 研究会報告集』5巻, pp.46-51







# 1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告（2015年4月～2016年3月）

副島 健治

バハウ・サイモン・ピーター

## 1 はじめに

富山大学留学生センター（1999年4月1日設置）が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活に関わる指導だけでなく、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すなど、センターの機能と役割が拡大した意味合いを持つように位置付けられた。

本報では2015年4月～2016年3月において、日本語教育以外に関わる本センターの主な業務について報告する。

## 2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言および、富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と水曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。

受けた相談件数：115件

内訳：外国人留学生に対する指導・助言（45件）、日本人学生に対する指導・助言（55件）、

その他（富山大学教職員、卒業生、地域住民等からの相談）（15件）

海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談にのっている。のべ面談回数は204回であった。

相談における主な希望留学先は、カナダ、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド等の英語圏諸国、ロシア、スイス、フランス、ドイツ、フィンランドなどであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：55人

（内訳）人文学部（25人）、人間発達科学部（8人）、経済学部（14人）、理学部（3人）、

工学部（3人）、理工学教育部（2人）

## 3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

### （1）「日本事情」教育

日本語研修コース「日本事情」の授業に、受講する留学生の他に留学生の先輩や日本人学生にもサポートに入ってもらい、合同授業を行った。この授業は、教師を含む授業参加者相互の対話型（インターアクティブ）の形態をとり、留学生自身のまなざしを通して、日本の文化と日本以外の国の文化との異なる点および類似性の両方を認識するとともに、留学生がそれを理解し、日本（富山）での学修や生活に活かしていけるようにすることが目的である。また、その授業を進める経緯の中で日本人学生のサポートもあって、留学生の日本語学習自体も促進されていくという副産物も期待される。

また、富山大学の学生の海外留学にかかる支援の一環として、「日本事情」受講の留学生と、海外留学を目指して準備している日本人学生の合同授業を行ない、日本や留学生の出身国・地域の事情などに

ついて、日本語と英語で交流・交換する授業が実現した。成果としては、双方にとっても有意義な経験となったことである。今後もこの取り組みは、学内における1つの国際交流と異文化理解促進の活動として継続していきたい。

## (2) スタディ・エクスカーション

毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカーションを実施している。

### ・前期のスタディ・エクスカーション

#### <実施日・見学場所>

2015年6月19日(金) 天気：曇天(小雨)

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生 6人

日本人学生 4人

教職員 5人

合計：15人



(2015年6月19日(金) 民俗民芸村にて)

### ・後期のスタディ・エクスカーション

#### <実施日・見学場所>

2015年11月20日(金) 天気：快晴

新湊きっときと市場、新湊かまぼこ夢テラス海王、  
海王丸パーク、新湊大橋(あいの風プロムナード)

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生 22人

日本人学生 4人

教職員 9人

合計：35人



(2015年11月20日(金) 新湊大橋にて)

スタディ・エクスカーション後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生の満足感はたいへん高くこの企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「見学時間をもっと長くしてほしい」などの改善を求める意見もあった。

## (3) ホームビジットとホームステイ

センターの日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験をさせるために、ホームビジット(日帰り)またはホームステイ(1泊2日)を実施している。例年、ホームビジットは富山市民国際交流協会(以下、「TCA」とする。)の協力と斡旋、ホームステイは公益財団法人とやま国際センター(以下、「TIC」とする。)の協力と斡旋により実現しているが、本年度は、昨年度に引き続き元富山県婦翔会のメンバーからも協力いただいた。また今年度は高岡市国際交流協会にもホストファミリーの斡旋の協力をいただいた。

ホームビジットまたはホームステイのいずれかを体験するかは日本語研修コースに所属する留学生の希望に基づいている。2015年度は、前期は全員がホームステイを希望し、後期は5人がホームステイ、1人がホームビジットを希望した。

ホームステイの実施に当たっては、その事前指導と事後指導も行った。プログラム終了後、学生は活動報告書を提出するとともに、ホストファミリーにお礼の手紙を書いた。

#### 実施日・参加者数

##### 前期のホームステイ

###### <日時・参加者数>

2015年6月13日(土)～14日(日) [1泊2日] 6人(日本語研修コース32期生)

事前指導：6月8日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

事後指導：6月15日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

##### 後期のホームステイ

###### <日時・参加者数>

2015年12月5日(土)～6日(日) [1泊2日] 4人※(日本語研修コース33期生)

※ ホームステイを希望していた5人のうち1人は病気のため参加を中止した。

##### 後期のホームビジット

###### <日時・参加者数>

2015年12月5日(土) 1人(同上)

事前指導：11月30日(月) 15:15 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

事後指導：12月7日(月) 15:00 場所：国際交流センター2階 コンピュータ室

#### (4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。

加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

###### <日時・参加者数>

2015年8月7日(金) 15:30～17:30 International Friendship Party 参加人数：28人

2015年10月28日(水) 15:30～17:30 ウェルカムパーティ 参加人数：28人

2015年12月18日(金) 15:30～17:30 Year-End Party 参加人数：30人

2016年2月3日(水) 15:30～17:30 Farewell Party 参加人数：35人

## 4 関係団体との協力と連携

### (1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成27年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
SGH 3 年人文社会科学科英語ゼミ特別講座	5月25日(月) 6月22日(月)	富山県立高岡高校	ゼミ講師
富山ライオンズクラブ例会での講演	5月26日(火)	富山ライオンズクラブ	卓話講演
ルンビニ園児との田植え体験	6月 6日(日)	富山ライオンズクラブ	参加
平成27年度富山市民大学講座	7月10日(金)	富山市教育委員会	講師
カンボジア国研修生との交流行事	9月 1日(火)	富山県カンボジア協会	参加
パプアニューギニア理解講演会	9月 6日(日)	富山県青年国際交流機構	講演
ルンビニ園児との稲刈り体験	10月24日(日)	富山ライオンズクラブ	参加
富山市立富山外国専門学校講演会	11月 2日(土)	富山外国専門学校	講演
国際フェスティバル	11月 8日(日)	富山市国際交流協会	参加
新年交流会	2016年 1月17日(日)	富山市民国際交流協会	参加
北陸新幹線開通1周年記念行事	3月13日(日)	富山県、富山県ルーマニア協会(共催)	講演

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成27年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

## (2) 自治体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力関係はたいへん重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。2015年度は今後の協力関係をさらに構築するため以下の機関を訪問し、富山大学国際交流センターの説明、意見・情報交換、相互協力の依頼等を行った。

2015年 5 月12日(火) 14:00	高岡市国際交流協会、高岡フィンランド協会
2015年 6 月29日(月) 13:00	南砺市友好交流協会
2015年 9 月18日(金) 15:00	呉羽青少年自然の家
2016年 2 月19日(金) 10:00	滑川市役所企画政策課
同 日 13:00	魚津市役所地域協働課
2016年 2 月24日(水) 11:00	黒部市役所企画政策課
同 日 15:00	入善町役場企画財政課(教育委員会)

## 5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留學生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内をセンターの談話室に掲示している。

## 6 外国からのセンター訪問

国際交流センターに以下(非公式なものを除く)のような外国からの訪問があり、意見・情報交換等を行った。訪問者がセンター教員の授業を見学することもあった。

2015年 4 月27日(月) 14:00	アメリカ、ハワイ大学マウイカレッジより(2名) ロリ テラガワチ氏(生涯及び継続教育/訓練局 局長)
-----------------------	---

ペドロ フェインノート氏（マウイ言語インスティテュート プログラムコーディネーター）  
 2015年6月1日（月）14:30 アメリカ，マーレイ州立大学 より  
 ジェイミー ブース氏（留学アドバイザー）  
 2015年6月3日（水）14:00 アメリカ，ハワイ大学マウイカレッジより  
 ラップ ミヤノ カズコ氏（日本語講師）  
 2015年8月6日（木）9:00 エジプト，カイロ大学より  
 アハマド ファトヒー氏（文学部教授）  
 2015年11月12日（木）9:00 ニュージーランド，ユニテック工科大学より  
 ニック シャックルフォード氏（言語学部 学部長）  
 2016年2月8日（月）9:00 エジプト，カイロ大学より  
 アハマド ファトヒー氏（前出）  
 2016年3月11日（金）9:00 ニュージーランド，ユニテック工科大学より（3名）  
 ニック シャックルフォード氏（前出）  
 ジェームズ ブロー氏（国際部長）  
 ブロウイン ワッツ氏（留学・国際交流マネージャー）  
 2016年3月25日（金）9:00 オランダ，ライデン大学より  
 山本絵美氏（人文学部地域研究学院日本研究科講師）

## 7 オリエンテーション

### (1) 学部新入留学生のためのオリエンテーション

学部教職員や学生支援グループ等の協力により，全学のオリエンテーションとは別に，学部新入留学生を対象としたオリエンテーションを実施した。また，大学院生も希望すれば参加できることとした。

<実施日時・場所>

2015年4月3日（金）9:30～13:45 富山大学学生会館2階 多目的利用室3～5

<参加者>

新入留学生：19人

教職員（国際交流センター教員，学部教職員，学務部職員（留学支援チーム・学生支援チーム））

<オリエンテーションの主な内容>

#### ・ガイダンス

- 1 授業料，授業料免除，奨学金等についての説明
- 2 国際交流センターからの注意事項（生活指導，危機管理等）
- 3 総合情報基盤センター，キャリアサポートセンター，学生支援センターから説明
- 4 学部教職員からの注意事項（大学生活の心得，除籍・懲戒・退学・休学，チューター制度，アルバイト等）
- 5 キャンパスツアー

#### ・懇親会（昼食）

### (2) 新規来日非正規生（研究生，科目等履修生，特別聴講学生）のためのオリエンテーション

学部留学生（正規生）のオリエンテーションとは別に，研究生，科目等履修生，特別聴講学生を対象としたオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所・参加者数>

2015年4月15日（木）12:20	共通教育棟4階A43教室	13人
2015年10月9日（水）12:15	共通教育棟4階A33教室	38人



- ・学内・学外における諸手続きについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

2015年4月9日(木) 17:40~19:00 共通教育棟1階C11教室

新入留学生 17人、協力した先輩留学生 6人

国際交流センターでは、エジプトのカイロ大学からアハマド・ファトヒー博士を招聘して、2回の講演会を主催して開催した。第1回目は、海外留学を目指す日本人学生が聴講することを第一の目的にしていたので、それにちなんだ演題となっている。第2回目は、アハマド博士の専門的視点から日本文化を分かりやすく講演していただいた。講演後に行なった聴講者に対するアンケート結果によると、たいへん興味深く有意義な講演であったことが示されていた。

第1回 国際交流センター主催講演会

アハマド ファトヒー（カイロ大学文学部教授）

“日本留学体験を通して大発見～日本人の国民性とエジプト人の国民性の違い～”

## 日時：2015年8月5日（水） 9:30 受付 10:00～11:30

場所：共通教育棟 4 階 A43教室

＜講演者＞

アハマド ファトヒー（カイロ大学文学部教授）

## “日本・エジプト大衆文化 中世の語り物文芸”

## 2016年2月10日(水) 12:30 開場 13:00~15:00

場所：共通教育棟 2 階 C21 教室

第1回講演会 ポスター・チラシ

第2回講演会 ポスター・チラシ



第二回目の講演会では、講演に引き続いて「元留学生によるパネル対談」としてパネルディスカッションも行った。

パネルディスカッション

＜実施日・場所＞

2016年2月10日（水） 15:00～15:30（講演に引き続き実施）

テーマ：“日本留学を巡って”

パネラー：アハマド ファトヒー（カイロ大学文学部教授）

バハウ サイモン ピーター（富山大学国際交流センター教授）

司会：副島健治（富山大学国際交流センター教授）

## 9 日本人学生の留学に関する啓発の活動

### 国際交流センター主催夏季セミナー

富山大学の学生の海外への留学の促進のため、2回の国際交流センター主催のセミナーを実施した。対象はいずれも、海外留学を目指している富山大学の学生である。

第1回目は、海外留学をした場合、日本人としてのアイデンティティを問われる場面も少なくないことから、留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座とした。セミナーの二日目には、富山大学で学ぶ留学生に海外留学を目指す学生への「応援スピーチ」をしてもらった。セミナー最終日は、受講生に前出のセンター主催講演会も聴講させた。また、同じく最終日には国際交流センター日本語研修コースで学ぶ留学生のスピーチ発表会が行われていたため、それも聞きに行くように指導した。加えて、セミナー1日目と2日目の昼休みに、ランチミーティング形式の「留学相談」（希望者のみ）を行った。

第2回目のセミナーは、留学先として英語圏を選択する学が多いことから、留学を目指す学生のための英語学習について考え学ぶ“留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座”とした。

いずれも夏季集中セミナーの形で実施し、受講者で条件を満たした者にはセンター長名で受講証明書（Certificate）を発行した。



第1回セミナー風景（1日目）

第一回 国際交流センター主催 夏季セミナー“留学を目指す学生のための「日本語・日本事情」講座”

＜実施日・場所＞

2015年8月3日（月）～8月5日（水） 3日間

共通教育棟 A43 教室

＜講師・テーマ＞

講師：近藤隆（医学部教授，センター長）…“NIH 留学で学んだもの”

橋爪和夫（人間発達科学部教授，副センター長）

バハウ サイモン ピーター（国際交流センター専任教員）

…“「日本の文化」について考える。”

副島健治（国際交流センター専任教員，副センター長）…“日本語ってどんな言語？”

小木曾左枝子（国際交流センター専任教員）…“「日本語を教える」実践講座～英語で日本語を説明する”

＜富山大学で学ぶ外国人留学生による応援スピーチ＞

スピーカー：エルデネバートル オユーンハンド（富山大学工学部4年 モンゴル出身）

スピーチのテーマ：“お互いに学びましょう”

＜留学相談＞

以下の教員が担当した。



## 11 おわりに

富山大学には334人（2016年1月5日現在）の外国人留学生在籍している。海外から来た留学生たちが富山大学でより安心して留学生活を送ることができるように、本学の関係者をはじめとして、学外の自治体等の諸団体、あるいは地域の方々の暖かい理解と協力、多大な支援を頂いている。そのことについて、まずはこの誌面をかりて感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは発展的に解消し、国際交流センターとなって、従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく、さらには外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生の海外への送り出しなど、その役割は拡大した意味合いを持つように位置付けられた。センターの教員、スタッフに課せられたミッションは重いものであると認識すべきであろう。そのことを踏まえた上で、センターの教員とスタッフ全員がセンターの業務についての共通理解をはかり、富山大学の各部局および自治体をはじめとする地域との連携をはかりながら、一層の努力をしていくことが求められていると言える。

## 2. 日本語プログラム報告 (2015年5月～2016年3月)

田中 信之  
小木曾左枝子  
濱田 美和  
副島 健治

国際交流センターでは、富山大学に在籍する外国人留学生のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、これら4つを提供している。2015年度は、前期、後期ともに、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コースを開講した。日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、2015年度は学生の配置がなかったため、開講しなかった。

2015年度は、前期に63人、後期に74人の外国人留学生及び外国人研究者がセンターの日本語プログラムを受講した。各日本語プログラムでは、専任教員がコーディネーターを務め、毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組むことができた。

2015年度の新たな取り組みとしては、後期より、これまで上級レベルの科目のみ提供していた総合日本語コースに新たに中級レベルの科目を設けたことと、これにあわせてセンターの日本語プログラムの全科目名を規則性のある新名称に整備したことが挙げられる。また、日本語研修コースと日本語課外補講の初級レベルの科目の多くは合同授業として開講していたが、2014年度後期に受講者間で日本語の習得状況に大きな開きが出たためにコース途中から特別クラスを設けて対応したことを受け、2015年度は午前の授業のみ習得状況別に2クラス設けることにした。そして、2014年度に引き続き、高岡キャンパスで前期、後期を通じて初級レベルと中・上級レベルの科目を各1科目試行的に開講した。

日本語プログラム以外にも、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行い、富山大学で学ぶ留学生の日本語学習を授業以外の面からも支援した。

以下、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、日本語学習支援サイト RAICHO の順に、2015年度の活動状況について報告する。

# 日本語研修コース報告（2015年4月～2016年3月）

田中 信之

## 1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。1999年10月に富山大学国際交流センターの前身である留学生センターが開設され、第1期日本語研修コースが開講した。2013年10月に留学生センターが改組、国際交流センターが設置され、2016年3月には第33期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2015年4月から開講した第32期と同年10月から開講した第33期について報告する。

## 2 受講者

第32期は、大使館推薦の国費研究留学生が3人、学内公募による私費留学生4人が受講した。私費留学生のうち1人が本人の都合でコースを辞退した。第33期は、文部科学省によって配置された国費教員研修留学生1人、教員研修留学生1人、学内公募による私費留学生4人が受講した。私費留学生のうち1人が病気のため、コースを辞退した。修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者（第32期・第33期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
32	メリエム ハッダール	アルジェリア	富山大学 新田 淳美 教授
	センダ カルティカ ラカインサ	インドネシア	富山大学 森田 洋行 教授
	ジンス ドナルド ゲルピ アゴンマ	ベナン	富山大学 門脇 真 教授
	ファビオラ ラマ	アルバニア	富山大学 馬 駿 教授
	周 曉 希（シュウ ギョウキ）	中 国	富山大学 林 直人 准教授
	範 霄 燕（ハン ショウエン）	中 国	富山大学 垣田 直樹 教授
33	トン タイ	ミャンマー	富山大学 山根 拓 教授
	サウドゴ スウレイマネ マネド	ブルキナファソ	富山大学 金 奉吉 教授
	ライハン ナスール	中 国	富山大学 二階堂 敏雄 副学長
	アクタル ファテマ	バングラデシュ	富山大学 馬 駿 教授
	肖 建強（ショウ ケンキョウ）	中 国	富山大学 チャビ ゲンツィ 教授

## 3 コース担当者

センター専任教員5人（小木曾左枝子、副島健治、田中信之、バハウ サイモン ピーター、濱田美和）と、非常勤講師8人（加藤敬子、高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、山本百合子、横堀慶子）が授業を担当し、田中信之がコースのコーディネートをを行った。

## 4 コーススケジュール

第32期は、2015年4月9日（木）に開講式、同年9月25日（金）に修了式を、第33期は、2015年10月7日（火）に開講式、2015年3月3日（火）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を



行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第32期>

2015年	4月6日(月)	学内公募選考
	4月7日(火)	コースオリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
	4月9日(木)	開講式
	4月10日(金)	授業開始
	6月13日(土)～6月14日(日)	ホームステイ
	6月19日(金)	スタディー・エクスカージョン(富山市民俗民芸村)
	6月26日(金)	「私の国」発表会
	7月30日(木)	授業終了
	7月31日(金)～8月4日(火)	スピーチ練習, 文集作成
	8月5日(水)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
	9月25日(金)	修了式

<第33期>

2015年	10月5日(月)	学内公募選考
	10月6日(火)	コースオリエンテーション, 挨拶の練習, ひらがな
	10月7日(水)	開講式
	10月8日(木)	授業開始
	11月20日(金)	スタディー・エクスカージョン(射水市海王丸パーク等)
	12月5日(土)～6日(日)	ホームステイ・ホームビジット(12月5日のみ)
	12月18日(金)	「私の国」発表会
	12月23日(水)～2015年1月4日(月)	冬季休業
2016年	2月9日(火)	授業終了
	2月10日(木)～17日(水)	スピーチ練習, 文集作成
	2月18日(木)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
	3月3日(木)	修了式

## 5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った。初級クラスの「読解・作文」「聴解」「文字・漢字」「会話」の計4コマ、および、中級クラスの「文法」10コマと「漢字」「聴解」「会話」各1コマの合計13コマは日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である(後期より、日本語プログラムの全科目名を規則性のある新名称に整備されたため、以上の科目は、初級クラスは「読解・作文 A2」「聴解 A2」「漢字 A2」「会話 A2」、中級クラスは「文法・表現 B2」「文法・読解 B2」「文法 B2」「漢字 B2」「聴解 B2」「会話 B2」となった)。初級クラスの「文法(文法 A2)」については日本語課外補講においても同科目が開講されたため、日本語研修コースの授業の難度に合わない学習者はそちらを受講することも認めた。

また、通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第32期は、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の二つのレベルに分けて授業を行ったが、第33期は中級レベルの受講者がおらず、初級レベルの受講者のみであった。表2、3に第32期、第33期の時



間割を示す。

## 5.1 時間割

表2 第32期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤)	文法A (高島)	文法 (加藤)	文法A (高島)	読解・作文 (加藤)	漢字 (濱田)	特別指導 (濱田・小木曾)	特別指導 (田中)
火	文法 (田中)	文法B (松岡)	文法 (田中)	文法B (松岡)	聴解 (藤田)	コンピュータ (田中)	コンピュータ (濱田)	読解 (小木曾)
水	文法 (高島)	文法A (中河)	文法 (高島)	文法A (中河)	文字・漢字 (小木曾)	会話 (横堀)	日本事情 (バハウ)	
木	文法 (永山)	文法B (副島)	文法 (永山)	文法B (副島)	コンピュータ (田中)	聴解 (横堀)	語彙・作文 (横堀)	コンピュータ (濱田)
金	文法 (山本)	文法C (小木曾)	文法 (山本)	文法C (小木曾)	会話 (小木曾)	作文 (田中)	特別指導 (田中・小木曾)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

表3 第33期日本語研修コース時間割

	1 (8:45~10:15)		2 (10:30~12:00)		3 (13:00~14:30)		4 (14:45~16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法A2 (加藤)	文法・表現B2 (高島)	文法A2 (加藤)	文法・表現B2 (高島)	読解・作文A2 (加藤)	漢字B2 (濱田)	特別指導 (濱田・小木曾)	特別指導 (田中)
火	文法A2 (田中)	文法・読解B2 (松岡)	文法A2 (田中)	文法・読解B2 (松岡)	聴解A2 (藤田)	コンピュータB2 (田中)	コンピュータA2 (田中)	読解B2 (小木曾)
水	文法A2 (高島)	文法・表現B2 (中河)	文法A2 (高島)	文法・表現B2 (中河)	漢字A2 (小木曾)	会話B2 (横堀)	日本事情A2/B2 (バハウ)	
木	文法A2 (永山)	文法・読解B2 (副島)	文法A2 (永山)	文法・読解B2 (副島)	コンピュータA2 (濱田)	聴解B2 (横堀)	語彙・作文A2 (横堀)	コンピュータB2 (濱田)
金	文法A2 (山本)	文法B2 (小木曾)	文法A2 (山本)	文法B2 (小木曾)	会話A2 (小木曾)	作文B2 (田中)	特別指導 (田中・小木曾)	特別指導 (濱田)

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

## 5.2 日本語科目

基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

また、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

＜初級クラス＞

文 法 『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』(スリーエーネットワーク)

(文法A2) 『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)  
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)

聴 解 『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ 聴解タスク25』(スリーエーネットワーク)

(聴解A2) 『わくわく文法リスニング99』(凡人社)

- 『絵とタスクで学ぶにほんご』（凡人社）  
『にほんごきいてはなして』（ジャパンタイムズ）  
『楽しく聞こう』（凡人社）  
読解・作文 『みんなの日本語初級 I, II 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）  
（読解・作文A2） 『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）  
文字・漢字 『BASIC KANJI BOOK VOL.1 基本漢字500』（凡人社）  
（漢字A2）

#### <中級クラス>（第32期のみ該当）

- 文 法 A 『J. Bridge』（凡人社）  
文 法 B 『日本語中級 J301』（スリーエーネットワーク）  
『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）  
文 法 C 『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）  
漢 字 『BASIC KANJI BOOK VOL.2 基本漢字500』（凡人社）  
読 解 『テーマ別中級から学ぶ日本語ワークブック』（研究社）  
聴 解 『中級からはじめる ニュースの日本語 聴解40』（スリーエーネットワーク）  
『聞いて覚える話し方 日本語生中継・初中級編 1』（くろしお出版）  
作 文 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

### 5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

### 5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いために難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

〔参考テキスト〕 『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』（スリーエーネットワーク）

### 5.5 口頭発表プロジェクト

#### 5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。教員研修留学生についても、このコースが終わると、教育に関するさまざまな授業を日本語で受けなければならないし、授業見学を通じて現場の教員とのやりとりが必要となる場面も多い。本コースでは、留学生

が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生はこれまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、それぞれ原稿とスライドを作成してスピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2 参照)。さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第32期、第33期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3 参照)。

### 5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第32期は2015年8月5日(水)に、第33期は2016年2月18日(木)に、それぞれ午後1時半より開催した。第32期は32人、第33期は22人の出席者があった。出席者は富山大学の留学生および日本人学生、学長および理事、学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学生のホストファミリー、国際交流課留学支援チーム職員などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、語彙・作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、3人の国際交流センター教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

### 5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

## 6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト(『みんなの日本語』)に基づく定期試験を7回実施した。この定期試験は、筆記試験(文法、作文、読解)、聴解試験、会話試験から構成されるものである(第33期は日本語のレベルによって、一部会話試験を受けない学生もいた)。また、「読解・作文」「文字・漢字」(後期は、「読解・作文 A2」「漢字 A2」)のクラスでは期末試験を実施した。中級クラスでは、「文法 A」・「文法 B」・「文法 C」においてテキストに基づく定期テストを実施した。また、「聴解」「漢字」のクラスではそれぞれ期末試験を実施した。

口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

## 7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるため、学期終了時にアンケート調査を実施している。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、アンケート調査票に記入してもらった。調査項目はコース全体、日本語の授業の内容、テスト、宿題、コンピュータ授業、特別指導、スタディ・エクスカッション、ホームステイ、日本事情、口頭発表プロジェクトの11項目である。回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものとがある。また、自由意見は日本語または英語で記入させた。

それぞれの期の結果を表4、表5に示す。自由意見については、英語で書かれたものは日本語に翻訳して、日本語の誤りがあるものは訂正して掲載する。翻訳・訂正ともにコーディネーターの判断によって行っている。

表4 第32期コース評価

質問及び回答結果 (5段階評価の場合は点が高いほど よい評価であることを示す)	自由意見
<b>(コース全体)</b> コースは役に立ったか： 5.0 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる3人、忙しい3人 日本語は上達したか： とても上手になった1人、上手になった3名、 少し上手になった2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースはとてもいいと思います。先生はしんせつで、わたしたちをたすけてくれました。</li> <li>・コースはとてもやくにたちましたが、いそがしすぎました。</li> <li>・たくさん授業があります。少しの授業がいいと思います。</li> <li>・コースが少し長いです。</li> <li>・にほんごコースのせんせいは、ともしんせつです。</li> <li>・ひょうげん、文法、日本語をよむ能力が上がりました。読めるかんじも増えました。本当に役に立ったと思います。</li> </ul>
<b>(日本語の授業)</b> 授業はどうだったか： 4.8 教科書はどうだったか： 『みんなの日本語』 5.0 『毎日の発音練習』 3.8 『BASIC KANJI BOOK VOL.1』 4.8 『J.brige ジェイブリッジ』 4.0 『日本語中級J301』『J501』 5.0 『中級へ行こう』 4.0 ハンドアウトはどうだったか： 4.5 教師の教え方はどうだったか： 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅぎょうはとてもよかったです。『みんなのにほんご』もとてもよかったです。でも、はつおんはちょっとむずかしかったです。</li> <li>・ちょうかいのじゅぎょうはちょっとすこしです。</li> <li>・授業はとてもおもしろくて、まいにちいろいろ勉強できました。先生はとてもよかったです。</li> <li>・教科書とハンドアウトはとても役立ちました。日本文化がもっと紹介されていたら、もっとよかったです。</li> <li>・たくさんハンドアウトがあったので、ときどきせoirするのがむずかしいかもしれません。ちょうかいとかいわの先生がおなじで、さいしょは時々、どのハンドアウトがどのじゅぎょうなのかわからなくなりました。</li> </ul>
<b>(テスト)</b> テストはどうだったか： 文法テスト 4.8 聴解テスト 4.4 会話テスト 4.8 中級のテスト 4.0 テストは多かったか： 多い2人、ちょうどいい4人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいとおもいます。</li> <li>・ぶんぼうは ときどき むずかしかったです。ちょうかいは ときどき きこえませんでした。</li> <li>・ときどき前回のテストの問題がありました。例えば、今回のテストで「やりもらい」を勉強しましたが、次のテストでも、また同じ問題が出ていました。</li> </ul>

<p>(宿題)</p> <p>宿題はどうだったか：4.7</p> <p>宿題は多かったか：</p> <p>多い3人，ちょうどいい2人，無回答1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題はよかったが，実験などで忙しかったら，大変だろう。</li> <li>・ときどき たくさん しゅくだい が ありました。</li> <li>・多すぎであっても，勉強するには一番いい方法だと思う。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか：4.8</p> <p>ハンドアウトはどうだったか：4.7</p> <p>教え方はどうだったか： 4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのため，よいスライドの作り方（例えば，アニメーションの使い方など）を授業に加えてほしい。</li> <li>・みな せんせい は とても しんせつです。とても忍耐強く，いつも私たちを助けてくれました。</li> </ul>
<p>(特別指導)</p> <p>特別指導はどうだったか： 4.8</p> <p>特別指導は多かったか：</p> <p>ちょうどいい3人，少ない2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チュートリアルは，復習したり，休んだ日の課を勉強できたりして，とても役立った。</li> <li>・とくべつしどう は とても やくにたちました。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクスカージョン)</p> <p>見学は楽しかったか：</p> <p>はい5人，欠席1人</p> <p>見学場所は適当だったか：</p> <p>はい5人，欠席1人</p> <p>見学の時期は適当だったか：</p> <p>はい5人，欠席1人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しぜん が たのしかった。</li> <li>・ぜんぶ が たのしかったです。</li> <li>・友達と先生と一緒に。</li> <li>・みんなでどこかへ行くだけで楽しかったです。</li> </ul> <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと じかん が ほしかったです。</li> </ul>
<p>(ホームステイ)</p> <p>ホームステイは楽しかったか：</p> <p>はい6人</p> <p>時期は適当だったか：</p> <p>はい4人，いいえ2人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のぶんかのべんきょう，日本語ではなしました。</li> <li>・日本人の本当の生活を知ることができて，とてもおもしろかった。</li> <li>・おばあさんの和室へいくことがいちばんたのしかったです。</li> <li>・いろいろな場所へ行きました。</li> <li>・全部。</li> </ul> <p>ホームステイの時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がほとんど終わるころがより良いと思います。ホームステイをしたとき，多くの日本人の言葉がわからなかったり，多くのことが理解できなかったりしたからです。</li> <li>・平日。</li> </ul>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たのしかったです。</li> <li>・日本人の学生はとてもすばらしく，いろいろたすけてくれました。</li> <li>・いい と おもいます。にほんじん と はなすと，よく ならえます。</li> <li>・いろいろなタイプの日本人がわかりました。オープンな人と，はずかしがりやの人がいるのがわかりました。それぞれのタイプに合わせなければなりません。</li> </ul>



日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う 6 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この授業はとても楽しかったです。とてもおもしろい教え方で、日本文化や日本社会を理解することができました。とてもリラックスできました。大好きな授業です！</li> <li>• 日本にすんでいますから、日本のせいかつはしなければなりません。</li> <li>• ここで何年か住むので、できるだけ日本の生活に適応したい。</li> <li>• わたしたちはいま日本で勉強していますから。</li> <li>• はやく日本の生活に慣れます。</li> <li>• 日本文化を理解し、社会に溶け込むためには、日本人の習慣を習うのは重要です。</li> </ul>
<b>（口頭発表プロジェクト）</b> プロジェクトはたいへんだったか： とてもたいへん 2 人，たいへん 4 人 発表会は役に立ったか： 4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このスピーチ の じゅんぴ は たいへんでした。ことば は とても むずかしいですから。でも、スピーチはっぴょうかい は やくにたちました。</li> <li>• 大変でしたが、がんばりました。</li> <li>• じゅんぴ は たいへん だったけど、いい けいけんです。せんせい も みな いろいろ おしえてもらいます。せんせい ありがとう。</li> <li>• せんものことばをならいました。これはとてもいいですが、むずかしいです。</li> </ul>
<b>（その他）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本語のコースはいいとおもいます。わたしはとてもたすかりました。実験で忙しい他の学生にとって、このコースは大変だったと思います。先生は学生にそのことを知らせて、相談すべきです。でも、全体としては、このコースはとても有益です。センターのスタッフのみなさんも、とても親切でした。</li> <li>• じむのひととせんせいはとてもしんせつです。</li> <li>• 発表しないほうがいいです。</li> <li>• コースがもう少し長ければ、学習環境がより良くなると思います。</li> </ul>

表 5 第33期コース評価

質問及び回答結果 (5 段階評価の場合は点が高いほど よい評価であることを示す)	自 由 意 見
<b>（コース全体）</b> コースは役に立ったか： 4.8 スケジュールはどうだったか： 忙しい 3 人，ちょうどいい 2 人 日本語は上達したか： 上手になった 5 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本で せいかつする とき、日本語を はなさなければなりませんから、コースは やくに たちました。</li> <li>• これからも日本語先生たちは、いろいろな国の語を べんきょうした ほうがいいとおもいます。感謝します。</li> <li>• コースのじゅぎょうは、あさ8：45から午後4：15までです。時間が長いので、私にとって、午後二番目の授業の時、ちょっと集中できませんでした。そして、コンピュータ教室の空気はよくないです。</li> </ul>



<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか： 5.0</p> <p>教科書はどうだったか：</p> <p>『みんなの日本語』 5.0</p> <p>『毎日の発音練習』 4.5</p> <p>『(新版) BASIC KANJI BOOK VOL.1』 4.8</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 4.8</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 4.8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• よかったです。</li> <li>• 私は意見がないです。感謝します。</li> <li>• もっと教科書で勉強できない知識を勉強したいです。</li> </ul>
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか：</p> <p>文法テスト 4.8</p> <p>聴解テスト 4.6</p> <p>会話テスト 5.0</p> <p>テストは多かったか：</p> <p>多い1人, ちょうどいい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テストがあるので, たくさん れんしゅうできました。</li> <li>• 私はいいとおもいます。</li> <li>• ちょうかい の おとは ときどきよくなかったです。</li> <li>• 時々テストに勉強していない文法がでます。</li> </ul>
<p>(宿題)</p> <p>宿題はどうだったか：4.8</p> <p>宿題は多かったか：</p> <p>ちょうどいい5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• しゅくだい があるので, ふくしゅうできました。</li> </ul>
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか：4.6</p> <p>ハンドアウトはどうだったか：4.6</p> <p>教え方はどうだったか：5.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンピュータのじゅぎょうなので, 日本語でかけます。</li> <li>• 先生はとてもいいです。くわしく おしえました。</li> <li>• 私はもう勉強しましたから。</li> </ul>
<p>(特別指導)</p> <p>特別指導はどうだったか： 4.6</p> <p>特別指導は多かったか：</p> <p>ちょうどいい2人, 少ない3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とくべつしどうは ひつようです。</li> <li>• 先生はもっとくわしくおしえたほうがいいとおもいます。いまのとくべつしどうの内容はすくない。時間もすくない。</li> <li>• これは一番好きな授業です。</li> </ul>
<p>(スタディ・エクサクション)</p> <p>見学は楽しかったか：</p> <p>はい5人</p> <p>見学場所は適当だったか：</p> <p>はい5人</p> <p>見学の時期は適当だったか：</p> <p>はい5人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• そのぼしょへ いったことがないので, たのしかったです。</li> <li>• みんなと いっしょが たのしい。</li> </ul>
<p>(ホームステイ)</p> <p>ホームステイは楽しかったか：</p> <p>はい5人</p> <p>時期は適当だったか：</p> <p>はい5人</p>	<p>何が楽しかったか：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ごかぞくが しんせつに してくれましたから, たのしかったです。</li> <li>• いい経験。</li> <li>• すべて。</li> </ul>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たのしかったです。</li> <li>• とてもおもしろい, たのしかったです。</li> <li>• おもしろかったです。</li> <li>• いいと思います。</li> <li>• じゅぎょうは とても みじかいですから, なにも はなせませんでした。</li> </ul>

日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う 5 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の せいかつに なるために、日本の ぶんかを しらなければならない とも思います。</li> <li>• はい、とてもたいせつだ とも思います。日本にすんでいますから、もっと べんきょうした ほうが良いとも思います。</li> <li>• 日本の せいかつに なるために、日本の ぶんかや日本語などを わからなければなりません。</li> <li>• 授業の内容は多いですから。</li> </ul>
<b>（口頭発表プロジェクト）</b> プロジェクトはたいへんだったか： たいへん 1 人、ふつう 2 人、かんたんだった 1 人 未提出 1 人 発表会は役に立ったか： 5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とてもよかった。</li> <li>• とてもたのしかった、そして、だいじです。</li> <li>• とてもたのしかったです。</li> <li>• すこしいへんだった。しかし、たのしかったです。</li> </ul>
<b>（その他）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私は日本へくるまえに日本語がぜんぜんわかりませんでした。日本語授業で日本語をべんきょうしてから、日本語がはなせるようになります。</li> </ul>

本コースが役に立ったかという問いでは、第32期は5段階評価の5点、第33期は4.8点と評価が高かった。また、自己の日本語の上達度についての問いにも、全員が「とても上達した」「上達した」あるいは「少し上達した」と答えており、これらの点から受講者のコースに対する満足度は高かったということがうかがえる。しかしながら、スケジュールについては、「忙しすぎる」「忙しい」との回答が圧倒的に多かった。既に実験や研究を開始して忙しい学生もあり、毎日1限から4限まで続く集中コースでの学習が大変だと感じられたのであろう。

日本語の授業についての問いでは、第32期は4.8点、第33期は5点と高い評価が得られた。また、教科書・ハンドアウト・教師の教え方についても、高い評価が得られた。自由意見では、ハンドアウトが多くて整理が大変だったというコメントがあった。以前にも、環境の観点から紙の使いすぎはよくないとの指摘があった。なるべく紙を使用しない方法を検討する必要がある。

また、テストについても第32期は4点以上、第33期はすべて4.6点以上と高い評価が得られた。テストの実施回数は6人が「ちょうどいい」と回答した学生が多かった。一方、これまでの期と同様に聴解テストの音声に対する不満が見られた。第33期終了後、聴解テストの改訂を行い、一部問題を見直すとともに、CDで音声を流せるようにした。

宿題についても、第32期は4.7点、第33期は4.8点と高い評価が得られた。また、毎学期宿題の量が多いという評価が多いが、今回は「ちょうどいい」と回答した学生が多く、「宿題があると復習できる」のように、宿題に肯定的な学生も見られた。

コンピュータの授業についても、第32期は4.8点、第33期は4.6点と高い評価が得られた。自由意見では、詳しく指導した教師に感謝するコメントや、学習内容がすでにマスターしていることや、さらに高度な操作を教えてほしいという希望も見られた。口頭発表プロジェクト関しても、第32期は4.2点、第33期は5点と高い評価が得られた。自由意見からも、プロジェクトの意義や有効性を受講者自身が感じ取ることができていると言ってよいだろう。

特別指導については、第32期は4.8点、第33期は4.6点と評価が高かった。昨年度に引き続き、特別指導に対する満足度が高く、さらに時間を増やしてほしいという意見が見られた。

スタディ・エクスカーション、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても全般的に高い評価が得られた。スタディ・エクスカーションとホームステイは、日本の文化や習慣を直接体験できる場として、また日本事情の授業は、日本語のクラスで学んだ日本語を実際に運用できる場として、お互いの文化を学ぶ場として、とらえられているようである。

## 8 コース改善に向けて

コース評価および定期テストの点数等を参考に、初級クラス学期末講師ミーティング（第32期は2015年8月5日、第33期は2016年2月18日開催）において、改善策を検討した。話し合いの結果、以下の2点を実施することとした。

### （1）語彙テストの改訂について

- ①語彙テストの訳語は原則『文法解説書』の訳語に合わせる。ただし、中国語の訳語について翻訳ソフトで同じ語彙（字体）が出てこない場合はこの限りではない。
- ②語彙テストのレイアウト（訳語の載せ方）について、1ページ目は上下に英語・中国語の訳語にし、2ページ目は上下に英語・フランス語の訳語にする。

### （2）『みんなの日本語Ⅱ』の指導内容について

下のレベルのクラスでは学生のレベルにあわせ、扱う文型と扱わない文型を決め、メリハリを付けた授業を行った。今後の授業のため、それらの文型をリスト化することにした。

## 9 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2016年3月に第33期生を送り出した。これまでに文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて205人がこのコースを修了している。

日本語研修コースは、日本語課外補講との合同授業を行ってきた。第32期、第33期では、両方のコースにおいて初級文法クラスが開講できたため、学習者の日本語レベルの差に対応することができた。初級クラスでは、日本語が既習か否か、漢字圏学習者か非漢字圏学習者かで授業の難易度や進度が異なるため、学習者に対し細やかな指導をすることができた。しかし、昨今の大学を取り巻く状況から、このような手厚い指導を続けるのはむずかしい。今後は、国際交流センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、より効率化を図っていかねばならない。

# 日本語課外補講報告（2015年4月～2016年3月）

小木曾 左枝子

## 1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2015度は、前期（2015年4月～9月）と後期（2015年10月～2016年3月）にそれぞれ15週間開講した。

以下、2015年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、2005年10月に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）、高岡短期大学（高岡キャンパス）の3大学が再編・統合したことにより、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパス（2015年度については、2014年度に引き続き、高岡キャンパスにおいても試行的に実施）において国際交流センター（旧留学生センター）が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものとの2つとなったが、本稿では、五福及び高岡キャンパスで国際交流センターが実施している日本語課外補講について報告する。

## 2 受講者

### 2.1 五福キャンパス受講者

前期は、初級クラスが13人（うち2人は中級クラスも同時に受講）、中級クラスが20人（うち2人は初級クラス、1人は上級クラスも同時に受講）、上級クラスが24人（うち1人は中級クラスも同時に受講）、計54人が日本語課外補講（総合日本語コースを含む）を受講した。54人の在籍身分別の内訳は、大学院生21人、特別聴講学生14人、研究生7人、特別研究学生1人、教員研修生3人、科目等履修生（県費留学生）2人、日本語・日本文化研修留学生6人である。国・地域別の内訳は、中国32人、台湾、バングラデシュ各4人、韓国、ガーナ、ロシア各2人、イタリア、インドネシア、コンゴ、シリア、スリランカ、フランス、ブラジル、モンゴル各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部17人、人文学部13人、経済学部9人、経済学研究科4人、人間発達科学研究科3人、工学部、生命融合科学教育部、人間発達科学部各2人、医学部、理学部各1人である。

後期は、初級クラスが22人（うち1人は中級クラスも同時に受講）、中級クラスが24人（うち1人は初級クラス、8人は上級クラスも同時に受講）、上級クラスが31人（うち8人は中級クラスも同時に受講）、計68人が日本語課外補講（総合日本語コースを含む）を受講した。68人の在籍身分別の内訳は、大学院生、特別聴講学生各17人、研究生15人、特別研究学生7人、日本語・日本文化研修留学生6人、教員研修生3人、科目等履修生（県費留学生）、学部生、研究員各1人である。国・地域別の内訳は、中国34人、韓国、台湾各5人、バングラデシュ4人、アメリカ、タイ、ロシア各3人、ガーナ2人、アルバニア、インド、コンゴ、スリランカ、フランス、ブラジル、ベトナム、ミャンマー、モンゴル各1人である。また、所属別の内訳は、人文学部18人、理工学教育部15人、経済学研究科10人、経済学部9人、人間発達科学部5人、生命融合科学教育部、人間発達科学研究科各3人、人文科学研究科、理学部各2人、工学部1人である。

なお、日本語・日本文化研修留学生、及び、協定校からの短期留学生については、日本語課外補講上級クラスで開講している科目を、総合日本語コースの科目として受講している（詳細は、総合日本語コース報告を参照）。

## 2.2 高岡キャンパス受講者

前期は、初級クラスが2人、中・上級クラスが1人、計3人だった。在籍身分別の内訳は、特別聴講学生2人、学部生1人である。国・地域別の内訳は、イギリス、チェコ、中国各1人である。所属は、3人とも芸術文化学部 of 学生である。

後期は、初級クラス、中・上級クラス各2人、計4人だった。在籍身分別の内訳は、特別聴講学生2人、特別研究学生、学部生各1人である。国・地域別の内訳は、中国2人、デンマーク、フィンランド各1人である。所属は、3人が芸術文化学部、1人が芸術文化学研究科 of 学生である。

## 3 授業担当者

前期、後期ともに、センター専任教員3人（副島健治、濱田美和、小木曾左枝子）、及び謝金講師（日本語研修コースとの合同授業については非常勤講師）11人（加藤敬子、高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子、中野香保里、青木由香、山本百合子）が授業を担当し、前期は専任教員の濱田と小木曾が、後期は小木曾がコーディネートを行った。

## 4 授業日程

前期は2015年4月10日（金）～7月30日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5月1日（金）は水曜日の授業、5月7日（木）は月曜日の授業を行った。後期は2015年10月8日（木）～2016年2月9日（火）を授業期間とした。12月23日（水）～1月4日（火）は冬季休業、1月15日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月26日（木）、1月12日（火）は月曜日の授業を行った。

オリエンテーションは、前期は4月8日（水）、後期は10月5日（月）に開催した。専任教員4人（前期は副島健治、濱田美和、田中信之、バハウ・サイモン・ピーター、後期は副島健治、濱田美和、田中信之、小木曾左枝子）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際交流センターのホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成したポスターを五福キャンパス内の各学部及び国際交流センター談話室に掲示し、また、学期初めに発行される国際交流センターニュースの掲示板でも紹介した。国際交流センターのホームページでは、時間割や授業概要（日本語、英語版を用意）の閲覧、それから、受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようになっている。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人とセンター専任教員が面接し、受講者の日本語の習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、来日時期が遅れる学生等については、コーディネーターが面接を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

## 5 授業内容

### 5.1 時間割

五福キャンパスでは前期、後期ともに週38コマ授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2015年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法（青木）	文法 A（高島）	
	2		文法（青木）	文法 A（高島）	表現技術 1（濱田）
	3		読解・作文（加藤）	漢字（濱田）	漢字 1（高島）
火	1		文法（要門）	文法 B（松岡）	文法 1（濱田）
	2		文法（要門）	文法 B（松岡）	読解 A 1（藤田）
	3		聴解（藤田）		会話 1（松岡）



水	1	生活日本語（要門）	文法（山本）	文法 A（中河）	
	2	生活日本語（要門）	文法（山本）	文法 A（中河）	
	3		文字・漢字（小木曾）	会話（横堀）	聴解 1（要門）
	4				日本文化 1（中河）
木	1		文法（中野）	文法 B（副島）	
	2		文法（中野）	文法 B（副島）	
	3			聴解（横堀）	読解 B 1（永山）
金	1		文法（加藤）	文法 C（小木曾）	
	2		文法（加藤）	文法 C（小木曾）	作文 1（松岡）
	3		会話（小木曾）		

\* 1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

\* 網掛けの授業科目は、日本語研修コースとの合同授業

表 2 2015年度後期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法A2（青木）	文法・表現B2a（高島）	
	2		文法A2（青木）	文法・表現B2a（高島）	表現技術C2（濱田）
	3		読解・作文A2（加藤）	漢字B2（濱田）	漢字C2（高島）
火	1		文法A2（要門）	文法・読解B2a（松岡）	
	2		文法A2（要門）	文法・読解B2a（松岡）	
	3		聴解A2（藤田）		会話C2（松岡）
	4				読解C2a（藤田）
水	1	生活日本語A2（要門）	文法A2（山本）	文法・表現B2b（中河）	
	2	生活日本語A2（要門）	文法A2（山本）	文法・表現B2b（中河）	
			漢字A2（小木曾）	会話B2（横堀）	聴解C2（要門）
	3				日本文化C2（中河）
木	1		文法A2（中野）	文法・読解B2b（副島）	
	2		文法A2（中野）	文法・読解B2b（副島）	文法C2（濱田）
	3			聴解B2（横堀）	読解C2b（永山）
金	1		文法A2（加藤）	文法B2（小木曾）	
	2		文法A2（加藤）	文法B2（小木曾）	作文C2（松岡）
	3		会話A2（小木曾）		

\* 1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

\* 網掛けの授業科目は、日本語研修コースとの合同授業

高岡キャンパスでは前期、後期ともに週 2 コマ授業を行った。前期、後期ともに、月曜日 3 限に初級クラス「生活日本語」、月曜日4限に中・上級クラス「読解・作文」を開講した。

## 5.2 初級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、月曜日から金曜日まで毎日午前中 2 コマ連続で「文法」の授業と、午後に「聴解」、「会話」、「文字・漢字」（後期は「漢字」にクラス名を変更）、「読解・作文」の授業を各 1 コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」の授業を週 1 回 2 コマ連続で行った。

週10コマの「文法」の授業では、『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱ（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を 1 日 1 課ないしは 2 日に 1 課のペースで初級文型の導入及びその定着のた

めの練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習も適宜取り入れた。

表 3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第 1 週	1 課～4 課		第 9 週	30 課～32 課	
第 2 週	5 課～7 課	1 課～6 課試験	第10週	33 課～35 課	26 課～32 課試験
第 3 週	8 課～11 課		第11週	36 課～38 課	
第 4 週	12 課～14 課	7 課～12 課試験	第12週	39 課～41 課	33 課～38 課試験
第 5 週	15 課～18 課		第13週	42 課～45 課	
第 6 週	19 課～22 課	13 課～18 課試験	第14週	46 課～48 課	39 課～45 課試験
第 7 週	23 課～26 課		第15週	49 課～50 課 復習	日本語能力試験 N4 模擬試験
第 8 週	27 課～29 課	19 課～25 課試験			

「聴解」の授業では『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解教材を用い、初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度に合わせて、聴解練習を中心に行った。

「会話」の授業では、ロールプレイや口頭発表を通して、午前の「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるための応用練習などを行い、話す力を伸ばすことを目指した。

「読解・作文」の授業では『みんなの日本語初級 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）、『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）を用い、午前の「文法」の時間の授業進度に合わせて、読解・作文練習を中心に行った。

前期の「文字・漢字」、後期の「漢字」の授業では、『Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）を用い、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指しながら、自分に合った漢字学習ストラテジーを身につけるためのディスカッション等も行った。

週 2 コマの「生活日本語」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1 日 1～2 課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

高岡キャンパスでは、前期、後期ともに、週 1 コマ「生活日本語」の授業を行った。『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1 日 1～2 課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

### 5.3 中級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、午前中は週 2 日「文法 A」（後期は「文法・読解」にクラス名を変更）、週 2 日「文法 B」（後期は「文法・表現」にクラス名を変更）、週 1 日「文法 C」（後期は「文法」にクラス名を変更）の授業をいずれも 2 コマ連続で行い、午後は「聴解」と「会話」と「漢字」の授業を各 1 コマ行った。

前期の「文法 A」、後期の「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3 コマの授業で 1 課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。

前期の「文法 B」、後期の「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J301』は 1 日（2 コマ）の授業で 1 課進むペース、『日本語中級 J501』は 2 日（4 コマ）の授業で 1 課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文

法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

前期の「文法C」、後期の「文法」の授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1日（2コマ）の授業で1課進むペースで、初級文型の確認をしながら、初中級レベルの文型と表現の導入及び練習を行い、学習事項を定着させるための作文や会話練習などの応用練習も行った。

「聴解」の授業では、『日本語生中継 初中級編』1, 2（くろしお出版）、『中級からはじめる ニュースの日本語 聴解40』（スリーエーネットワーク）等を用い、中級の語彙や表現を確認しながら、聴解練習を行った。

「会話」の授業では、「文法」の授業でのメインテキスト『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』を部分的に用いて、話し合いの練習やプレゼンテーションの練習を中心に、大学生活や日常生活で出会う場面に応じた日本語を使って、適切に話すための練習を行った。

「漢字」の授業では、前期は『BASIC KANJI BOOK 基本漢字500』Vol.2（凡人社）、後期は『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1（凡人社）を使用し、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

高岡キャンパスでは、中・上級クラス「読解・作文」を週1コマ開講したが、前期、後期ともに受講者は上級レベルの日本語力を有する学生であったため、次の5.4で詳細を述べる。

#### 5.4 上級クラスの授業内容

五福キャンパスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業を週2コマ、「作文」、「聴解」、「会話」、「文法」、「表現技術」、「日本文化」の授業をそれぞれ週1コマ行った。上級クラスの授業は、2期連続して受講する学生のために、以前から前期と後期で扱うテーマや教材等を変えて対応しているが、授業目的や進め方等の授業概要は同じであるため、以下、まとめて報告する。

「読解」の授業は、前期は「読解 A1」と「読解 B1」の授業名で、後期は「読解 C2a」と「読解 C2b」の授業名で2科目を設けた。

「読解 A1（前期）」は『日本語能力試験 N1/N2 試験に出る読解』（桐原書店）を、「読解 C2a（後期）」は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。

「読解 B1」「読解 C2b」は、現代日本社会の問題を扱った新聞記事、文学作品、教養書などの生教材を利用し、初めに論理構成を把握させ、効率的な読みの練習を心がけた。ブックレポート作成の練習も行った。

「作文」の授業では、コンピュータを使用しながら、レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』（スリーエーネットワーク）、『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』（アルク）等を参考書とし、練習問題等は電子ファイルで提供した。

「聴解」の授業では、日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、ロールプレイ等の会話練習等を通して、大学生活や日常生活で出会う場面、状況での会話力を伸ばす練習を行った。また、様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する練習、意見や感想を述べる練習を行った。

「文法」の授業では、前期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）、後期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング N1』（アルク）をメインテキストとし、大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受

験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやりとりや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、震災と日本、日本の中の外国人、ジェンダー、ポップカルチャーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2（凡人社）を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。前の期から継続して受講している学生及び漢字、語彙能力の高い学生に対しては新聞記事等の生教材を使用してさらなる語彙の拡充を図った。

高岡キャンパスでは、中・上級クラス「読解・作文」を週1コマ開講した。授業では、受講者の専門にかかわるテーマについて書かれた文書を読んだ後、レポートを書く練習や口頭発表の練習を行った。

## 6 試験

初級クラス「文法」、「聴解」、「会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験で、いずれの試験も日本語研修コース初級クラスと同じものを使用した。初級クラス「生活日本語」（五福、高岡）、「読解・作文」、「文字・漢字（前期）」「漢字（後期）」では数回の確認テストと期末試験を実施した。中級クラスでは、「文法 A（前期）」「文法・表現（後期）」は2回の定期試験、「文法 B（前期）」「文法・読解（後期）」は3回の定期試験、「文法 C（前期）」「文法 B」は2回の定期試験、「聴解」は期末試験、「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施し、「会話」は授業中に発表を課した。上級クラスでは、「読解 A（前期）」「読解 C2a（後期）」、「読解 B（前期）」「読解 C2b（後期）」、「文法」は期末試験、「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施し、「作文」、「聴解」、「会話」、「表現技術」、「日本文化」は期末レポートあるいは発表を課した。高岡キャンパスの中・上級クラス「読解・作文」ではレポートと発表を課した。

## 7 授業評価

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施した。授業内容に関するアンケートはクラス別に集計し、カリキュラムに関するアンケートは回答者全員分をまとめて集計した。

授業内容に関するアンケートは、いずれのクラスにおいても、基本的に科目ごとに実施したが、同一の教科書（『みんなの日本語 初級』）を使用した科目（初級クラス「文法」、「読解・作文」、「聴解」、「会話」）についてはまとめて実施した。

以下、表4に前期初級クラス、表5に前期中級クラス、表6に前期上級クラス、表7に後期初級クラス、表8に後期中級クラス、表9に後期上級クラスの授業内容のアンケート集計結果をまとめた（表6と表9は総合日本語コースコーディネーターの濱田美和が、それ以外の表は日本語課外補講コースの小木曾左枝子がまとめた）。高岡キャンパスの中・上級クラスについては、受講者の日本語力が上級レベルであったため、前期分、後期分ともに上級クラスに含めて集計した。授業内容に関するアンケートでは、中級、上級クラスについては、1人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が1回のみ回答することになっている。表10に前期、表11に後期の結果をまとめた。



なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えている場合もある。

表 4 前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者11人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（8人） よかった（2人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Maybe more practical lessons, how to get by in shops etc. (生活日本語(高岡))</li> <li>• Contents are very good. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった（3人） よかった（6人） ふつう（2人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Some lessons are easy but some are difficult. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった（3人） よかった（2人） ふつう（4人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人） 無回答(1人)	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 速すぎた。(文法他) (生活日本語(高岡))</li> <li>• If it was a little bit slow, it would be better. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった（8人） よかった（1人） ふつう（2人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Good explanations. (生活日本語(高岡))</li> <li>• Teaching materials are effective and student friendly. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった（8人） よかった（2人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Very kind and fun teacher. (生活日本語(高岡))</li> <li>• Our teacher's teaching method is really good. She is very friendly to students. We learned a lot from her. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
6. どのくらい出席したか 80%～100%（8人） 60%～ 80%（3人） 40%～ 60%（0人） 20%～ 40%（0人） 0%～ 20%（0人）	—	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門の授業やゼミがあったから（3人）</li> <li>• アルバイトがあったから（0人）</li> <li>• 病気のため（1人）</li> <li>• その授業に興味がなかったから（0人）</li> <li>• その他（0人）</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした（4人） すこしした（5人） ぜんぜんしなかった（1人） 無回答（1人）	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• I am so sorry for being lazy. (生活日本語(高岡))</li> <li>• I could have made more effort. Sorry. (生活日本語(高岡))</li> <li>• Actually I didn't manage to study for my lessons due to my lab work. So preparation was not enough. (生活日本語(高岡))</li> </ul>

その他

- I would appreciate a stricter teacher who would push me to study harder. (生活日本語(高岡))
- Actually for doctoral students, it is very difficult to learn Japanese during the day time. If it is possible to arrange classes in the evening or on the weekend, it will be more helpful for researchers. (生活日本語(高岡))
- Class is few in number in terms of lessons/week. (漢字)
- With the revision, I saw the vast difference between the approaches used by the two revision teachers. One was extremely good and the other was good. (文法他)
- 速さは少し遅いです。(文法他)



表 5 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者21人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（12人） よかった（7人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） 無回答（1人）	4.6	・「J301」や「J501」にある文章は面白いと思います。日本文化やしゃかいもんだいをかんがえさせながら文法をべんきょうするのが楽しいです。（文法 B）
2. 授業のレベル ちょうどよかった（8人） よかった（10人） ふつう（3人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.2	・「J501」の文章での漢字は漢字のない国から来た私にはちょっとだけむずかしかったけどもっと少しがんばれば大丈夫でした。^^（文法 B）
3. 授業の進度 ちょうどよかった（11人） よかった（9人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	
4. 教科書・プリント とてもよかった（9人） よかった（11人） ふつう（1人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.4	
5. 教え方 とてもよかった（15人） よかった（6人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.7	
6. どのくらい出席したか 80%～100%（12人） 60%～ 80%（8人） 40%～ 60%（0人） 20%～ 40%（0人） 0%～ 20%（0人） 無回答（1人）	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから（8人） ・アルバイトがあったから（0人） ・病気のため（6人） ・その授業に興味がなかったから（0人） ・その他（0人）
7. 予習・復習をしたか かなりした（7人） すこしした（13人） ぜんぜんしなかった（0人）	—	・予習しました。復習しませんでした。ごいの表を授業の先もらってよかったと思います。（聴解）

その他

- ・先生はとてもよかった。（文法 A）
- ・せんせい、ありがとうございました。（文法 A）
- ・たくさん文法やことばを勉強したので、日本語のレベルが進んだと思います。先生ありがとうございました。（文法 C）
- ・たくさんかんじを覚ええました。先生ありがとうございました。（漢字）
- ・日本語でできるだけ発表するようになったと思います。先生ありがとうございました。（会話）

表 6 前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者63人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（48人） よかった（12人） ふつう（3人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験のため役に立った。（読解 A）</li> <li>・能力試験に役に立つ内容が多くてよかったと思います。（読解 A）</li> <li>・読み練習をするのはとてもよかったです。そして、漢字もレベルは高いけど勉強してよかったです。一人で勉強するとつまらないから。よかったです。先生どうもありがとうございました。（読解 A）</li> <li>・内容は本当におもしろかったと思います。興味深いテキストがたくさんありました。（読解 B）</li> <li>・日本語に関する文章を読むので、日本社会に対しての知識が深まってきます。また、意見や質問をする時間が与えられたので、ほかの国のことも理解できます。（読解 B）</li> <li>・始めたときの文章は簡単で、だんだんレベルが高くなって、難しくもなっていて、よいと思います。それに後半はみんなの興味のあるテーマの文章だから、いろいろ文章を読んでおもしろいと思う。（読解 B）</li> <li>・歴史的な内容を扱うとき、建物や人物名は読みがながあればもっといいと思います。（読解 B）</li> <li>・私たちが関心を持っていることが選ばれて、読解の内容となっていて、おもしろいと感じながら勉強になります。（読解 B）</li> <li>・ペアの形がいいと思います。（読解 B）</li> <li>・春期は要約のような作文の機会が多いから、読解と作文の能力が上がりました。（読解 B）</li> <li>・レポートを読んだとき、この授業で学んだ内容はとても役に立って、この授業に出てよかったと思います。また予習をする約束があって、読むことと解釈することの練習になりました。（文法）</li> <li>・N1の勉強にはとてもよかったです。たくさん勉強になりました。でも、もうちょっと時間があったらよかったです。先生どうもありがとうございました。（文法）</li> <li>・日常会話であまり使わない表現だから、ちょっと覚えにくかった。（文法）</li> <li>・映像や音声を見ながらメモを取る形で授業しているので、集中力がとても要求されます。（聴解）</li> <li>・ぜんぜん眠くならなかった授業です。とても楽しかったし、たくさん勉強ができたし、とても役に立った授業です。（聴解）</li> <li>・とてもおもしろくて参加してよかったです。（聴解）</li> <li>・日常生活に使う言葉をいっぱい知ることができました。みんなで授業のテーマについて話すのはすごく面白かったです。（聴解）</li> <li>・日本語能力試験の問題をもっと解いてみる時間が多かったら、もっとよかったのではないかと思います。（聴解）</li> <li>・いろいろな勉強になりました。そして、先生は親切で、クラスメートは仲間がよくできてよかったと思う。（会話）</li> <li>・将来の就職に役に立つものがあったので、よかったと思います。（会話）</li> <li>・授業でときどきパーティーを行いながら、授業をしたいです。（会話）</li> <li>・面接用語や子供向けの言葉を勉強することができ、よかったと思います。（会話）</li> <li>・春期の授業の中で様々な会話を学びました。雑談もビジネスの会話もありますから、先生の指導に感謝します！（会話）</li> <li>・内容はとても役に立ったと思う。役に立つ漢字を勉強したから、レベルが上達したと思う。ゴールに当たった。（漢字）</li> <li>・春期の授業では専門の内容が多いですから、もっとたくさんの知識を学びました。（漢字）</li> <li>・自分が選んだ本で勉強しておもしろかったです。（漢字）</li> <li>・私にとってこのクラスはとても役に立ったと思います。元々漢字は下手だけど、前と比べたらレベルが上がったと思います。（漢字）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業をとって、敬語を勉強して、将来のため役に立つと思います。(表現技術)</li> <li>・春期の授業ではビジネスの表現が多いですから、敬語の能力がもっと上がります。(表現技術)</li> <li>・もっと日本の伝統的な文化や日本のポップカルチャーを勉強したい。(日本文化)</li> <li>・みんなで話し合い、「教養」とか「同性愛者」などの今ヒット話題になっている問題を議論する。クラスメートからいい意見をもらった。(日本文化)</li> <li>・いろいろ考えさせてもらいました。おもしろかったです。とても充実した授業だと思います。(日本文化)</li> <li>・おもしろかったです。異なる国の学生と交流しながら、一つのテーマをめぐって討論するのが楽しかったです。(日本文化)</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった (46人) よかった (11人) ふつう (5人) あまりよくなかった (2人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験の N1 と N2 のテキストがあったので、私のレベルととても合いました。(読解 B)</li> <li>・ほとんど 2 人で組んで文章を読んでいるので、わからない言葉や表現があったら、お互いに説明できます。文章にある質問も内容の理解に役に立ちました。(読解 B)</li> <li>・文章の難易度があって、よいと思います。たまには本当に難しい文章があって要約しにくいですけど、要約できたときはうれしくなった。(読解 B)</li> <li>・専門的知識が含まれた文章がちょっと難しいと思います。(読解 B) 難しすぎた。(文法)</li> <li>・難しすぎた。最初から難しいレベルとわかっていました。新しい内容を試すため、そして、もっと勉強するという挑戦のため、この授業を選択しました。(文法)</li> <li>・試験のための準備としていいと思います。(文法)</li> <li>・よかったが、思ったより難しかった。(文法)</li> <li>・ちょうどよかったと思う。日本語能力試験 N1 を受けたいですから、とても役に立ったと思う。(文法)</li> <li>・詳しく説明していただいたので、わからない知識点もすぐ回答してくれます。(聴解)</li> <li>・N1 と N2 のテキストと言葉があって、私が一番勉強したかったことに当たりました。(聴解)</li> <li>・私の今の日本語レベルにぴったり合うと思う。だんだん深くなっている勉強になった。(会話)</li> <li>・もっと難しい内容を出してもいいかもしれません。(会話)</li> <li>・授業のレベルはちょうどよかった。(漢字)</li> <li>・最初に基本を勉強して、だんだんレベルをアップすることが良かったと思います。(表現技術)</li> <li>・上級クラスなので、みんなは一つ的话题を中心にいろいろ話せるから、あまり難しく感じていなかったです。(日本文化)</li> <li>・私はこの授業は秋も受けました。日本に来たばかりだったので、難しかったです。レベルが低いという問題だけではなく、最初は自信がなかったし、よく自分の意見を表す授業だから、話すことは大変でした。けれど、また受けることにしたら、少し自信を手に入れたので、もっとしゃべれるようになりました。(日本文化)</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった (41人) よかった (14人) ふつう (6人) あまりよくなかった (3人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと速いスピードで行ったほうがよかったかもしれません。(読解 A)</li> <li>・速かったが、日本語を勉強するなら自然なリズムのほうがいいと思います。(読解 B)</li> <li>・速さもいいと思います。文章を読む時間があって討論もできるし、発表もあります。時間の把握はいいと思う。(読解 B)</li> <li>・速すぎた。(文法)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・速すぎた。内容が多くて時間が少なくなりましたが、6か月間しかない留学生が日本語能力試験の文法を勉強できるため、授業の速さはよかったと思います。(文法)</li> <li>・ちょっと速いかもしれません。(文法)</li> <li>・難しい問題もあったから、もっと練習問題がほしかった。(文法)</li> <li>・速く話す会話になれるため、とても良かったと思います。(聴解)</li> <li>・難しいところは2回くり返して、簡単なところは1回だけにするのはよかったと思います。(聴解)</li> <li>・速くないし、遅くないし、最高のステップだと思う。(会話)</li> <li>・先生はいつも私たち留学生とそんなに速く話さなかったと思う。私たちをよく理解していただいてありがたいです。(漢字)</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった(52人) よかった(9人) ふつう(3人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解の他に単語の教材を使用することが嬉しいです。(読解 A)</li> <li>・漢字などのプリントは役に立ったと思います。(読解 A)</li> <li>・難字の勉強はすごく役に立つと思います。(読解 A)</li> <li>・先生にいつも紙をいただいて、本当に役に立ちました。ありがとうございます。(読解 B)</li> <li>・興味や関心のある文章を選んでくれますので、とても良かったです。(読解 B)</li> <li>・よいと思います。文章を読むときは、いろんなものを勉強できるので、これが好きです。(読解 B)</li> <li>・プリントのほうがいっぱいテーマを読んでもみることができるので、よかったと思います。(読解 B)</li> <li>・教科書はとても役に立つものだった。(文法)</li> <li>・この授業で使用された教材はとてもわかりやすかったです。(作文)</li> <li>・先生はいつもやさしくて、私たちのためにコピーしていただいて、毎週配ってくださいました。どうもありがとうございます。(聴解)</li> <li>・いつも原稿のプリントをもらって、聞き取れなかったところをチェックできる点はとても助かりました。(聴解)</li> <li>・日本のテレビに出るものから授業を行ってよかったと思いました。(聴解)</li> <li>・授業の前に新しく出てくる言葉リストをもらった方がいいなあと思いました。もっと勉強しやすくなるのです。(聴解)</li> <li>・先生はドラマやテレビ番組を見せてくださったので、とてもおもしろかったです。勉強が楽しくなりました。(聴解)</li> <li>・いいプリントだと思う。(会話)</li> <li>・プリントがあったので、もっと分かりやすくなりました。(会話)</li> <li>・教材はたくさんあった。先生にたくさんコピーをしていただいて、教科書もあって、十分あった。(漢字)</li> <li>・教材はわかりやすかったし、先生の説明も良かったです。練習が多かったので、覚えやすかったです。(表現技術)</li> <li>・新聞、記事などの内容がよかったと思います。興味を持っている分野を研究するのは楽しかった。(日本文化)</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった(52人) よかった(11人) ふつう(1人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むときは1人ではなくて、2人でしたほうが良いと思う。(読解 A)</li> <li>・分かりやすかったです。難しいことでも、簡単な言葉で説明してただけでした。(読解 A)</li> <li>・わからない問題について詳しく説明してくれます。(読解 A)</li> <li>・先生は本当に上手に日本語を教えてくれたので、ありがたいです。留学生に日本語を教えるのが先生はとても上手です。(読解 B)</li> <li>・討論の形で授業をしているので、異なる国の学生とペアを組んだら、会話の能力がだんだん高まってきました。それぞれの考え方が違うので、いろんな意見がもらえるために、ものを考える角度も広がります。(読解 B)</li> <li>・いいと思います。要約の文章も改善されて、これはとても役に立つと思います。それに発表もそうです。(読解 B)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ後にいっしょに答えを探しながらもう一度黒板にまとめてくださって、見やすかったし、理解も簡単になったと思います。(読解 B)</li> <li>・ただ読むのではなく、一つの話題についてお互いに交流するチャンスも与えられるので、とても勉強になりました。</li> <li>・発表の形を通して、皆の意見をきいて、新たな発想ができた。いろんな分野の文章を読んで、視野が広がった。(読解 B)</li> <li>・先生の教え方はすごくよかったです。内容が多いので、今のスピードだと、ちょっと速いかもしれません。(文法)</li> <li>・先生の教え方はすばらしかったと思う。留学生に日本語を教えるのがとても上手だ。(文法)</li> <li>・丁寧に詳しく説明してくれますので、聴解はとても楽しい授業になりました。(聴解)</li> <li>・先生の教え方は本当に上手だったと思います。(聴解)</li> <li>・難しい言葉はホワイトボードに書く点はすごくよいと思います。そして、わからないことがあったら、写真や絵で見せるのは良かったです。(聴解)</li> <li>・先生はいい。授業はわかりやすいし、わかるように教えてもらったのがよかったと思う。(会話)</li> <li>・わからないところがなかったです。(会話)</li> <li>・先生は留学生に漢字を教えるのがとても上手です。教え方が優秀です。(漢字)</li> <li>・PPT で言葉の詳しい説明をすることがとてもよかったと思います。(漢字)</li> <li>・教材も教え方も満足しています。ただ1人だったので、グループで勉強する機会がなかったのが少しさびしかったです。もちろん自分の速さで自律的に勉強できた点は良かったです。今までありがとうございました。(漢字)</li> <li>・先生の説明がわかりやすく、教え方もよかったと思います。(表現技術)</li> <li>・ありがとうございます。(表現技術)</li> <li>・討論で授業をしていますので、今までで一番話すチャンスが与えられた授業でした。自分が思ったことをちゃんと話せ、間違っても大丈夫だという教え方なので、とても感謝しています。(日本文化)</li> </ul>
6. どのくらい出席したか 80%~100% (63人) 60%~80% (0人) 40%~60% (0人) 20%~40% (0人) 0%~20% (0人) 無回答 (1人)	—	欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の授業やゼミがあったから (7人)</li> <li>・アルバイトがあったから (0人)</li> <li>・病気のため (10人)</li> <li>・その授業に興味がなかったから (0人)</li> <li>・その他 (3人): 予習ができなかったから。(文法)</li> <li>TOEFLのテストを受けた。(聴解)</li> <li>授業が変更になったからです。(聴解)</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした(18人) すこした(46人) ぜんぜんしなかった(0人)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通は復習していなかったが、漢字を勉強していた間はしていた。(読解 A)</li> <li>・漢字を結構復習しました。(読解 A)</li> <li>・毎週1回復習をやっていました。テキストの予習とか文法の復習とかしました。(読解 B)</li> <li>・要約の宿題がありますので、授業が終わってから先生が教えた知識点を復習しながら要約を書いています。(読解 B)</li> <li>・毎回プリントを配るので予習は必要ないです。でも、毎回文章の要約の宿題があるから、これで復習しました。(読解 B)</li> <li>・発表のため読んだ内容をもう一度確認しながら復習ができました。ペアで発表することがとても役立ったと思います。(読解 B)</li> <li>・毎回の授業が終わって、要約の宿題がある。授業の読解文章をもう1回復習できる。(読解 B)</li> <li>・復習はしていません。(読解 B)</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週した。(文法)</li> <li>・就職活動に役立ちました。(作文)</li> <li>・宿題があったら、もっと復習したかもしれません。(作文)</li> <li>・毎回スクリプトを配るので、聞き取れないところが確認でき、とてもよかったです。(聴解)</li> <li>・ちょっと家で週に1回聴解の復習をしました。(聴解)</li> <li>・聴解ですから、あまり準備がなかったです。(聴解)</li> <li>・いつもぜひ予習や復習をしたいのに、時間があまりないと思います。(会話)</li> <li>・漢字のテストは毎週の月曜日に行ったので、毎週勉強しないと駄目です。ですから、毎週真剣に勉強していた。(漢字)</li> <li>・日本語能力試験の準備ができて良かったです。(漢字)</li> <li>・敬語はとても重要な技能ですから、予習も復習も必要だと思います。(表現技術)</li> <li>・宿題がありますので、授業が終わったら復習しました。(日本文化)</li> <li>・特に漢字がたくさん出る授業なので、漢字の読み方を調べておいたほうがよい。(日本文化)</li> </ul>
--	--	---

#### その他

- ・1年間読解の授業を受けて本当によかったと思います。1年間同じ先生がいて、とても親切な先生だと思います。(読解 B)
- ・ほかにあまり意見がないです。このままの授業でとてもいいと思います。(読解 B)
- ・扱う内容がいろいろあったから、とても楽しみながら勉強したと思います。(読解 B)
- ・先生はいつもやさしく教えますし、内容もおもしろいし、楽しい授業です。(読解 B)
- ・1年間お世話になりました。ありがとうございます。(読解 B)
- ・とてもありがとうございます！(読解 B)
- ・どうもありがとうございます。(文法)
- ・この1年間先生にありがたいです。私たちにとても親切だったし、日本語を教えていただいたし、とてもよかった1年間だと思います。先生どうもありがとうございます。(文法)
- ・ありがとうございます！(聴解)
- ・1年間お世話になりました。ありがとうございます。(聴解)
- ・今まで2回この授業を選んで勉強しました。とても楽しかったです。先生どうもありがとうございました。先生のおかげでよく聞き取ることができるようになりました。(聴解)
- ・勉強になりました。ありがとうございます。(会話)
- ・先生、漢字を教えていただいてどうもありがとうございました。漢字の授業は半年しか受けなかったが、役立つこともたくさん勉強したし、楽しかったし、気持ちよかったクラスでした。まことにありがとうございました。(漢字)
- ・漢字の勉強は一生懸命にやってよかったと思います。すごくレベルアップできたと自分で思っています。ときどき漢字の意味が頭に入らない場合がたくさんあったので、使い方は困るときがありました。(漢字)

表 7 後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者19人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（13人） よかった（3人） ふつう（2人） あまりよくなかった（1人） ぜんぜんよくなかった（0人）	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生は授業上手です。(文法他)</li> <li>・Maybe some more listening exercises would be good. It is surprisingly difficult to get the ear “tuned-in” to another language. (生活日本語(高岡))</li> <li>・Good - useful content everyday. (生活日本語(高岡))</li> <li>・It went too fast and it was too difficult for me. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった（4人） よかった（9人） ふつう（4人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（1人） 無回答（1人）	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Too difficult. (生活日本語(高岡))</li> </ul>

3. 授業の進度 ちょうどよかった (4人) よかった (8人) ふつう (5人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Too fast. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった (4人) よかった (10人) ふつう (4人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Clear, organized content. (生活日本語(高岡))</li> <li>• 時々、テープは雑音があります。(文法他)</li> </ul>
5. 教え方 とてもよかった (12人) よかった (3人) ふつう (2人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>• She was very patient and very excited in her subject. She also helped me to study materials other than the textbook. Many wonderful discussions. (生活日本語(高岡))</li> <li>• I had to learn a lot in short time and it was too hard for me to understand. (生活日本語(高岡))</li> </ul>
6. どのくらい出席したか 80%～100% (10人) 60%～ 80% (4人) 40%～ 60% (4人) 20%～ 40% (1人) 0%～ 20% (0人)	—	欠席した理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門の授業やゼミがあったから (7人)</li> <li>• アルバイトがあったから (0人)</li> <li>• 病気のため (5人)</li> <li>• その授業に興味がなかったから (0人)</li> <li>• その他 (0人)</li> </ul>
7. 予習・復習をしたか かなりした (10人) すこしした (9人) ぜんぜんしなかった (0人)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先生、親切です。(文法他)</li> <li>• まいにち、いそがしいです。(文法他)</li> <li>• It was too difficult. (生活日本語(高岡))</li> </ul>

その他

- 富山大学、よかったね。(文法他)
- 毎日、授業が非常に楽しく、授業内容の難易度も受け入れられます。先生方はとても素敵、感謝しております。(文法他)
- 先生、ありがとうございます。(文法他)
- みんなの日本語しょきゅうの文法説明があるので、しょきゅうのじゅぎょうはかんたんかもしれません。みんなの日本語のきょうかしょはとてもべんりです。れんしゅうもかんたんで、わかりやすいと思います。(文法他)
- ありがとうございます。(生活日本語(五福))
- I am trying to improve the level of my Japanese. I am also trying to adapt myself to the environment. (生活日本語(五福))
- Good improvement on my Japanese. Teaching system is well organized. I like teaching materials, teacher's method of teaching, and so on. (生活日本語(五福))
- Only thing I would suggest is to include more of the everyday phrases that native speakers use, since these knowledge is essential to understand people outside of the classroom. (生活日本語(高岡))

表 8 後期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答者29人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (16人) よかった (11人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とてもよかった。でも、さくぶんがきらいです。(文法)</li> <li>• 私のかんじに対して弱いんですが、役に立ちました。(漢字)</li> </ul>

2. 授業のレベル ちょうどよかった (12人) よかった (14人) ふつう (2人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	・やさしすぎた。(文法・読解)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (12人) よかった (11人) ふつう (5人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.2	
4. 教科書・プリント とてもよかった (15人) よかった (8人) ふつう (6人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	・教科書のないようはよかったんですが、教科書のこうせいはちょっとめっちゃうちゃだと思っていました。(漢字)
5. 教え方 とてもよかった (20人) よかった (7人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	・先生の教え方はとても好きです。先生はやさしいし、わかりやすいし、いろいろべんきょうできました。ありがとうございました。(聴解)
6. どのくらい出席したか 80%～100% (24人) 60%～ 80% (5人) 40%～ 60% (0人) 20%～ 40% (0人) 0%～ 20% (0人)	—	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (6人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (9人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (1人：あさねぼう)
7. 予習・復習をしたか かなりした (10人) すこしした (19人) ぜんぜんしなかった (0人)	—	・テストがあるときだけ、よしゅうします。(文法・表現)

#### その他

- ・せんせいのおかげで、日本語がじょうずになりました。どうもありがとうございます。来がっきもよろしくおねがいします！(文法・表現)
- ・授業のオリエンテーションなどで、自分のレベルを確認できるレベルテストがあったらいいと思います。(文法・表現)
- ・この授業は有用で、楽しかった。(文法・表現)
- ・とてもおもしろい授業でした。先生の教え方が好きになりました。これからもがんばります。(文法・読解)
- ・ありがとうございました。先生のおかげで、このクラスがおもしろかったです。(文法・読解)
- ・ありがとうございました!!おかげさまで、日本語が上手になりました。来学期もよろしくおねがいします!!(文法・読解)
- ・来年の文法の授業、文法C2を受けたいと思います。(文法・読解)
- ・このじゅぎょうは、とても楽しかった。(文法)
- ・授業が本当に理解しやすいです。半年間どうもありがとうございました。(会話)
- ・先生は、技術を使って、教えます。ただし、それだけではなく、心を込めて教えて、素晴らしい先生だと思いました。(会話)
- ・この授業のおかげで、日本語がちょっと上手になりました。(聴解)
- ・かんじを使わない国から来ましたので、私にとって大変なことがありました。特に、かんじを書くのがむずかしかったです。これからは、私は読んだり、書いたりできるようにがんばります。(漢字)
- ・私にとっては、かんじのべんきょうがとてもむずかしいです。いちばんむずかしいので、あまりべんきょうしたくないけど、せんせいのおしえかたはとてもわかりやすいし、せんせいはやさしいし、このかんじのじゅぎょうは、とてもべんきょうしたいです。まいかい、じゅぎょうに行きたいです。せんせい、ありがたいです。まだ下手ですけど、いろいろありがとうございました。(漢字)

表 9 後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者77人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった（58人） よかった（18人） ふつう（0人） あまりよくなかった（0人） ぜんぜんよくなかった（0人） 無回答（1人）	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙の勉強と教科書の勉強を同時にできた。とてもよかったと思います。（読解C2a）</li> <li>・役に立つ言葉がたくさん入っていてよかったと思いました。（読解C2a）</li> <li>・各問題の後に説明があるので、便利です。（読解C2a）</li> <li>・3つのユニットの復習練習は授業で試験の形でするほうがいいのではないのでしょうか。（文法C2）</li> <li>・今学期の作文の授業でいい勉強になりました。ありがとうございました。（作文C2）</li> <li>・とてもいい勉強になりました。（作文C2）</li> <li>・この授業はとても勉強になりました。でも、もっと最近のニュースやテレビ番組などを見たらよかったです。（聴解C2）</li> <li>・聴解はすごく面白くて有意義な授業です。日本語能力を上達させるためにも役立ちました。ありがとうございました。（聴解C2）</li> <li>・おもしろくて有意義だと思います。（聴解C2）</li> <li>・おもしろくていい授業でした。聴解力が上がりました。（聴解C2）</li> <li>・授業の内容はとてもよかったし、先生の教え方もわかりやすかったです。（聴解C2）</li> <li>・いろいろ勉強しました。（聴解C2）</li> <li>・この授業を取ってよかったなと思います。先生もおもしろかったし、内容も大体聞き取れます。（聴解C2）</li> <li>・いろいろなテーマを通して学んだことが山ほどありました。毎日日本語を聞かなければならないので、こういうクラスを取ってよかったと思います。それに日本語を聞き取るのに役に立ちました。（聴解C2）</li> <li>・授業は楽しかった。（会話C2）</li> <li>・敬語を実践できて、良かったと思います。（会話C2）</li> <li>・先生は学生に対してやさしかったし、文はとても分かりやすかったし、とてもいい練習になりました。これからも勉強に役に立つと思います。（会話C2）</li> <li>・会話の授業でとてもいい勉強になりました。ありがとうございました。（会話C2）</li> <li>・会話の練習をいっぱいしました。もし日本人学生もこのような授業を取ったら、日本人と会話できるといいなと思います。（会話C2）</li> <li>・いろいろ会話の練習をしました。本当におもしろい授業だと思います。（会話C2）</li> <li>・漢字能力がすごく上がりました。漢字の勉強が好きになりました。先生の教え方はとても良いと思います。（漢字C2）</li> <li>・毎回学生に対してとてもよかったです。それに日本の就職にとってもいいことが出ました。（表現技術C2）</li> <li>・この授業はとても勉強になりました。敬語をもっと上手に使えるようになりました。（表現技術C2）</li> <li>・いろいろ勉強になりました。本当にありがとうございました。（表現技術C2）</li> <li>・授業内容は、思ったよりすごくおもしろかったです。現代的な問題がたくさん出てきたのはとてもよかったです。（日本文化C2）</li> <li>・勉強になる。（日本文化C2）</li> <li>・この授業はとてもおもしろいです。先生と留学生の皆さんといっしょに勉強するのは楽しいです。勉強になりました。（日本文化C2）</li> <li>・テーマはぜんぶおもしろかったです。私にとってこの授業は難しいです。でも毎回この授業を勉強したいです。とてもおもしろいですから。先生もクラスの友だちも日本の文化についても勉強するとき、とても楽しかったです。（日本文化C2）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業を通して、いろいろな日本文化に関する知識を勉強しました。本当にすきだと思います。(日本文化 C2)</li> <li>日本の伝統的な文化ではなくて、現代日本についていろいろ勉強できたので、おもしろかったです。役に立ちました。たまに興味を持てない内容もありましたが、全体的にはよかったです。(日本文化 C2)</li> <li>日本文化の授業はとてもおもしろいと思います。今まで全然知らなかったことをたくさん紹介されて、いい勉強になりました。ありがとうございました。(日本文化 C2)</li> <li>とてもおもしろかったです。(日本文化 C2)</li> </ul>
2. 授業のレベル ちょうどよかった (53人) よかった (20人) ふつう (3人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (1人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめの時、ちょっと難しいと思いましたが、一生懸命勉強してだんだん慣れてきました。(読解 C2a)</li> <li>最初は私には難しすぎると思ったのですが、勉強をすればするほどとてもいい感じになりました。(読解 C2a)</li> <li>わからない言葉がたくさん出てきますので、おもしろくて勉強が進んでいます。(読解 C2a)</li> <li>初めてレポートに接する私にとって難しすぎた。私にとって論文を書くことはとても難しい。(作文 C2)</li> <li>よく聞き取れて、内容がわかりやすいです。(聴解 C2)</li> <li>とてもいいと思います。(聴解 C2)</li> <li>新しく役に立つ単語がたくさんありました。(聴解 C2)</li> <li>私はこのクラスで習ったことが役に立ちます。(表現技術 C2)</li> <li>難しいですけどおもしろいから、がんばりたいです。(日本文化 C2)</li> <li>読めない漢字もありましたが、話はわかりやすかったです。(日本文化 C2)</li> </ul>
3. 授業の進度 ちょうどよかった (44人) よかった (28人) ふつう (5人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の話し方は聞き取りやすかったし、同級生との話し合いもよかったし、日本語を聞き取るいい練習になりました。(読解 C2a)</li> <li>ちょうどいいです。(聴解 C2)</li> <li>もっと自分の読む時間、暗記時間を与えるほうがいいと思います。(聴解 C2)</li> <li>完璧なスピードでした。(聴解 C2)</li> <li>とてもいいスピードでした。(表現技術 C2)</li> <li>先生の話し方もスピードもだいじょうぶでした。(日本文化 C2)</li> <li>ちょうどよかったと思います。(日本文化 C2)</li> </ul>
4. 教科書・プリント とてもよかった (52人) よかった (24人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のはじめの時、教科書の内容や語彙や文法は難しいと思いましたが、難しいからこそ勉強ができました。(読解 C2a)</li> <li>教科書に出る説明や例の問題はわかりやすかったです。後期に使った教科書は前期よりレベルが高いと思います。(読解 C2a)</li> <li>毎回の授業は充実しています。先生が配ってくれたプリントは内容が面白くて、もっと勉強したい気が出てきました。(聴解 C2)</li> <li>日本のいろいろな面について勉強して、とてもいいと思います。もっと経済的、政治的なニュースのほうがいいと思います。(聴解 C2)</li> <li>プリントはわかりやすい。(聴解 C2)</li> <li>家で教科書とか CD とかあったらいいと思いました。(聴解 C2)</li> <li>プリントの量がたまに多すぎると思ったときがありましたが、とても勉強になりました。(聴解 C2)</li> <li>毎回の授業で先生が十分準備してくれて、ありがとうございました。(会話 C2)</li> <li>いろいろ練習をやったおかげで、漢字の使い方が覚えやすかったです。(漢字 C2)</li> <li>テストには自分で漢字を書かなければいけない問題があって良かったと思います。漢字を読めますけど、なかなか書くのは難しいので、とても役立つと思います。(漢字 C2)</li> <li>日本の文化についていろいろ学びました。よかったと思います。(日本文化 C2)</li> <li>ときどき古いビデオも使いました。(日本文化 C2)</li> <li>難しい漢字があっても、全ては紙に書いてあるので、とても楽でした。(日本文化 C2)</li> </ul>



<p>5. 教え方</p> <p>とてもよかった (67人)</p> <p>よかった (10人)</p> <p>ふつう (0人)</p> <p>あまりよくなかった (0人)</p> <p>ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はおもしろいし、先生も非常に理解しやすく説明してくれますし、とてもよかったと思います。(読解 C2a)</li> <li>・たまに私が話の内容に合うように先生がクラスの速さをやさしくしてくれました。(読解 C2a)</li> <li>・教え方がおもしろくて、生徒たちがあきないように先生がいっぱいしてくれました。(聴解 C2)</li> <li>・わかりやすくておもしろくていい雰囲気の中で勉強しました。(聴解 C2)</li> <li>・おもしろくてわかりやすかったです。(聴解 C2)</li> <li>・先生の話し方がとてもよかったと思いました。親切な感じがしました。(聴解 C2)</li> <li>・とてもわかりやすかったです。(表現技術 C2)</li> <li>・先生の教え方は最高でした！(日本文化 C2)</li> <li>・教え方はわかりやすかったです。(日本文化 C2)</li> <li>・おもしろくて、勉強になりました。(日本文化 C2)</li> <li>・先生の教え方はとてもよかったです。おもしろいし、やさしいし、わかりにくい言葉もやさしく教えました。(日本文化 C2)</li> <li>・わかりやすくてスピードも良かったです。(日本文化 C2)</li> <li>・先生が親しく、違う国からの留学生と一緒に相談したり発表したりして、おもしろくて楽しかったと思います。(日本文化 C2)</li> <li>・とてもわかりやすかったと思います。(日本文化 C2)</li> </ul>
<p>6. どのぐらい出席したか</p> <p>80%～100% (69人)</p> <p>60%～ 80% (8人)</p> <p>40%～ 60% (0人)</p> <p>20%～ 40% (0人)</p> <p>0%～ 20% (0人)</p>	—	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の授業やゼミがあったから (4人)</li> <li>・アルバイトがあったから (0人)</li> <li>・病気のため (12人)</li> <li>・その授業に興味がなかったから (0人)</li> <li>・その他 (3人)：途中で参加したため。(作文 C2)</li> <li>国に帰る間。(日本文化 C2)</li> </ul>
<p>7. 予習・復習をしたか</p> <p>かなりした (30人)</p> <p>すこした (45人)</p> <p>ぜんぜんしなかった (2人)</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習について主に言葉の勉強をしました。非常によかったと思います。(読解 C2a)</li> <li>・もうちょっと授業の予習をすればよかったと今は後悔しています。(読解 C2a)</li> <li>・漢字のテストは毎週行われているので、知っている単語の数が増えました。(読解 C2a)</li> <li>・いろいろな知識について勉強になります。今後の生活に役に立ちます。(聴解 C2)</li> <li>・あまり難しい宿題ではなかったから、うれしいです。(聴解 C2)</li> <li>・教科書がなかったので、復習をするのは少し難しかったです。(聴解 C2)</li> <li>・プリントがたくさんあって、何を勉強したらいいかという時がありました。(聴解 C2)</li> <li>・院生のため、語学の授業のための予習をする時間はあまりなかった。でも、この授業はそんなに時間がかからないです。(会話 C2)</li> <li>・毎週テストが行われたのはとても良かったです。とても勉強になりました。(漢字 C2)</li> <li>・私にとって言葉が難しいからです。(日本文化 C2)</li> <li>・宿題はあまりなかったので、良かったです。(日本文化 C2)</li> </ul>

その他

- ・先生のおかげで、N1 の読解部分で満点を取りました。感謝しています。この授業を受けて、非常によかったと思います。(読解 C2a)

表10 前期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者23人）

1. 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答）	<p>オリエンテーション出席者（14人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（6人）</li> <li>・学部の教職員にきいた（6人）</li> <li>・国際交流センターの教職員にきいた（6人）</li> <li>・事務の人にきいた（6人）</li> <li>・友だちにきいた（3人）</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者（9人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（1人）</li> <li>・学部の教職員にきいた（1人）</li> <li>・国際交流センターの教職員にきいた（1人）</li> <li>・事務の人にきいた（3人）</li> </ul>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい（18人）：初級5人，初級&amp;中級2人，中級6人，上級5人          多くしてほしい（4人）：初級2人…At least twice a week!（1人），初級&amp;中級1人…文法，聴解，作文，会話，上級1人…会話，文法，作文          少なくしてほしい（1人）：初級1人…文法</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい（20人）：初級6人，初級&amp;中級3人，中級6人，上級5人          新しい科目を作ってほしい（3人）：初級2人…No choice（1人），上級1人…漢字</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>専門の時間割がわからないので答えられない（6人）：初級&amp;中級2人，中級2人，上級2人          午前1・2限（3人）：初級1人，中級2人          午後3・4限（2人）：初級1人，中級1人          いつでもいい（7人）：初級3人，初級&amp;中級1人，中級1人，上級2人          その他（5人）：初級3人…帰国（3人），上級2人…夜（1人），月・火は専門の授業が多いので，水・木・金の日本語課外補講の授業時間を希望です（1人）</p>

その他

- ・If emphasize more on fluent speaking, I think it will be very good for students at elementary level.（初級）
- ・作文の授業があればいいと思います。（上級）

表11 後期のカリキュラムについてのアンケート結果（回答者39人）

1. 日本語課外補講をどこで知ったか（複数回答）	<p>オリエンテーション出席者（31人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの掲示を見た（3人）</li> <li>・専門の先生にきいた（5人）</li> <li>・国際交流センターの先生にきいた（10人）</li> <li>・事務の人にきいた（11人）</li> <li>・友だちにきいた（2人）</li> </ul> <p>オリエンテーション欠席者（8人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の先生にきいた（2人）</li> <li>・国際交流センターの先生にきいた（1人）</li> <li>・事務の人にきいた（3人）</li> <li>・友だちにきいた（2人）</li> <li>・チューターにきいた（2人）</li> </ul> <p>* 複数回答あり</p>
2. 授業科目数の希望	<p>今のままでいい（37人）：初級14人，中級11人，上級12人          多くしてほしい（2人）：初級2人（希望の詳細は記入なし）          少なくしてほしい（0人）</p>
3. 授業科目の希望	<p>今のままでいい（36人）：初級15人，中級11人，上級10人          新しい科目を作ってほしい（2人）：上級2人…ビジネス日本語          無回答（1人）</p>
4. 来期の授業時間帯の希望	<p>いつでもいい（15人）：初級7人，中級4人，上級4人          専門の時間割がわからないので答えられない（12人）：初級4人，中級4人，上級4人          午前1・2限（4人）：初級3人，上級1人          午後3・4限（5人）：初級2人，中級2人，上級1人          その他（2人）：上級2人…帰国（2人）          無回答（1人）</p>

その他

- ・いま、まいにちたくさん勉強しました。それはいいです。(初級)
- ・じゅぎょうがもっとほしい。まいしゅう、2つクラスがあったほうがいい。(初級)
- ・I would like to join the classes in the next semester. (初級)
- ・日本語が分からない学生たちに、一から日本語や日常会話や文法などいろいろな方面から教えてくれて、すごく助かりました。母国で日本語を勉強した学生にとっても、日本人らしい日本語、これまで知らない日本などを勉強できて、とてもよかったです。(上級)
- ・単位が取れるほうがいいと思います。(上級)
- ・とてもいい勉強になりました。(上級)
- ・日本語課外補講でいい勉強になりました。ありがとうございました。(上級)

まず、各クラスの授業内容に関するアンケート結果については、初級、中級、上級各クラスのアンケート質問項目1から5(「1. 授業内容」、「2. 授業のレベル」、「3. 授業の進捗」、「4. 教科書・プリント」、「5. 教え方」)までの平均評点を出すと、初級前期が4.3点、初級後期が4.1点、中級前期が4.5点、中級後期が4.4点、上級は前期、後期ともに4.7点と、概ね良い評価を得ていると言える。また、前年度と比べても平均評点はほぼ同じで、2015年度も2014年度と変わらない質の日本語授業が提供できたと考えられる。ただ、各質問項目の評点を見てみると、中級では、全ての項目の評点が4.2点以上で、4.5点以上の評点の質問項目も半数あり、上級では、全ての項目の評点が4.5点以上だということを考えると、初級の評点が若干低いと言える。初級では、評点が4.0点以上の項目が7割、4.5点以上の項目が4割を占めているとは言え、「授業の進捗」においては前期が3.7点、後期が3.8点、「授業のレベル」においては後期が3.8点と、4.0点を下回っている項目があることが懸念される。これに関しては、前年度の2014年度も同様の傾向があり、初級の後期においては、「授業のレベル」が3.9点、「授業の進捗」が3.8点と、4.0点を下回っていた(2014年度紀要「日本語課外補講報告」参照)。この要因として、初級クラスにおいては、コースが進むにつれ、受講者間の日本語の習熟度に関きが出やすく、授業のレベルや進捗に満足できない受講者もいることが挙げられる。そこで、初級「文法」クラスにおいては、コース途中から習熟度によりグループを2つに分け(「日本語研修コース」用「文法」クラスと「日本語課外補講」用「文法」クラスに分けていたものを、受講者の習熟度によってクラスを分ける措置をとった)、各担当教員も受講者全員に注意を注ぐよう努めたが、今後、更なる改善に向けて努力が必要な項目だとも言える。

次に、カリキュラムに関するアンケート結果を見ると、日本語課外補講に関する情報は、前年度同様、国際交流センターや学部の教職員からきくのが多いようである。授業科目数や内容についても、前年度同様、「今のままでいい」という回答が多かった。最後に、授業時間帯については、「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。

## 8 おわりに

2014年度に引き続き、2015年度も高岡キャンパスで試行的に日本語課外補講が開講されたが、2016年度は開講されない予定である。今後、高岡キャンパスの留学生の様子をどう把握していくか、高岡キャンパスの留学生に五福キャンパスでの受講をどう促せるかが課題となると言える。また、初級の「文法」クラスにおいては、2014年度は「日本語研修コース」用の「文法」クラスと「日本語課外補講」用の「文法」クラスと、同じ内容の授業が2つあったため、前述にある通り、それを習熟度に差がある受講者を2つのグループに分け授業を行うことに活用できたが、2015年度の「文法」クラスは、「日本語研修コース」と「日本語課外補講」の合同授業として1つのクラスで開講されることになっており、習熟度が異なる受講者を2つのグループに分けるといった措置をとることができない。よって、コースが進み、学習者間の習熟度に差が開いてきた時に、どう対応していくかということが大きな課題となると言える。

# 総合日本語コース報告（2014年10月～2015年9月）

濱田 美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いいため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2014年10月に11期目の学生を迎えた。

以下、2014年度秋期（2014年10月～2015年3月）及び春期（2015年4月～9月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

### 2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2014年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は6人で、その学生は秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身・地域はイタリア、インドネシア、韓国、スリランカ、フランス、ロシア各1人で、所属は全員人文学部である。

総合日本語コースの授業科目として、2014年度は秋期と春期、各期9科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2014年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、12科目（秋期7、春期5）が1人、10科目（秋期5、春期5）が1人、9科目（秋期5、春期4／秋期4、春期5）が2人、6科目（秋期4、春期2）が1人、5科目（秋期3、春期2）が1人だった。

### 2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、上級レベルの日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生と半年の学生がいるため、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は18人で、出身国・地域別の内訳は中国が11人、韓国が3人、台湾とロシアが各2人、所属別の内訳は人文学部が7人、人間発達科学部が5人、経済学部が3人、経済学研究科が2人、人文科学研究科が1人だった。春期は11人で、出身国・地域別の内訳は中国が8人、台湾が2人、韓国が1人、所属別の内訳は人文学部と経済学部が各4人、人間発達科学部が2人、経済学研究科が1人だった。

履修科目数については、秋期は4科目が8人、3科目が5人、2科目が3人、6科目が2人、春期は3科目が5人、2科目が2人、6科目と5科目と4科目と1科目が各1人だった。

## 3 担当者

秋期、春期ともにセンター専任教員1人（濱田美和）、及び、謝金講師6人（高畠智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規）が授業を担当した。いずれの期もセンター専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。



## 4 スケジュール

秋期は、2014年10月8日（水）～2015年2月10日（火）を授業期間とした。12月23日（火）～1月5日（月）は冬季休業、1月16日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月5日（水）と11月27日（木）と1月13日（火）は月曜日の授業を行った。

春期は、2015年4月10日（金）～7月30日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5月2日（金）は水曜日の授業、5月7日（木）は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2014年10月7日（火）、春期は2015年4月8日（水）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後1週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは、上級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2014年10月～2015年9月）

授業科目名 (開講曜限)	担当	授業概要
秋期：読解 A2 (火曜 4 限) 春期：読解 A1 (火曜 2 限)	藤田	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。
秋期：読解 B2 春期：読解 B1 (木曜 3 限)	永山	留学生に必要とされる専門書、論文の読解能力の育成を目指し、教養書、新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物（日本人向けに書かれたもの）を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手立てを見つめる。
秋期：文法 2 (木曜 2 限) 春期：文法 1 (火曜 1 限)	濱田	大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現（時を表す表現、接続表現、文末表現など）を、実践的な演習を通して習得する。日本語能力試験受験対策もあわせて行う。
秋期：作文 2 春期：作文 1 (金曜 2 限)	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期：聴解 2 春期：聴解 1 (水曜 3 限)	要門	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 2 春期：会話 1 (火曜 3 限)	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。



秋期：漢字 2 春期：漢字 1 (月曜 3 限)	高 島	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.2(凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 2 春期：表現技術 1 (月曜 2 限)	濱 田	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 2 (木曜 4 限) 春期：日本文化 1 (水曜 4 限)	中 河	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読みとり、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

\*1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の 7 授業評価を参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優(80点～100点)、良(70点～79点)、可(60点～69点)、不可(59点以下)で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9 月(留学期間が半年の学生については 3 月)に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行っている。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査(実施日:2015年2月10日(火)、3月20日(金)、7月27日(月)、28日(火)、29日(水)、30日(木)、調査対象:2014年度日本語・日本文化研修留学生(6人)、協定校からの短期留学生(11人))を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース： 科目について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分だった。(11人)</li> <li>・ちょうど良かった。</li> <li>・ちょうど良かったが、自分が取った科目数はちょっと少なかった。他の授業、「読解」、「作文」も取ったほうがよかった。</li> <li>・大体ちょうどよかったが、もう1つ、「読解」の授業を取ったほうがよかった。</li> <li>・足りていた。秋期はちょっと授業を取りすぎた。全部で9科目以内がいいと思う。</li> <li>・十分だった。総合日本語コースの科目に単位があったらいいと思う。</li> <li>・来たばかりの時はN2レベルの科目がなかったので、ちょっと困った。総合日本語コースの科目に単位があったらいいと思う。</li> </ul>
2. 総合日本語コース： レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうど良かった。(7人)</li> <li>・普通の学生にとってはちょうど良いと思うけど、日本語が専門ではない私にとっては少し難しかった。聞くことと読むことはそんなに難しくないけど、話すことが難しかった。</li> <li>・ちょっと難しいです。国の授業で手紙の書き方とか全然勉強しなかったので、「表現技術」の授業を受けてよかった。「作文」も国で日本語で書くのはチャンスが少なかったの、初めは難しかったけど、慣れたら大丈夫だった。「聴解」は最初から大丈夫だった。</li> <li>・レベルがいろいろだった。秋期「表現技術」はちょっと難しかった。春期「聴解」はいろいろなものが聞けておもしろかったが、日本語能力試験の準備をしたかったので、ちょっと易しすぎた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N2 レベルなので、秋期「表現技術」と春期「読解 A」が難しかった。他は大丈夫だった。</li> <li>・科目によって違う。私にとって内容的に難しいのは「漢字」で、調べても意味のわからないことがあった。他は大丈夫だった。「聴解」は簡単すぎて、日本語能力試験の役には立たないと思った。</li> <li>・「文法」「漢字」「読解 A」はレベルがちょっと高い。</li> <li>・ちょうど良かったと思う。私はもうちょっとがんばらなければならなかったと思う。</li> <li>・「文法」の授業は N1 のためにちょうどいい。「聴解」は、たまに教材がちょっと難しかった。ビデオを見たとき、ある単語が難しく、話すスピードがたまにちょっと速すぎる。</li> <li>・秋期の「文法」は簡単だった。春期の「聴解」はちょうどよかった。春期の「日本文化」はおもしろかった。秋期も取ればよかった。</li> <li>・秋期は日本に来たばかりだったから、「作文」の授業での論文の書き方などは難しかった。春期は大丈夫だった。</li> </ul>
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを見て、授業内容の確認をして、受講した。日本人のチューターからもアドバイスをもらった。どんな授業が自分にとって勉強になるかを相談して決めた。</li> <li>・まず興味がある授業、それから就職で役に立つ授業を選んだ。</li> <li>・今の自分の最も足りない部分、そして、将来の仕事のために授業を選んだ。</li> <li>・秋期は授業やレポートの役に立つような授業を選び、春期は日本語能力試験に向けて授業を選んだ。</li> <li>・シラバスを見て、専門の時間割を考えて、自分の力を上達させるように決めた。</li> <li>・最初は自分が弱い点を選んで、後は日本語能力試験を受けるので、N1 関係のものを取った。</li> <li>・N1 に合格するために、正しい日本語が使えるようになるよう、科目を選んだ。</li> <li>・自分の不足点、自分のレベルを上達させられるように選んだ。</li> <li>・一つ目は授業のおもしろさについて優先的に考えて、二つ目は自分に足りない点を補えるかどうかを考えて選んだ。</li> <li>・自分にとって役に立ちそうなものを選んだ。</li> <li>・N1 のために「文法」と「読解 A」を選んだ。それから、苦手なところを選んだ。</li> <li>・まずは専門の授業と重ならないかを見て、そのあとシラバスを見ておもしろそうなものを選んだ。</li> <li>・母国の大学の科目に基づいて単位互換しやすい科目を選んだ。総合日本語コースの科目は、単位互換 OK だが、専門の科目が厳しい。</li> <li>・自分が不足しているもの、興味があるものを選んだ。会話力が不足しているので「会話」を選んだ。「読解 B」はいろいろな文章を読めて、日本文化も知ることができ、読んだ後ほかの学生と話すことができるので選んだ。</li> </ul>
4. 自身の日本語力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸びたと思う。耳も慣れてきたし、読むことの速さも増えてきたことに気付いたし、もう少し話せるようになった。国で話す練習をあまりしなかったが、ここでは話すチャンスがあった。</li> <li>・伸びた。特別に伸びたのは漢字。それから、読むスピードが速くなった。</li> <li>・話すのが良くなった。日本語を勉強したのは 2 年前で、日本に来る前の 2 年間は日本語を使わなかったので、来たばかりのときは話せなかったが、みんなが日本語を話しているので、だんだん良くなかった。授業は、全部はわからないけれど、辞書で調べたりしたら、大体わかった。外国語の勉強はこのような方法がいいと思う。</li> <li>・上手になったと思う。日本語を書く能力も話す能力も高くなったと思う。聴解のスピードも、国でも聴解の CDなどを聞いたけど、実際の日本人の話すスピードは人によって違うと思った。方言が一番勉強になった。国での聞くのは標準語の日本語だけだったので、これは日本に来ないと勉強できないことかな。</li> <li>・日本語の力は伸びたけど、理想よりも低い。授業では、レポートを書いたりすることが多かったから書く力は伸びたが、会話の力や新しい言葉はあまり増えなかった。日本人学生と話す中で、「新歓」や「チャリ」などの言葉を覚えた。今後は、日本人とのコミュニケーションが一番重要だから、会話の力をもっと伸ばしたい。</li> <li>・全部日本語の環境にいるから、日本語の力が伸びた。会話が特に伸びた。今後も会話の力をレベルアップしたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み、書きの練習は国でもできるけれど、聞くことと話すことが特に伸びた。「…でさ」という言い方をする日本人学生が多いことを知ったのもこちらに来て学んだことだ。今後は、友だち同士での会話はできるようになったので、ちゃんとした尊敬語や謙譲語を自由に使って話したり、手紙を書いたりできるようになりたい。</li> <li>・レベルアップしたと思う。語彙が増えたとし、読むときに自信を手に入れた。最初は漢字がいっぱいで怖かった。今後は発音と漢字の力を伸ばしたい。</li> <li>・結構伸びたと思う。国の日本人の友達から話すのがうまくなったと言われた。漢字は前より絶対に良くなかったと思う。今後伸ばしたい力は漢字で、漢字の力は80%は自習によるものだと思う。他には就職や仕事で使うことばや表現を勉強したい。</li> <li>・話す力と聞き取る力がだいぶ良くなったと思う。今後はこれまで勉強したことを実際に使えるようになるまで練習する時間が必要だ。国に帰ったら、日本人が周りにあまりいないのが残念だ。</li> <li>・レベルアップしたと思う。特に、話し方、会話は上手になったと思う。文法や漢字の書き方もレベルアップした。今後は文法と作文の力をもっと伸ばしたい。</li> <li>・前よりちょっとだけ上がっている気がする。特に聴解や、日本人と話す時に以前は意識しないで日本語を話していたが、文法とかにもっと注意をして自然な日本語が話せるようになった。今後は、日系企業で働きたいので、ビジネス用語や敬語を使えるようになりたい。</li> <li>・前よりレベルアップしたと思う。聞く力も話す力もちょっとアップした。今後は、日本の文化、たとえば祭りなどをもっと知りたい。</li> <li>・伸びたと思う。特に話す力と聴解の力が伸びた。今後伸ばしたい力は、今は簡単なやりとりはできるので、もっと深く複雑に話題についてやりとりできるようになりたい。</li> <li>・伸びたと思う。特に方言の聞き取りが伸びた。読むスピードも速くなった。今後は、論文やレポートを書く力を伸ばしたい。</li> <li>・伸びたと思う。たとえば、テレビ番組を見たとき、前は字幕を見てもわからなかったが、今は見なくても180%分かるようになった。今後は、授業で先生と会話できるようになりたい。自分の意見や気持ちを伝える能力を伸ばしたい。</li> <li>・少し伸びた。特にヒヤリングが伸びた。最初は富山の人は話すスピードが速いのがびっくりしたけど、今は大体聞き取れる。</li> </ul>
5. 富山での留学生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山大学の学生生活はとても楽しかった。授業以外の活動、センターでの集まりとかパーティーは国でやっていなかったもので、楽しかった。富山は交通はちょっと不便だった。寮はとても便利だった。部屋も広いし、生活に必要なものはあって、生活しやすかった。</li> <li>・とても楽しかった。日本人の学生も留学生も先生もみんなやさしい。いつも手伝ってくれた。寮があまり近くないため、雪のとき大変だった。</li> <li>・すごくいいと思う。まずは、いろんな外国人と一緒に時間を過ごすと、自分の国と違うことがいろいろあることがわかる。日本人の生活と文化は、国とは全然違う。学校の食堂のバイトを通して、日本には年功序列、集団意識があることがよくわかった。バイトで、みんなと一緒に過ごしてとても楽しかった。日本の生活にとっても近づくことができた。経験して良かった。大都市は便利だけど、いろんな誘惑があるので、勉強するには富山のようなところがいいと思う。富山の人は親切。日本に来たばかりのころ、チューターが忙しくて、1人だった。初めて学校へ行くとき、道で会った知らないおばあさんがとても親切にいろいろなことを教えてくれた。1人だったことで、いろいろな経験ができて、良かったと思う。</li> <li>・半年間ですごく成長したと思う。辛いことも本当にたくさんあったけど、成長した。指導教員にすごく感謝している。成長できる前は、つらい体験が必ずあると思う。富山での生活は80%好きなところと、20%いやなところがあった。まず良かったところは、田舎で静かなところ。日本に来て驚いたのは、学生が使えるパソコンやプリンタがあるなど、母国の大学より学生へのサービスが充実しているところ。富山大学の学生については、深く考えていると思う。とても細かいところに注意している。自分は甘すぎと思った。何度もミスをして先生に怒られた。自分の専門を考えると、これから細かいところに注意すべきだと思う。富山の学生は性格が良く、親しめる感じがある。合宿で会った都会の大学の学生はちょっと距離感がある気がした。私が富山で一番いやなのは、寒い地方の出身なので、雪には慣れている。でも、故郷の雪は降ったら氷になるけど、富山の雪は降った後すぐ水になるので、いやだった。持って来た靴は防水でなかったもので、新しい靴を買った。富山は雷の音も大きい。買い物も不便だった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 好きやっちゃ。富山は空気がきれいだし、慣れました。交通が不便だけど、生活しやすい。他の国からの留学生、日本人学生とも仲良くなれた。</li> <li>• 富山の環境は静かなのが好きで、悪い点は北陸にあるから雪が多い点だ。留学生や日本人学生と仲良くなれたし、先生もやさしい。</li> <li>• 富山の悪い点は、車がないから、冬は雪で家にしかいらなくて退屈だった。いい点は、本州の真ん中にあるから、京都・大阪へも東京へも行きやすかったこと。立山があるから、自然災害が少ないことだ。みんなやさしく、ゼミでも愛されて勉強している感じがした。ゼミで誕生日会を開いてもらったときはとてもうれしかったし送別会もしてもらえるし、こんなふうに留学生のための日本語のコースをよくするためにインタビューも行われているし、富山に来て本当に良かった。</li> <li>• 全然良かった。空気と水が良かった。人々がのんびりしていて、住みやすい。魚もおいしい。この間東京で寿司を食べたら、全然おいしくなかった。海と山も近い。</li> <li>• 交通機関が不便で、国とは全然違うからびっくりした。ただ、欠点はこれぐらいで、他は私にとって安全だし、落ち着いてのんびり生活できるから良かった。治安がすごくいい。留學生活では、長い間一人で生活したので、自立することができた。もちろん周りの人にたくさん手伝ってもらったが、自分でやらなければいけないことも多く、いいバランスが取れたと思う。</li> <li>• 安全で安心な生活ができた。日本のほかの地域と比べると、地震がないから安心できた。</li> <li>• とても良かったと思う。富山が大好きだ。子どものころから山が好きで山の近くに住みたかったので、夢が叶った。立山は本当にすばらしい。立山を見ると、感激する。町が立山に囲まれていてすてきだ。大学の生活もとても良かった。友だちも本当にたくさんできた。先生も全員やさしかった。富山は本当に勉強と生活するのにいい環境だと思う。</li> <li>• 富山のいいところは、静かで景色がきれいな田舎で、水もお米もおいしい。悪い点は天気で、冬は雨が降った後は雪、雪が降った後は雨で、寮から学校まで遠いし、バスも1時間に2本だけで少ないし、とても不便だった。ゼミの日本人学生たちと交流する機会が多く、皆、修了レポートを書くときなどいろいろと手伝ってくれて、感謝している。</li> <li>• この1年とても楽しかった。いろいろ遊びに行った。景色がきれいだし、人々もやさしいし、富山のことが好きだ。ただ、大都市と比べて交通が不便だ。</li> <li>• 悪い点は、冬いつも雪が降っていて、交通が不便だった。いい点は、景色がきれいなこと、たとえば、立山、黒部、雪の壁などの有名な景色がある。生活がゆっくりできて、ストレスが少ないと思う。温泉が好きなので、この点でも富山は良かった。</li> <li>• いい点は静かで暮らしやすいことだが、交通が不便だった。大学生活はゼミがあって、秋期は勉強だけだった。春期に修了レポートを書き終えた後、いろんな所へ行きたかったが、もうあまり時間がない。楽しい留學生活を送った学生が少いうらやましい。</li> <li>• 自由だった。ゼミはないけれど、チューターと食の交流会をしたり金沢へ行ったり旅行に行ったりして、楽しかった。</li> <li>• 富山の自然風景はとてもきれいだ。富山の友だちはいつも富山には何もないと言うけれど、自分はこの点が好きだ。日本にいる間に東京や大阪などいろいろ旅行したが、大都市と比べると富山のほうが静かで暮らしやすいと思う。ただ、交通はちょっと不便だ。少し遠いところに行くためには、車を持っている友だちに頼まなければならない。大学生活では、ゼミの人たちと家族のように仲良くした。</li> </ul>
--	---

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かったが、留學期間が半年の学生たちからは「他の科目も受講すればよかった」という意見も聞かれた。留學期間が短い学生に対しては学期初めの時間割作成の段階において、より手厚い指導の必要性がうかがわれる。

次に、コースのレベルについては科目によって難易度が異なることを挙げる学生が多かった。特に非漢字圏の学生にとっては「読解」、「文法」、「作文」、「漢字」、「表現技術」が難しかったようである。2014年度は総合日本語コースの受講者数が増え、また、受講者の日本語の習熟度の開きも多かったことから、例年と比べて「難しかった」という声が多く聞かれたものと思われる。



科目選択の際に重視した点として、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答が多く、他には、おもしろそうな科目、就職時に役立ちそうな科目、母国の大学での単位認定がしやすいような科目を選んだという回答があった。

自身の日本語能力については話す、聞く力を中心に、レベルアップしたと感じている学生が多かった。読むスピードの速さや漢字・語彙力の向上を挙げる学生も複数見られた。今後伸ばしたい力としては、さらに話す力、コミュニケーション力を身につけたいという学生が多く、漢字力やレポートを書く力をつけたいという学生も複数見られた。

最後に、富山の生活については日本人学生との交流や自然環境を評価する学生が多かった。問題点としては、交通の不便さと天候を挙げる学生が多かった。

## 8 おわりに

総合日本語コースは、当初は日本語・日本文化研修留学生を対象として開設したプログラムであるが、年々短期留学生の受講が増加している。そこで2014年度より、コース要項を整備して、これまで日本語・日本文化研修留学生に対してのみ行っていた国際交流センター長名での履修証明書の発行を、短期留学生に対しても行う体制とした。2014年度の課題としては、総合日本語コースへの中級レベルの科目の設置が挙げられる。2014年度の日本語・日本文化研修留学生の中には、来日時の日本語力があまり高くなく、総合日本語コースの一部の科目については難易度が高すぎるため、日本語課外補講中級クラスの科目を受講しなければならない学生たちがいた。今後もこのような学生の増加が見込まれること、中級レベルの科目の設置は短期留学生にとっても受講科目の選択が広がるという利点があることから、2015年度秋期からの実施を目指して検討を進めた。今後もその時々受講者に合ったコースを提供できるよう、コースの改善に努めたい。



# 日韓共同理工系学部留学生プログラム報告(2015年4月～2016年3月)

副島 健治

## 1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され10年間の第1次事業を経て、2009年の募集から新たな第2次事業が行われている。富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生(以下、「日韓生」とする)ののべ9人受け入れた。

## 2 2015年度の本事業による富山大学への学生配置について

2014年度のフェア参加の結果、文部科学省から本学へ2人の日韓生配置の照会があったものの、事情により最終的には2015年度の富山大学への日韓生の実際の新たな配置はなかった。

## 3 富山大学配置の在籍日韓生

これまでに9人の日韓生を受け入れた経緯はあるが、第一次事業第10期生2人(理学部1人、工学部1人)が2014年3月に卒業して以降、本学には日韓生はいなくなっている。

## 4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れのための準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下、「日韓WG」とする。)が2001年4月に立ち上げられ、メンバーの交代を経ながら現在に至っている。2015年度のメンバーは倉光英樹(理学部教員、日韓WG座長)、柿崎充(理学部教員)、柴田啓司(工学部教員)、バハウ・サイモン・ピーター(国際交流センター教員)、副島健治(国際交流センター教員)、そして事務から学生支援グループ留学支援チームのスタッフを加えて構成されている。

2015年度は、富山大学として日韓プログラム推進フェア(後述)に直接参加をしなかったため、日韓WGのメンバーが集合して活動することはなかったが、日韓共同理工系学部留学生事業協議会への参加および情報共有等のためのWGメンバーへのメールあるいは電話による連絡調整を行った。

## 5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が2015年度は下記の日時・場所で開催され、本学からはWGメンバーの柿崎充(理学部)と柴田啓司(工学部)が参加し、報告書を作成した。

日時：2015年6月26日(金) 13:00～17:00

場所：筑波大学 大学会館 国際会議室

## 6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の2015年度第2次第7期選抜の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、2015年9月20日(日)に大韓民国国立国際教育院(韓国ソウル)において、日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアが開催された。本学は、資料提出のみによる参加をした。

## 7 おわりに

本事業は1999年より当初10年計画で開始され、現在も第2次事業として継続されている。日韓生を受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が進学希望大学として日韓生候補者に選ばれるように努力しなければならない、しかもそのためにできることはそれほど多くはない。実際には、前述のフェアがその努力を傾注すべきほぼ唯一の機会となっている。そして日韓生候補生が進学を希望する日本の大学は、ネームバリューのある大学に集中しがちで、実際には日韓生の配置はおのずとそのような大学に偏る傾向があるのが現状である。

2015年度のフェアについては、本学は直接の参加をしなかった。2011年度以降本学への配置がゼロという現実において、フェア参加にかかる費用の問題もあり、理学部と工学部の意向を踏まえそのような決断に至ったと言える。状況を鑑みると今後の見通しは厳しいと言わざるを得ない。

# 日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2015年4月～2016年3月)

濱田 美和

## 1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」, <http://raicho.ier.u-toyama.ac.jp>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際交流センターが運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。本稿では、RAICHO サイトの2015年度の整備状況について報告し、今後の展望を述べる。

## 2 2015年度 RAICHO サイト整備状況および利用状況

外部サーバでの運用を2013年12月より開始し、2015年度についても継続して外部サーバを利用した。この間サーバに関するトラブルは一切なく、RAICHO サイトを円滑に運用することができた。

2015年度は、「日本語自己学習」コンテンツに新たに日本語課外補講「生活日本語」のクラスでの主教材『Basic Japanese for Students はかせ』1(スリーエーネットワーク)1課から13課までの語彙クイズを加えた。「生活日本語」は大学院生や研究者など専門の研究で多忙な学生が多く受講していることから、空いた時間に PC や携帯端末で手軽に予習・復習用に使えるよう作成した。語彙クイズは日本語と英語で意味的に対応する語を選ぶ(2択)もので、ローマ字表記版と仮名表記版、2種類用意した。

『Hakase1』L4 Vocabulary Quiz 1 Rooma-ji	
Eigo de nan desuka. Erandekudasai. Choose the appropriate translation of the words below.	
Q.1	nomimasu <input type="radio"/> drink <input type="radio"/> read
Q.2	kenkyuushimasu <input type="radio"/> research <input type="radio"/> make
Q.3	tabemasu <input type="radio"/> eat <input type="radio"/> read

図1 語彙クイズ1: 日本語→英語(ローマ字表記版)

『はかせ1』L6 Vocabulary Quiz 2 ひらがな・カタカナ	
にほんごで なんですか。えらんで ください。 Choose the appropriate translation of the words below.	
Q.1	train <input type="radio"/> でんしゃ <input type="radio"/> じてんしゃ
Q.2	airplane <input type="radio"/> ひこうき <input type="radio"/> ちかてつ
Q.3	family <input type="radio"/> かぞく <input type="radio"/> ひとり

図2 語彙クイズ2: 英語→日本語(仮名表記版)

「日本語自己学習」コンテンツはユーザ登録をすることによって、利用者が自身の解答履歴を参照できるようになっているが、2015年4月から2016年3月までの1年間に新たに277人がユーザ登録をしてこのコンテンツを利用している。

## 3 今後の課題

2015年度は、初級クラスの学習者向けのコンテンツを増やすことができたが、コンテンツの数はまだ十分とは言えない。これまでも人的、時間的な要因によって新たなコンテンツ作成が以前よりも困難になってきていることを述べたが、良い解決方法はまだ見つかっていない。ただ、毎年少しずつではあるが、コンテンツの強化は継続的に行えていることから、まずは現状維持に努めながら解決方法を探っていきたい。

### 3. 国際交流センター関連行事等 (2015年4月～2016年3月)

#### 2015年

- 4月2日(木) 2015年度前期日本語プログラム講師ミーティング
- 4月3日(金) 平成27年度学部新入留学生のためのオリエンテーション
- 4月6日(月) 第32期日本語研修コース学内公募選考(試験・面接)
- 4月7日(火) 平成27年度学生支援オリエンテーション(各学部)  
第32期日本語研修コース オリエンテーション  
第1回富山大学国際交流センター交換留学 WG
- 4月8日(水) 前期日本語課外補講 オリエンテーション
- 4月8日(水) 春期総合日本語コース オリエンテーション
- 4月9日(木) 第32期日本語研修コース 開講式  
第1回富山大学国際交流センター運営委員会  
学部新入留学生のための時間割作成オリエンテーション
- 4月15日(水) 新規来日(研究生・科目等履修生等)のためのオリエンテーション
- 4月20日(月) 第1回センター教員会議
- 5月11日(月) 第1回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会および  
第1回 同 五福キャンパス部会
- 5月12日(火) 平成27年度 第1回短期派遣留学プログラム WG
- 5月18日(月) 第2回センター教員会議
- 5月25日(月) 第2回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 6月1日(月) 第3回センター教員会議
- 6月2日(火) 国際交流活動対応支援セミナー(国大協サービス)参加
- 6月4日(木) 第2回富山大学国際交流センター運営委員会  
第3回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 6月11日(木) 日本語・日本文化研修留学生プログラム検討 WG
- 6月13日(土)～14日(日)  
日本語研修コース ホームステイ(1泊2日)
- 6月19日(金) スタディーエクスカッション
- 6月22日(水) 平成27年度第2回短期派遣留学プログラム WG
- 6月24日(水) 平成27年度富山県留学生等交流推進会議総会・留学生との座談会
- 6月25日(木) 第4回センター教員会議
- 6月26日(金) 第32期日本語研修コース「私の国」スピーチ発表会  
2015年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会
- 7月6日(月) 第3回富山大学国際交流センター運営委員会
- 7月10日(金)～7月14日(火)  
第4回富山大学国際交流センター運営委員会(メール会議)
- 7月23日(木) 第4回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会および  
第2回 同五福キャンパス部会
- 7月24日(金) 第5回 センター教員会議
- 7月28日(火) 平成27年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会
- 8月3日(月)～8月5日(水)  
2015年度第1回国際交流センター主催夏季セミナー：留学を目指す学生のための  
「日本語・日本事情」講座(3日間)

- 8月5日(水) 国際交流センター主催 第1回講演会  
第32期日本語研修コース「私の専門」スピーチ発表会
- 8月19日(水)～8月21日(金)  
2015年度第2回国際交流センター主催夏季セミナー：  
留学を目指す学生のための「留学準備の英語」講座(3日間)
- 9月11日(金) 第5回富山大学国際交流センター運営委員会
- 9月18日(金) 第32期日本語研修コース 成績判定会議
- 9月25日(金) 第32期日本語研修コース 修了式
- 9月28日(月) 第6回 センター教員会議
- 9月30日(水) 2015年度後期日本語プログラム講師ミーティング  
平成27年度第3回短期派遣プログラム WG
- 10月5日(月) 後期日本語課外補講 オリエンテーション  
第33期日本語研修コース 学内公募選考(試験・面接)
- 10月6日(火) 第5回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会  
秋期総合日本語コース オリエンテーション  
第33期日本語研修コース オリエンテーション
- 10月7日(水) 第33期日本語研修コース 開講式
- 10月9日(金) 新規来日(研究生・科目等履修生等)のためのオリエンテーション
- 10月13日(火) 第1回国際交流センター長と就職・キャリアセンター長との意見交換会
- 10月14日(水)～10月20日(火)  
第6回富山大学国際交流センター運営委員会(メール会議)
- 10月19日(月) 第6回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会
- 10月26日(月) 第2回国際交流センター長と就職・キャリアセンター長との意見交換会  
第7回 センター教員会議
- 10月29日(木) 日本語・日本文化研修留学生プログラム検討 WG
- 11月13日(金) 第8回 センター教員会議
- 11月17日(火) 第2回富山大学国際交流センター交換留学 WG
- 11月20日(金) スタディーエクスカーション
- 11月26日(木) 第3回国際交流センター長と就職・キャリアセンター長との意見交換会  
第9回 センター教員会議
- 12月5日(土)～6日(日)  
日本語研修コース ホームステイ(1泊2日),  
ホームビジット(12月5日(土)日帰り)
- 12月14日(月) 第9回 センター教員会議
- 12月17日(木) 第7回富山大学国際交流センター運営委員会  
第7回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会および第3回  
同五福キャンパス部会
- 12月18日(金) 第33期日本語研修コース 「私の国」スピーチ発表会



## 2016年

1月8日(金)～1月15日(金)

第4回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会五福キャンパス部会  
(メール会議)

1月25日(月) 第10回 センター教員会議

1月28日(木) 第8回富山大学国際交流センター運営委員会

2月2日(月) 第11回 センター教員会議

2月9日(火) 第8回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会

2月10日(水) 国際交流センター主催 第2回講演会およびパネルディスカッション

2月16日(火) 第12回 センター教員会議

2月18日(木) 第33期日本語研修コース 「私の専門」スピーチ発表会

2月25日(木) 第13回 センター教員会議

2月26日(金) 第33期日本語研修コース成績判定会議

3月1日(火) 第9回国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会

3月3日(木) 第33期日本語研修コース 修了式

3月14日(月) 第14回 センター教員会議

3月26日(土) 国際交流センター外壁の低圧洗浄

3月31日(木) 第9回富山大学国際交流センター運営委員会

## 外国人留学生と地域との交流状況 2015年度（平成27年度）

No.	行 事 名	期 日	主 催 団 体 名	参加人数 (留学生)
1	新緑の金沢を訪ねよう	5月24日(日)	富山市民国際交流協会	10
2	「ルンビニ園児との田植え体験」	6月6日(土)	富山ライオンズクラブ	4
3	外国人モニターツアー (立山伝統体験)	6月21日(日)	立山町雇用創造協議会	10
4	料理交流会	6月23日(火)	富山市民国際交流協会	1
5	6年外国語活動「ようこそ富山へ」	6月25日(木)	富山大学人間発達科学部附属 小学校	4
6	外国人モニターツアー (立山自然体験)	7月12日(日)	立山町雇用創造協議会	10
7	ゆかた着付け教室	7月26日(日)	富山市民国際交流協会	10
8	富山まつり おわら踊りに参加	8月8日(土)	富山市民国際交流協会	2
9	第28回 JAPAN TENT	8月20日(木) ～26日(水)	JAPAN TENT 開催委員会事務局	5
10	南砺市で日本の伝統文化について 学びましょう！日本語学習キャンプ	9月12日(土) ～13日(日)	南砺市交流観光まちづくり課	15
11	総合学習「留学生へのインタビュー 及びアンケート調査」	10月1日(木)	立山町立雄山中学校	9
12	ワールド フェスタ イン みどり野	10月23日(金)	富山県立新川みどり野高校	2
13	「ルンビニ園児との稲刈り体験」	10月24日(土)	富山ライオンズクラブ	3
14	外国人モニターツアー (立山里山体験)	10月24日(土)	立山町雇用創造協議会	10
15	「産業社会と人間」国際理解講座	10月29日(木)	富山県立富山いずみ高等学校	2
16	民族民芸村で遊ぼう	11月1日(日)	富山市民国際交流協会	12
17	国際交流フェスティバル (各国のブース担当, 踊り, カラオケ)	11月8日(日)	国際交流フェスティバル 2015実行委員会	44
18	外国人モニターツアー (立山曼荼羅ミニ体験)	11月23日(月(祝))	立山町雇用創造協議会	11
19	新春国際交流の集い2016	2016年 1月17日(日)	富山市民国際交流協会	6
20	「外国人留学生と一緒に富山を、日 本を、世界を語ろう」	2月17日(水)	片山学園高等学校	7

## 4. 国際交流センター教員担当業務 (2015年度)

富山大学国際交流センターでは、2015年度において、センター長以下、副センター長2人、専任教員5人の教員体制で、次のような業務を行った。

### 【留学生センター教員】

センター長	近藤 隆 (学長補佐, 医学部兼任)
副センター長	橋爪 和夫 (人間発達科学部兼任)
副センター長	副島 健治 (国際交流センター専任教員)
専任教員	バハウ サイモン ピーター
	濱田 美和
	副島 健治
	田中 信之
	小木曾 左枝子

### 【コースコーディネーター等】

コースコーディネーター	
日本語研修コース	田中 信之
日本語課外補講	小木曾 左枝子
日韓共同理工系学部留学生プログラム	副島 健治
総合日本語コース	濱田 美和

【授業担当】 ㊟：日本語研修コース, ㊟：日本語課外補講, ㊟：総合日本語コース, ㊟：教養教育

	前期	後期
副島 健治	㊟㊟㊟中級「文法 B」(木曜 1 限) ㊟㊟㊟中級「文法 B」(木曜 2 限) ㊟外国語科目「日本語 A1」(金曜 2 限)	㊟㊟中級「文法 B」(木曜 1 限) ㊟㊟中級「文法 B」(木曜 2 限) ㊟外国語科目「日本語 A2」(金曜 2 限)
バハウ サイモン ピーター	㊟初級・中級「日本事情」(水曜 4 限) ㊟教養科目「日本事情II」(木曜 2 限)	㊟初級・中級「日本事情」(水曜 4 限) ㊟教養科目「異文化理解」(木曜 5 限)
濱田 美和	㊟初級「コンピュータ」(火曜 4 限) ㊟初級「特別指導」(月・金曜 4 限) ㊟㊟中級「漢字」(月曜 3 限) ㊟中級「コンピュータ」(木曜 4 限) ㊟㊟上級「表現技術1」(月曜 2 限) ㊟㊟上級「文法 1」(火曜 1 限) ㊟外国語科目「日本語 A1」(火曜 3 限)	㊟初級「コンピュータ A2」(木曜 3 限) ㊟初級「特別指導 A2」(月・金曜 4 限) ㊟中級「漢字 B2」(月曜 3 限) ㊟㊟上級「表現技術 C2」(月曜 2 限) ㊟㊟上級「文法 C2」(木曜 2 限) ㊟総合科目「日本事情 I」(火曜 5 限)
田中 信之	㊟初級「文法」(火曜 1 限) ㊟初級「文法」(火曜 2 限) ㊟初級「コンピュータ」(木曜 3 限) ㊟初級「特別指導」(月・金曜 4 限) ㊟中級「コンピュータ」(火曜 3 限) ㊟中級「作文」(金曜 3 限) ㊟外国語科目「日本語 A1」(金曜 2 限)	㊟初級「文法 A2」(火曜 1 限) ㊟初級「文法 A2」(火曜 2 限) ㊟初級「コンピュータ A2」(火曜 4 限) ㊟初級「特別指導」(月・金曜 4 限) ㊟外国語科目「日本語 A2」(金曜 2 限)

小木曾 左枝子	⑧⑨初級「文字・漢字」(水曜 3 限) ⑧初級「特別指導」(月・金曜 4 限) ⑧⑨初級「会話」(金曜 3 限) ⑧中級「読解」(火曜 4 限) ⑧⑨中級「文法 C」(金曜 1 限) ⑧⑨中級「文法 C」(金曜 2 限) 教外国語科目「日本語 A1」(火曜 3 限)	⑧初級「特別指導 A2」(月・金曜 4 限) ⑧⑨初級「漢字 A2」(水曜 3 限) ⑧⑨初級「会話 A2」(金曜 3 限) ⑧⑨中級「文法 B2」(金曜 1 限) ⑧⑨中級「文法 B2」(金曜 2 限) 教外国語科目「日本語 B4」(火曜 2 限)
---------	---	--

【留学生指導および留学準備にかかるコンサルテーション等】

	前期	後期
バハウ サイモン ピーター	コンサルテーション (水曜 3 限) 留学用英語サポートクラス (火曜 3 限) (火曜 4 限)	コンサルテーション (水曜 2 限) (木曜 2 限)

【学内委員等】

国際戦略本部会議  
 大学改革推進本部国際交流部会  
 国際交流センター運営委員会

五福キャンパス教養教育実施専門委員会  
 五福キャンパス教養教育 FD 専門委員会  
 国際交流センター運営委員会留学生奨学金等専門委員会  
 同 五福キャンパス部会  
 国際交流センター運営委員会海外留学支援専門委員会

教養教育総合科目「人生と職業」WG  
 日本語・日本文化研修留学生プログラム検討 WG  
 日韓共同理工学部留学生事業受入れ方法検討 WG

環境推進員  
 TOEFL 等対策検討 WG

交換留学 WG

短期派遣留学プログラム WG

富山大学生生活協同組合理事会

近藤 隆 (副本部長)  
 近藤 隆 (副分科会長)  
 近藤 隆 (委員長)  
 橋爪 和夫  
 副島 健治  
 濱田 美和  
 バハウ サイモン ピーター  
 濱田 美和  
 田中 信之  
 副島 健治 (委員長)  
 副島 健治 (委員長)  
 橋爪 和夫 (委員長)  
 バハウ サイモン ピーター  
 濱田 美和  
 濱田 美和  
 副島 健治  
 バハウ サイモン ピーター  
 小木曾 左枝子  
 バハウ サイモン ピーター  
 小木曾 左枝子  
 副島 健治  
 バハウ サイモン ピーター  
 小木曾 左枝子  
 副島 健治  
 バハウ サイモン ピーター  
 小木曾 左枝子  
 バハウ サイモン ピーター (理事)

【その他業務分担】

国際交流センター紀要  
 国際交流センターニュース  
 日本語研修コース報告書『らいちょう』  
 国際交流センターホームページ

副島 健治  
 バハウ サイモン ピーター  
 田中 信之  
 副島 健治





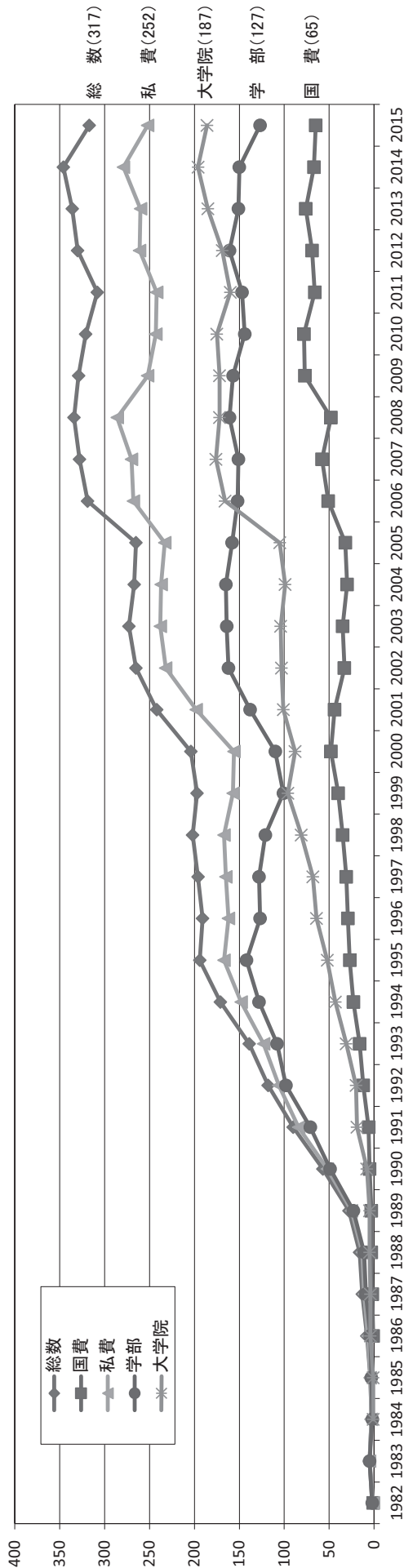
# Ⅲ 資料

- 1 富山大学における年度別外国人留学生数の推移
- 2 富山大学在籍外国人留学生数
- 3 富山大学国際交流センター規則
- 4 富山大学国際交流センター紀要投稿要項



富山大学における年度別外国人留学生数の推移

資料 1



	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
総数	2	5	3	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197	204	242	265	273	267	265	319	328	334	329	321	308	330	336	346	317
国費	1				1	2	3	3	5	6	12	16	23	27	29	31	35	40	48	44	33	35	30	32	51	58	48	77	78	66	69	76	67	65
私費	1	5	3	4	7	11	13	25	52	84	106	123	148	167	162	165	167	157	156	198	232	238	237	233	268	270	286	252	243	242	261	260	279	252
学部	2	5	2	3	4	9	11	23	49	71	98	108	128	142	127	128	121	101	110	138	162	164	165	158	152	151	161	157	144	147	161	151	150	127
大学院			1	1	4	4	5	5	8	19	20	31	43	52	64	68	81	96	88	101	103	104	99	105	166	176	172	172	175	160	169	185	196	187
センター																				6	3		5	3	2	1	1	1	2	1				3

(毎年5月1日現在)

※2005年10月に旧富山大学（現五福キャンパス）、富山医科大学（現杉谷キャンパス）、高岡短期大学（現高岡キャンパス）の3大学が統合して現在の富山大学となった。  
2005年度までは旧富山大学のデータである。  
※外国政府派遣と県費は国費に含めた。センターは留学生センター（現国際交流センター）所属の予備教育生を示す。

## 資料 2

### 富山大学在籍外国人留学生数（2015年度）

#### 1. 部局

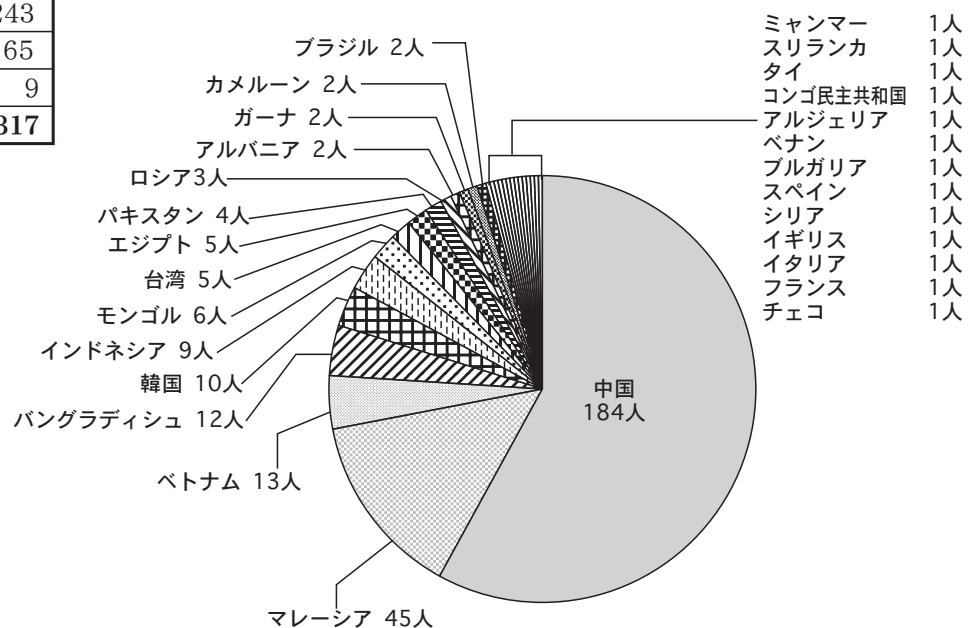
2015年5月1日現在

		正規生				非正規生				合計
		国費	外国政府	私費	小計	国費	県費	私費	小計	計
学部	人文学部			10	10	6	1	6	13	23
	人間発達科学部			4	4			4	4	8
	経済学部		2	6	8			10	10	18
	理学部			6	6			2	2	8
	医学部					1	1	1	2	2
	薬学部									
	工学部		31	27	58			3	3	61
	芸術文化学部	2		4	6			1	1	7
	小計	2	33	57	92	6	2	27	35	127
大学院 (修士・前期)	人文科学研究科			3	3			3	3	6
	人間発達科学研究科	1		1	2	3			3	5
	経済学研究科			25	25			4	4	29
	医学薬学教育部	1		16	17					17
	理工学教育部(理学系)			4	4			1	1	5
	理工学教育部(工学系)			26	26			1	1	27
	芸術文化学研究科			1	1			1	1	2
	小計	2		76	78	3		10	13	91
大学院 (博士・後期)	医学薬学教育部	3		23	26			1	1	27
	生命融合科学教育部(五福)	1		3	4					4
	生命融合科学教育部(杉谷)	4		15	19					19
	理工学教育部(理学系)	3		4	7					7
	理工学教育部(工学系)	3		35	38			1	1	39
	小計	14		80	94			2	2	96
国際交流センター						3			3	3
和漢医薬総合研究所										
合計		18	33	213	264	12	2	39	53	317

#### 2. キャンパス別

五福キャンパス	243
杉谷キャンパス	65
高岡キャンパス	9
合計	317

#### 3. 国・地域別（計27ヶ国・地域）



富山大学国際交流センター規則

平成25年 9 月24日制定

平成26年 6 月24日改正

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学学則第12条第2項の規定に基づき、富山大学国際交流センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、富山大学（以下「本学」という。）の外国人留学生の受入れ及び学生の海外留学に関わる教育・支援を推進し、国際社会で活躍する人材の育成に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生の受入・支援に関すること。
- (2) 学生の海外留学の支援に関すること。
- (3) 海外学術交流協定校との学生交流に関する連絡・調整
- (4) 外国人留学生と日本人学生の交流推進に関すること。
- (5) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
- (6) 外国人留学生のキャリア支援及び就職支援に関すること。
- (7) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
- (8) 国際交流に関する調査及び研究
- (9) その他センターの目的達成に必要な事項

(部門及び専門部会)

第4条 前条の業務を遂行するため、センターに次に掲げる部門を置く。

- (1) 留学受入支援部門
- (2) 留学派遣支援部門

2 前条の業務のうち特定の業務を遂行するため、センターに専門部会を置くことができる。

(職員)

第5条 センターに次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 協力教員
- (6) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長は、学長が指名した者をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、当該センター長を指名する学長の任期の末日を超えることができない。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長の推薦に基づき、学長が命ずる。



- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときはその職務を代行する。
- 3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該副センター長を推薦するセンター長の任期の末日を超えることができない。
- 4 副センター長に欠員が生じた場合、後任の副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 専任教員は、センターの業務に従事する。

- 2 専任教員の選考については、別に定める。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、所属長及び本人の承諾を得て、学長が命ずる。

- 2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 兼任教員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(協力教員)

第10条 協力教員は、所属長の推薦に基づき、本人の承諾を得て、センター長が指名する。

- 2 協力教員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 協力教員は、センターの業務を助ける。

(運営委員会)

第11条 センターに、センターの管理運営に関する事項を審議するため、富山大学国際交流センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(日本語・日本事情教育プログラム)

第12条 センターは、外国人留学生の予備教育等に必要な日本語・日本事情教育プログラムの実施及び運営を行う。

- 2 日本語・日本事情教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、学務部学生支援課において処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経てセンター長が定める。

## 附 則

- 1 この規則は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 富山大学留学生センター規則（平成17年10月1日制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に指名されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。
- 4 この規則施行後、最初に指名される副センター長の任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

## 附 則

この規則は、平成26年7月1日から施行する。

## 富山大学国際交流センター紀要投稿要項

### 1 目的

富山大学国際交流センター（以下「センター」という。）は、日本語・日本事情教育，異文化教育，留学生教育，国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文，研究資料等を発表するため，富山大学国際交流センター紀要（以下「センター紀要」という。）を発行する。

### 2 執筆者の資格

- （１）センターの専任教員及び非常勤講師，各学部の留学生担当教員とする。
- （２）編集委員会が特に認めた者
- （３）（１）（２）の者が筆頭著者となっている共著者については，制限しない。

### 3 原稿の内容

- （１）投稿原稿は，未発表のものとする。
- （２）原稿の種目は，論文，研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言，史・資料の紹介及び考察，又は萌芽的研究を記したものを指す。），研究資料（実践記録・調査結果，既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。），実践・調査報告，書評のいずれかとする。

### 4 原稿の長さ

原稿の長さは，１篇につき，図・表・写真等を含め，原則として刷り上がり20ページ以内とする。

### 5 原稿の体裁

富山大学国際交流センター紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って，記述する。

### 6 編集委員会

センター紀要編集のため，センター長を委員長とした編集委員会を置く。

### 7 投稿手続き

- （１）投稿カードに所定の事項を記入のうえ，原稿とともにセンター長に提出し，原稿受領書を受け取る。
- （２）提出された年月日をもって，受付年月日とする。
- （３）原稿提出締切日は，別途定める。

### 8 原稿の採否

論文等の採否は，本要項及び執筆要領に基づいて，編集委員会が決定する。

### 9 発行回数

原則として，年１回とする。

### 10 その他

- （１）別刷は，１篇につき30部以内とする。30部を超える場合は，実費負担とする。
- （２）掲載された論文等の二次利用は，編集委員会に委ねるものとする。ただし，著者は自由に利用できるものとする。

### 付記

本要項の実施は，センター紀要第１号の執筆時から適用する。

---

## 執筆者一覧

---

浅津 嘉之	同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師
アハマド M. F. M. ラハミー	カイロ大学文学部教授
小木曾 左枝子	富山大学国際交流センター准教授
副島 健治	富山大学国際交流センター教授
高島 智美	富山大学国際交流センター非常勤講師
田中 信之	富山大学国際交流センター准教授
バハウ サイモン ピーター	富山大学国際交流センター教授
濱田 美和	富山大学国際交流センター教授

---

### 富山大学国際交流センター紀要 第3号

---

発行年月 / 2016年12月

編集・発行 / 国立大学法人 富山大学 国際交流センター

〒930-8555 富山県富山市五福3190

印刷所 / 中央印刷㈱

# Journal of Center for International Education and Research University of Toyama

Vol.3  
December 2016

## Contents

### I Research Papers

《Special Contribution》

AHMED.M.F.M.RAHMY

“Pitted and Cheered Yoshitsune” and “the Martyr Alhussain”:

Differences of View Points between

Japanese and Shiites Regarding their Tragic Ends ..... 1

TANAKA Nobuyuki, ASAZU Yoshiyuki

Writing Workshop in Japanese Language Course for International Students ..... 9

HAMADA Miwa, TAKABATAKE Tomomi

The Development of Kanji Learning Materials Using Worksheets,  
Flashcards and Tablet Computers: Aiming for the encouragement of  
active group work activities among learners of Japanese ..... 25

### II Annual Reports (April 2015 – March 2016)

1. Advisory, Acceptance and Study Abroad Support ..... 35

2. Japanese Language Program ..... 44

Intensive Japanese Program ..... 45

Extra-curricular Japanese Language Program ..... 56

General Japanese Language Course ..... 76

Japan-Korea Cooperative Program for Science and Engineering Students ..... 83

Japanese Language Support Site RAICHO ..... 85

3. Schedules ..... 86

4. List of Staff and the Responsibility of CIER ..... 90

### III Data ..... 93

Center for International Education and Research (CIER)  
University of Toyama 3190 Gofuku, Toyama 930-8555 JAPAN

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。